

令和4年度
東京都がんに関する医療施設等実態調査
(小児・AYA世代の診療に関する実態調査)
報告書

令和5年3月
東京都福祉保健局

目次

第1章 調査概要	3
1. 調査概要	3
① 調査目的	3
② 対象	3
③ 実施方法	3
2. 回収結果	4
3. その他	4
① 用語の定義	4
② 留意事項	4
第2章 調査結果（単純集計）	5
1. 【A1-2】全指定病院 がん診療責任者	5
① 基本情報	5
② 長期フォローアップ	6
③ AYA世代がん患者への診療・支援	11
④ がん・生殖医療	16
⑤ AYA世代がん患者の療養環境	26
2. 【A3】全指定病院 相談支援センター	36
① 基本情報	36
② AYA世代がん患者への介護サービス	39
3. 【D1】Aを除く都内病院 がん診療責任者	40
① 基本情報	40
② AYA世代がん患者の療養環境	41
4. 【D2】Aを除く都内病院 相談支援センター／患者相談窓口	46
① 基本情報	46
② AYA世代がん患者への介護サービス	49
5. 【E1-2】診療所（在宅療養支援診療所） 施設代表者	50
① AYA世代がん患者の療養環境	50
② AYA世代がん患者への介護サービス	56
6. 【F1】生殖機能温存治療指定医療機関	57
① がん・生殖医療	57
第3章 課題の整理	58
1. AYA世代がん患者に対する診療について	58
① AYA世代がん患者の診療	58
② 長期フォローアップ	63
2. AYA世代がん患者に対応するための院内の体制について	69
3. AYA世代がん患者への生活面への支援や、在宅医療・療養環境の改善について	71

4. AYA世代がん患者へのがん・生殖医療について.....	81
① がん・生殖医療の連携.....	81
② 情報提供.....	84
③ 意思決定支援.....	87
④ がん・生殖医療に係る今後必要な取組.....	90

第1章 調査概要

1. 調査概要

① 調査目的

「東京都がん対策推進計画」の第三次改定にあたり、国の「第4期がん対策推進基本計画（案）」にて示されている分野ごとに今後の取組課題の検討及び当該課題の背景分析を行うため、「東京都がんに関する医療施設等実態調査」を実施した。

本調査は、上記「東京都がんに関する医療施設等実態調査」の一環として、東京都内のAYA世代（15～39歳）のがん患者への医療や相談支援等に関する現状と課題に関する調査を通じて、今後東京都においてがん対策を推進するに当たって必要な取組や課題を明らかにし、がん対策の推進に向けた検討資料として活用することを目的として実施した。

② 対象

調査	対象施設	回答者
A1-2	【A】全指定病院 ¹	がん診療責任者
A3	【A】全指定病院	相談支援センター
D1	【D】Aを除く都内病院	がん診療責任者
D2	【D】Aを除く都内病院	相談支援センター／患者相談窓口
E1-2	【E】診療所（在宅療養支援診療所）	施設代表者
F1	【F】生殖機能温存治療指定医療機関 ²	－

③ 実施方法

調査はいずれもWEBフォーム（Google Form）上での回答によるWEB調査とした。

調査期間は、令和5年1月17日（火曜日）から1月31日（火曜日）までとした。

¹ 全指定病院とは、都内に所在する病院のうち、国立がん研究センター中央病院、がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院、東京都がん診療連携拠点病院、東京都がん診療連携協力病院、小児がん拠点病院、東京都小児がん診療病院の各指定・認定を受けている病院を指す。

² 生殖機能温存治療指定医療機関とは、東京都若年がん患者等生殖機能温存治療費助成事業に係る指定医療機関が該当する。

2. 回収結果

調査	対象施設	配布数	回収数	回収率
A1-2	【A】全指定病院	58	46	79.3%
A3	【A】全指定病院	58	52	89.6%
D1	【D】Aを除く都内病院	520	61	11.7%
D2	【D】Aを除く都内病院	520	74	14.2%
E1-2	【E】診療所（在宅療養支援診療所）	1,525	236	15.4%
F1	【F】生殖機能温存治療指定医療機関	23	15	65.2%

3. その他

① 用語の定義

A Y A : Adolescent and Young Adult の略称。思春期及び若年成人。厚生労働省「小児がん拠点病院等の指定要件の見直しに関する報告書」ではA Y A世代を「15～39歳のがん患者」として想定しているが、「患者に対する医療・支援を提供する場面においては、機械的に年齢で区分されるべきものではなく、患者のニーズを踏まえて、必要な医療・支援が適切に提供されるべきものであることに留意する必要がある」としている。なお、調査票上は、「A Y A世代」とは「15～39歳」と定義した。

生殖機能の温存：がん治療の副作用で生殖機能が失われることがないように、治療開始前に精子や卵子を採取・保存したり、人工授精によって受精させた受精卵を保存すること。

小児慢性特定疾病医療費助成制度：小児慢性特定疾病に指定された疾病にかかっている児童等について、健全育成の観点から、患児家庭の医療費の負担軽減を図るため、その医療費の自己負担分の一部が助成される制度。

② 留意事項

単数回答の回答割合の合計は、四捨五入の関係で見かけ上の数字の合計が100%にならない場合がある。

第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

第2章 調査結果（単純集計）

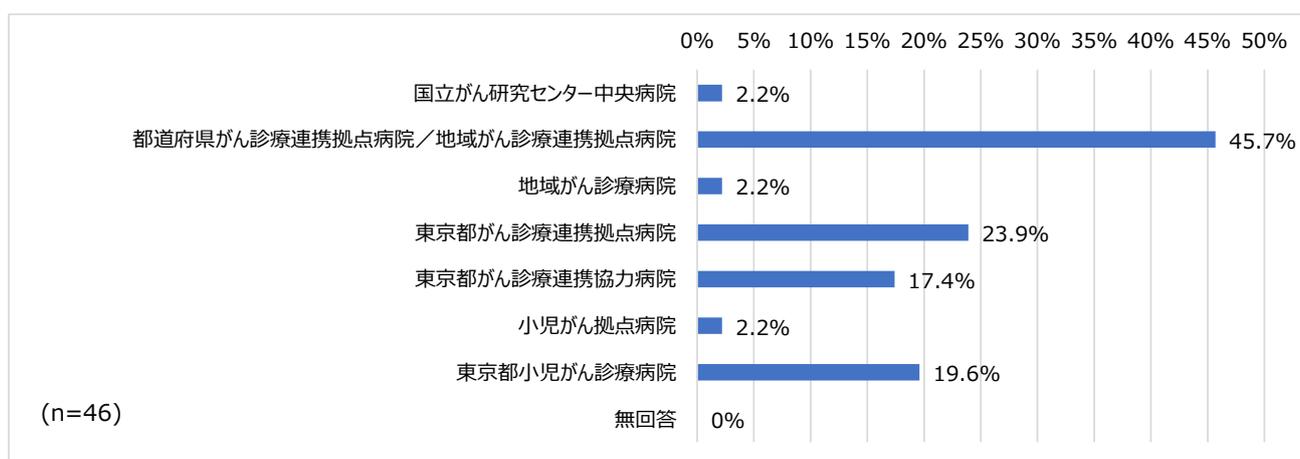
1. 【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

① 基本情報

問1 次のうち、どちらの指定・認定を受けていますか。あてはまるものを全て選択してください。

回答した病院は、「都道府県がん診療連携拠点病院／地域がん診療連携拠点病院」が45.7%と最も多く、次いで「東京都がん診療連携拠点病院」が23.9%であった。

図表 1 回答した病院の指定・認定種別



第2章 調査結果（単純集計）

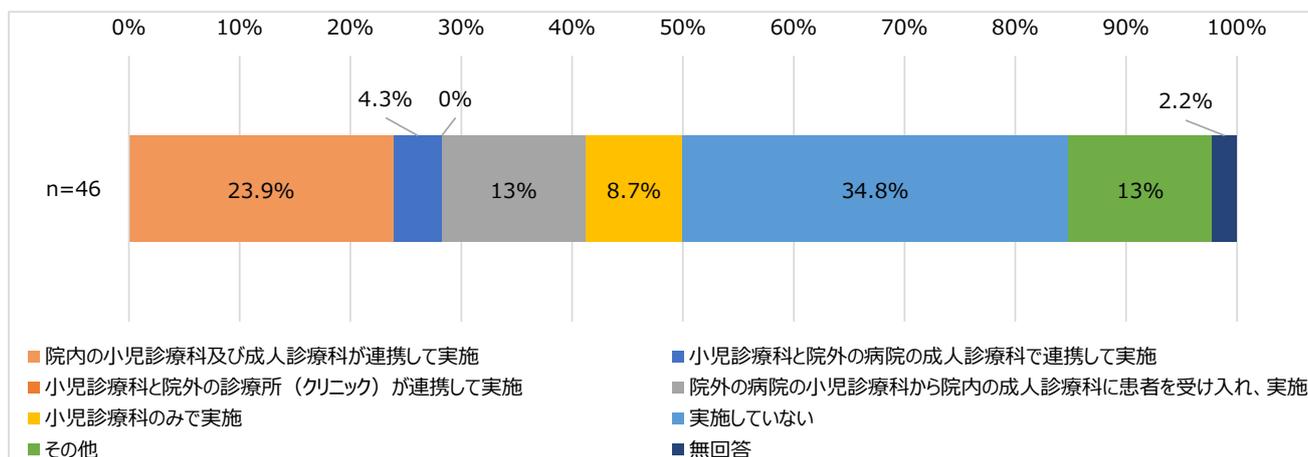
【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

② 長期フォローアップ

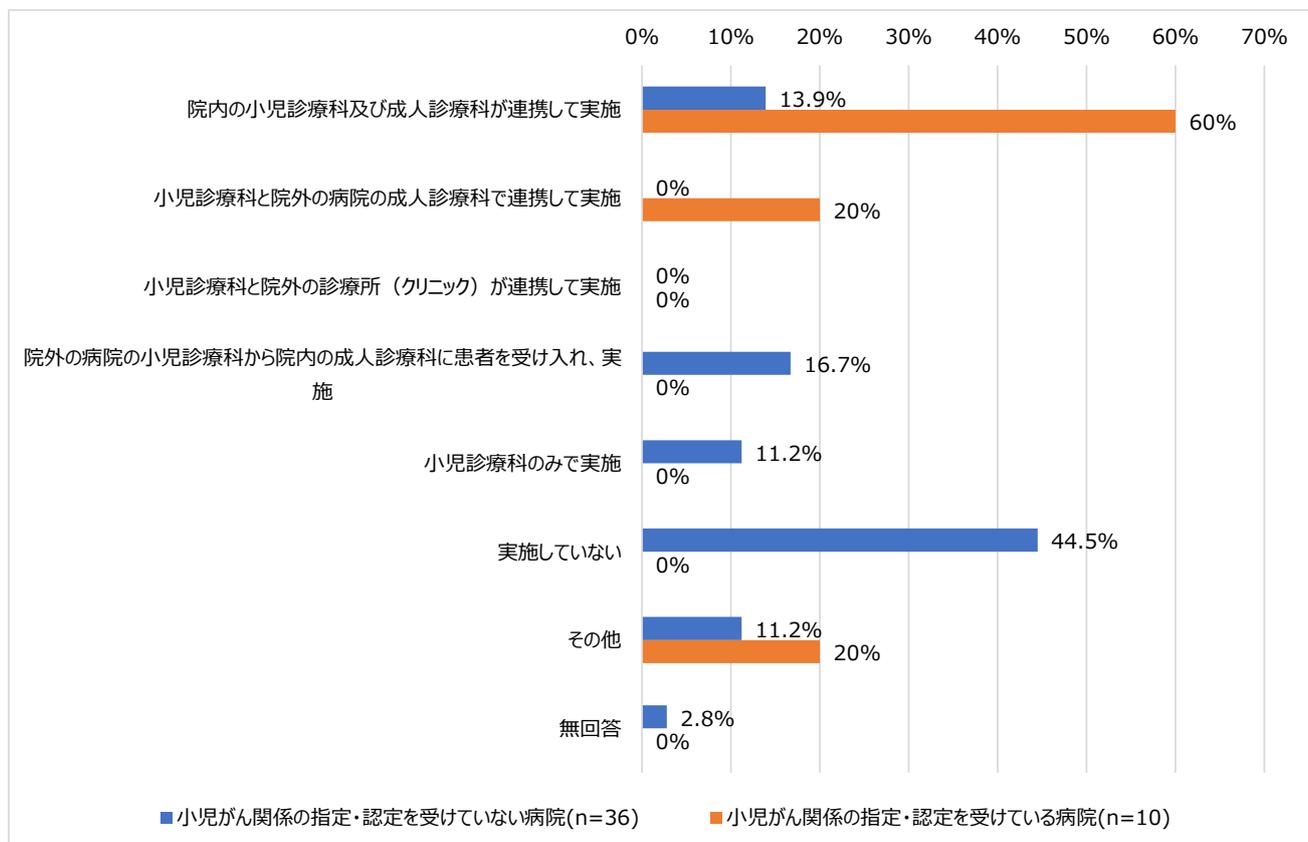
問2 成人後の長期フォローアップの実施状況及びその実施方法について教えてください。

成人後の長期フォローアップの実施状況及びその実施方法は、「実施していない」が34.8%と最も多く、次いで「院内の小児診療科及び成人診療科が連携して実施」が23.9%であった。

図表 2 成人後の長期フォローアップの実施状況及びその実施方法



図表 3 成人後の長期フォローアップの実施状況及びその実施方法【指定・認定状況別】



第2章 調査結果（単純集計）

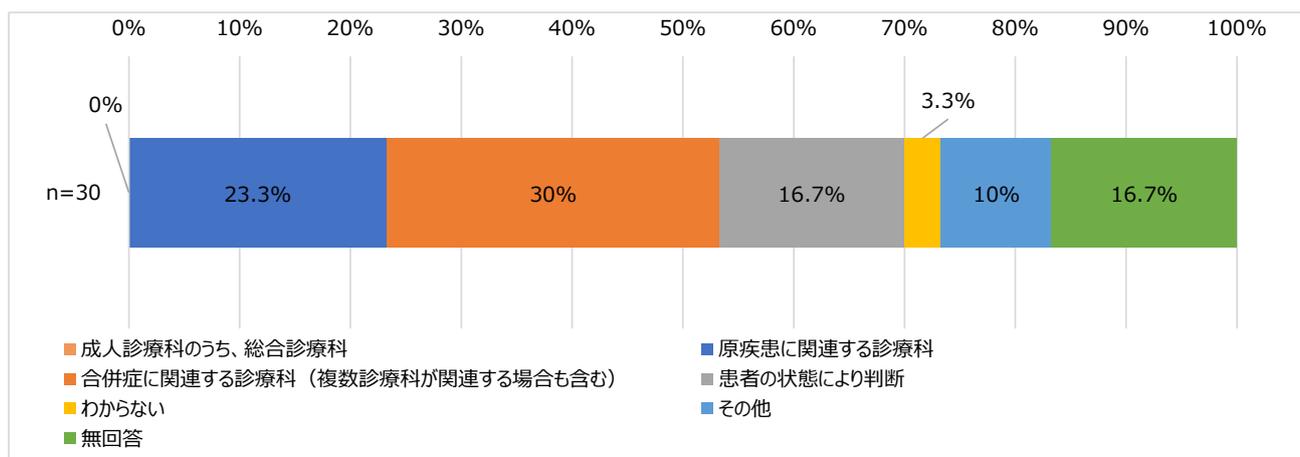
【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

問3 長期フォローアップを院内の成人診療科が行っている場合、どこの診療科で実施していますか。

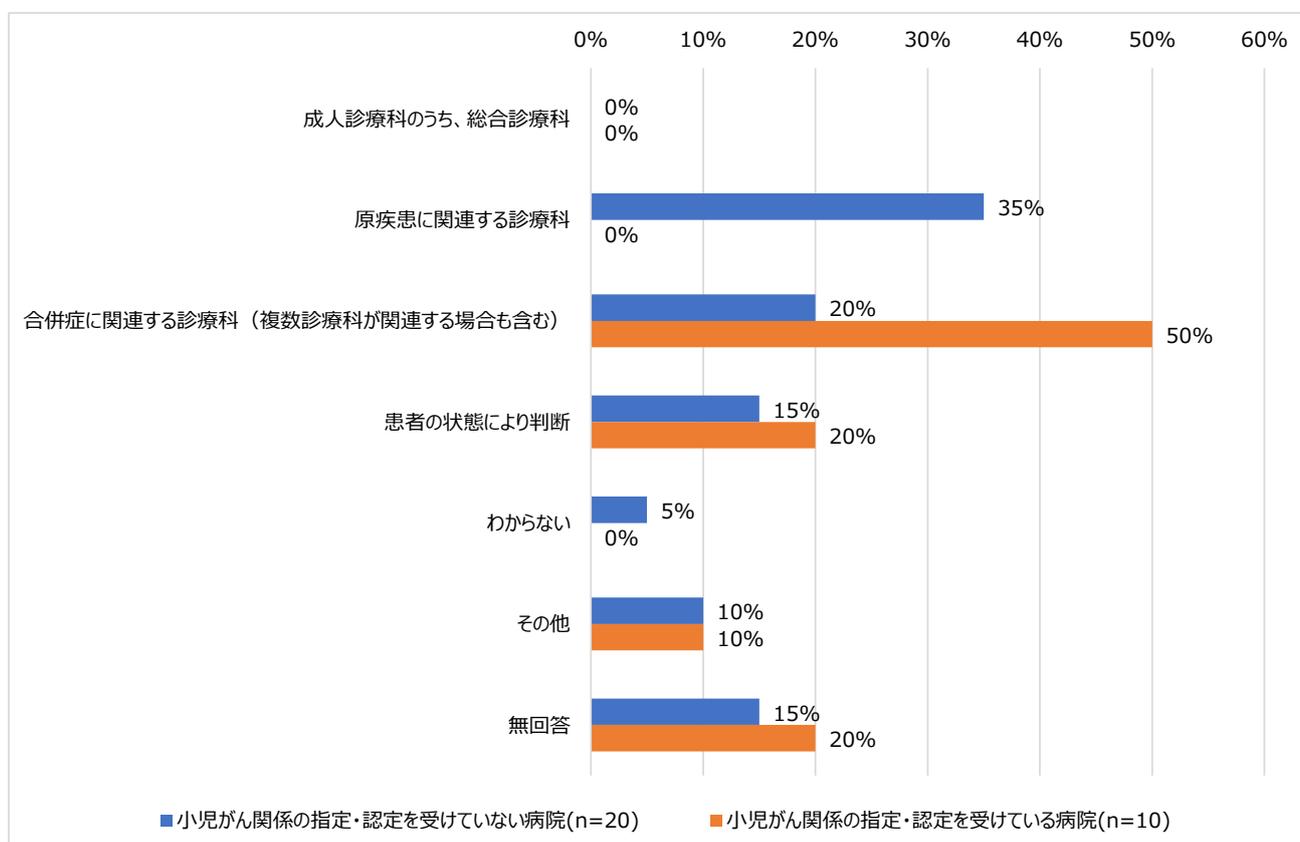
長期フォローアップを院内の成人診療科が行っている場合の診療科は、「合併症に関連する診療科（複数診療科が関連する場合も含む）」が30%と最も多く、次いで「原疾患に関連する診療科」が23.3%であった。

【※問2において「長期フォローアップを実施していない」と回答した者を除いて集計】

図表 4 長期フォローアップを院内の成人診療科が行っている場合の診療科



図表 5 長期フォローアップを院内の成人診療科が行っている場合の診療科【指定・認定状況別】



第2章 調査結果（単純集計）

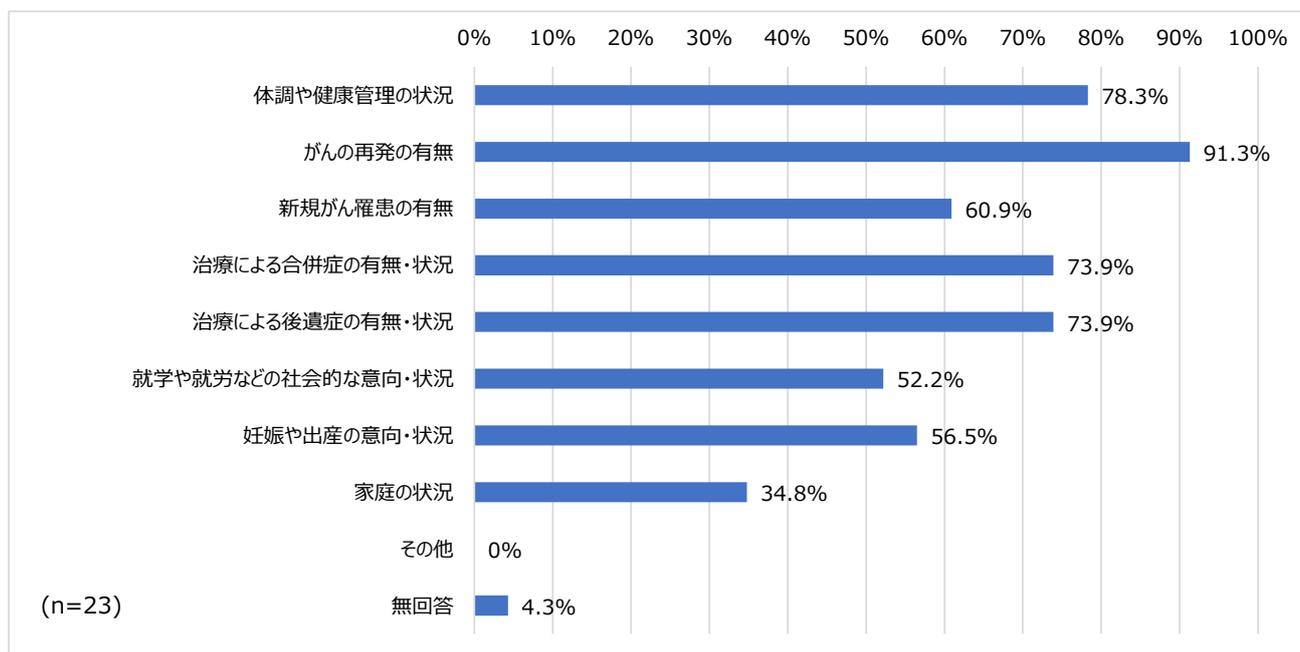
【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

問4 長期フォローアップを実施している場合（2で 01~05 を選択した場合）、治療終了後、定期的なフォローアップとしてどのようなことをしていますか（当てはまるものを全て選択してください）。

長期フォローアップを実施していると回答した場合のフォローアップの内容は、「がんの再発の有無」が91.3%と最も多く、次いで「体調や健康管理の状況」が78.3%であった。

【※問2において「長期フォローアップを実施していない」と回答した者を除いて集計】

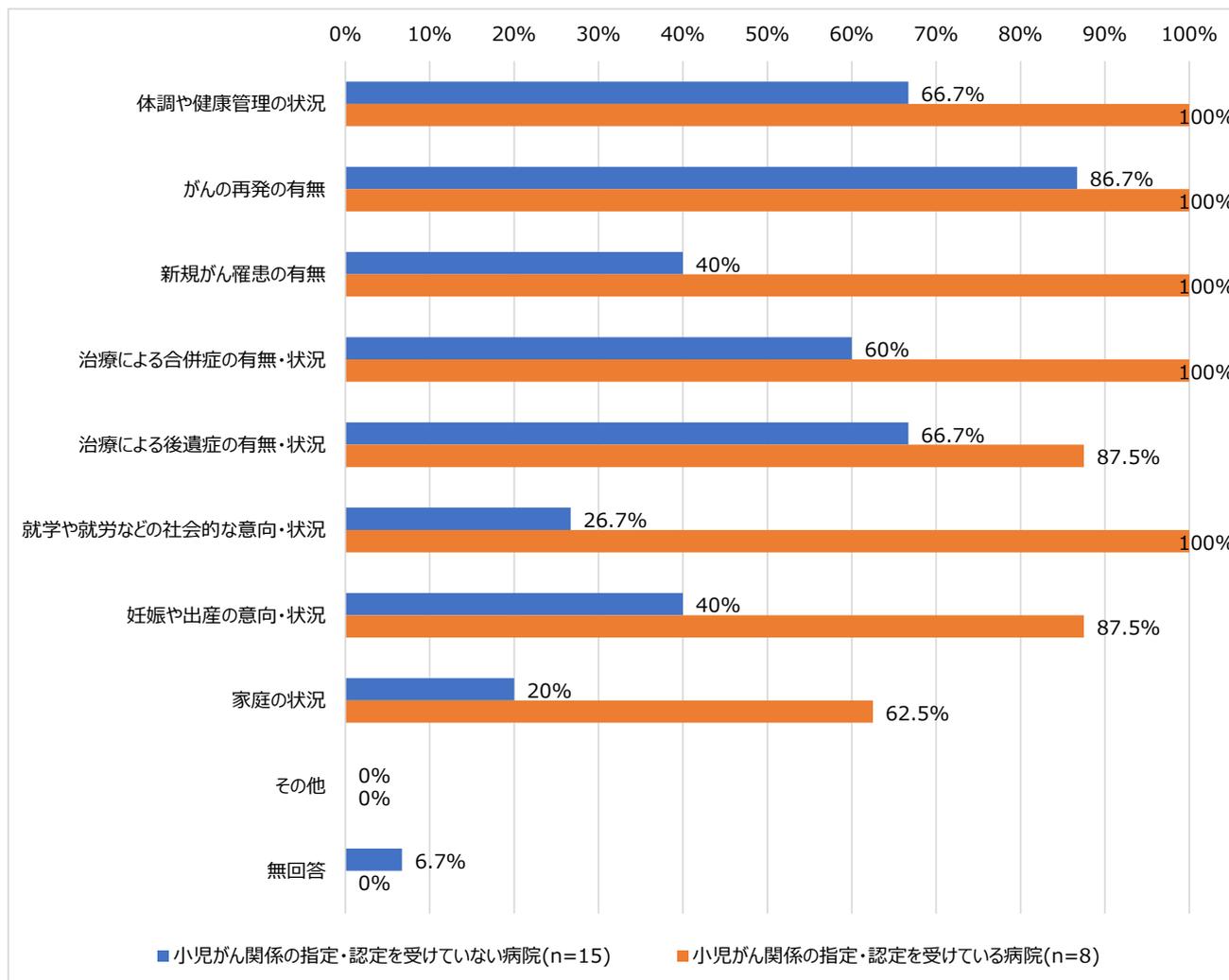
図表 6 治療終了後の定期的なフォローアップの内容



第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

図表 7 治療終了後の定期的なフォローアップの内容【指定・認定状況別】



第2章 調査結果（単純集計）

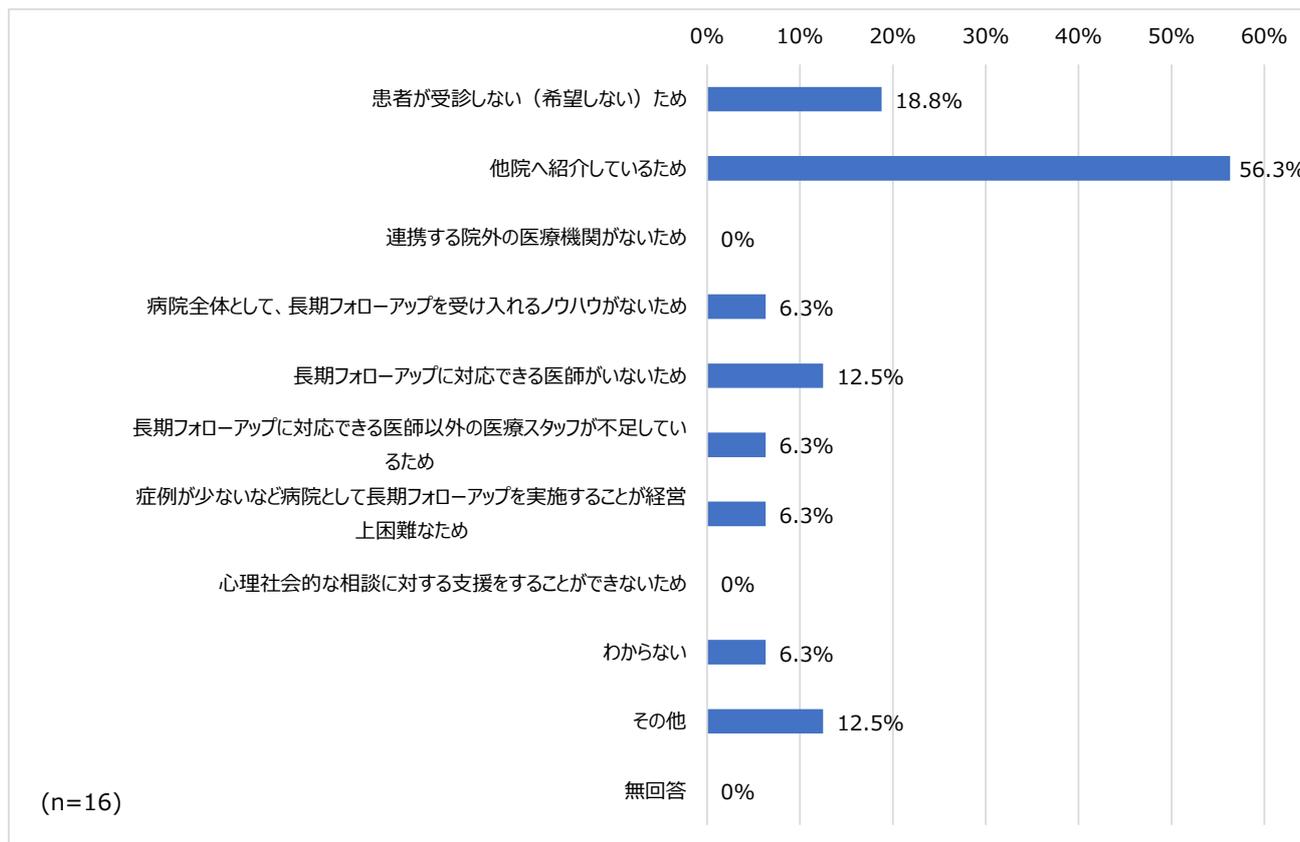
【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

問5 長期フォローアップを実施していない場合（2で06を選択した場合）、その理由は何ですか（当てはまるものを全て選択してください）。

「長期フォローアップを実施していない」と回答した場合の理由は、「他院へ紹介しているため」が56.3%と最も多く、次いで「患者が受診しない（希望しない）ため」が18.8%であった。

【※問2において「長期フォローアップを実施していない」と回答した者を対象に集計】

図表 8 長期フォローアップを実施していない理由



第2章 調査結果（単純集計）

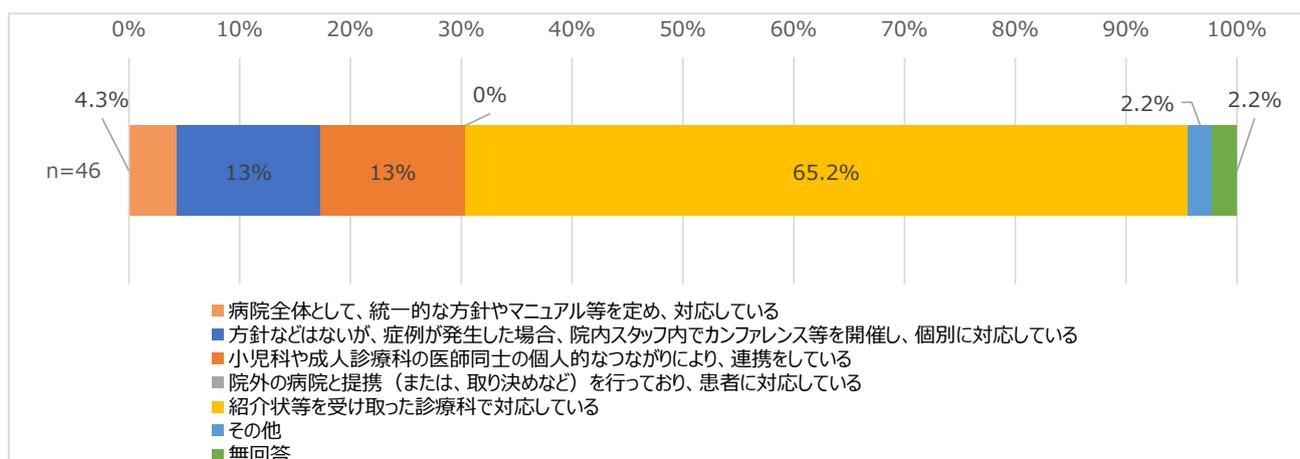
【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

③ AYA世代がん患者への診療・支援

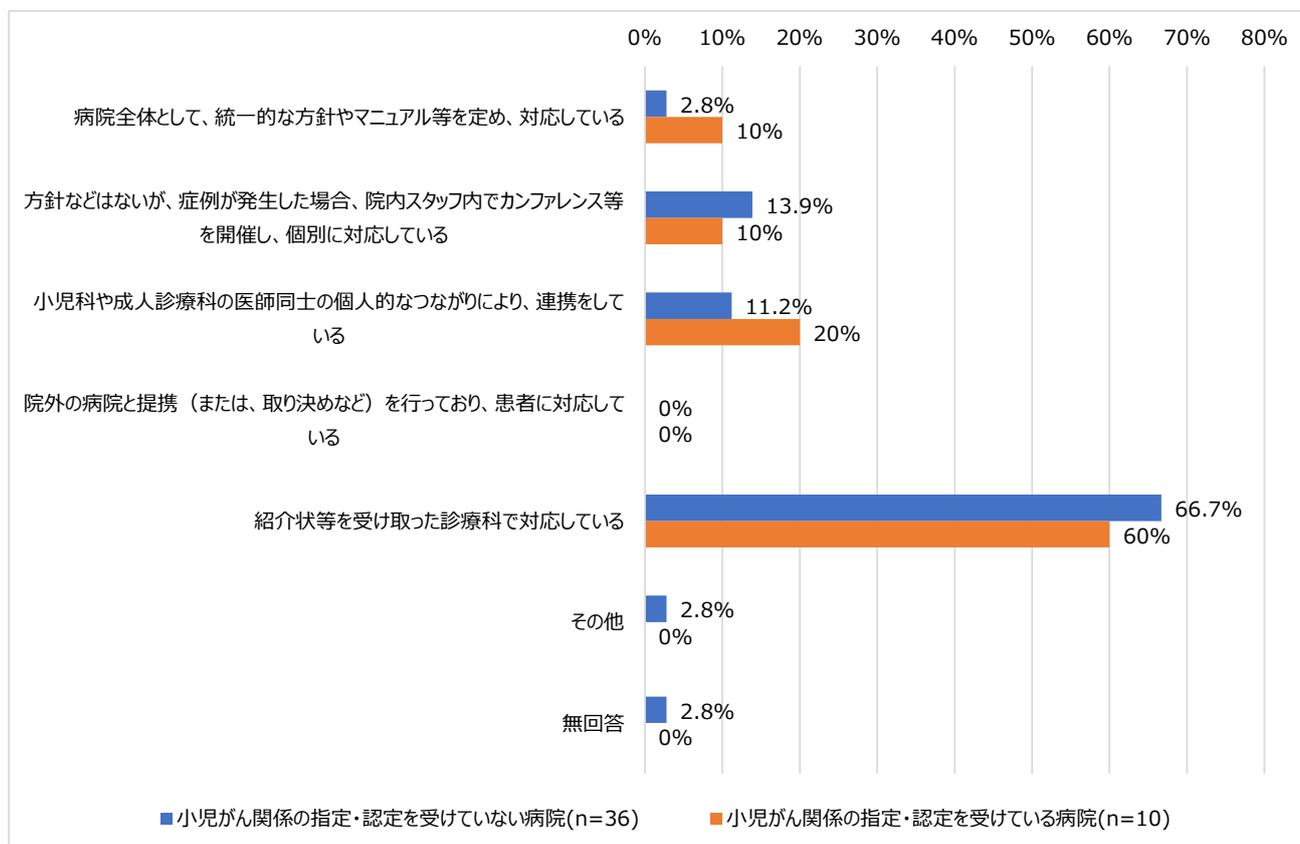
問6 AYA世代がん患者を受け入れる（診療する）際、診療科はどのように決めていますか。

AYA世代がん患者を受け入れる（診療する）際の診療科の決定方法は、「紹介状等を受け取った診療科で対応している」が65.2%と最も多く、次いで「方針などはないが、症例が発生した場合、院内スタッフ内でカンファレンス等を開催し、個別に対応している」「小児科や成人診療科の医師同士の個人的なつながりにより、連携をしている」「小児科や成人診療科の医師同士の個人的なつながりにより、連携をしている」がそれぞれ13%であった。

図表 9 AYA世代がん患者を受け入れる（診療する）際の診療科の決定方法



図表 10 AYA世代がん患者を受け入れる（診療する）際の診療科の決定方法【指定・認定状況別】



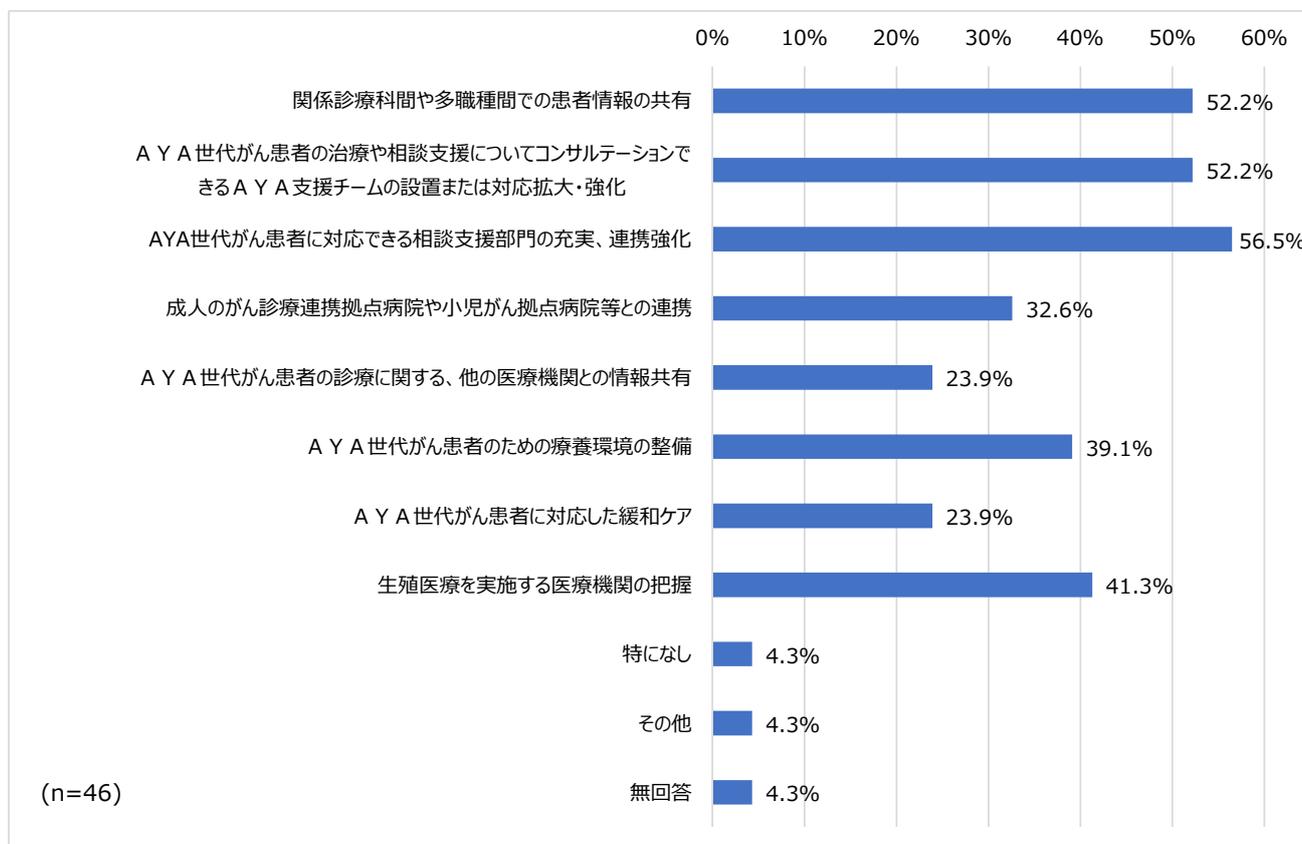
第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

問7 AYA世代のがん患者の診察を行うに当たり、貴院において今後充実することが必要だと考える取組は何ですか（当てはまるものを全て選択してください）。

AYA世代のがん患者の診察を行うに当たり、今後充実することが必要だと考える取組は、「AYA世代がん患者に対応できる相談支援部門の充実、連携強化」が56.5%と最も多く、次いで「関係診療科間や多職種間での患者情報の共有」「AYA世代がん患者の治療や相談支援についてコンサルテーションできるAYA支援チームの設置または対応拡大・強化」がそれぞれ52.2%であった。

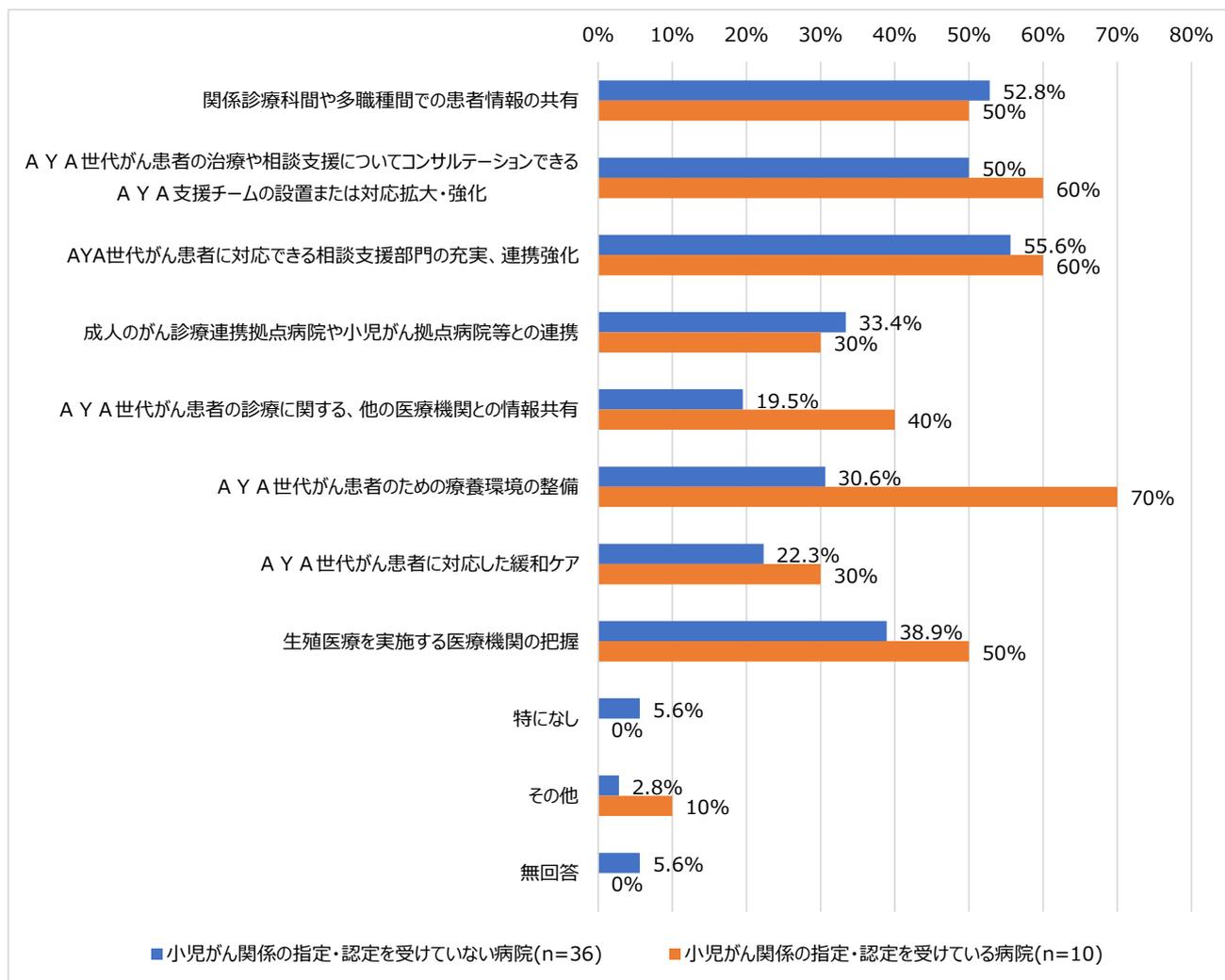
図表 11 AYA世代のがん患者の診察を行うに当たり、今後充実することが必要だと考える取組



第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

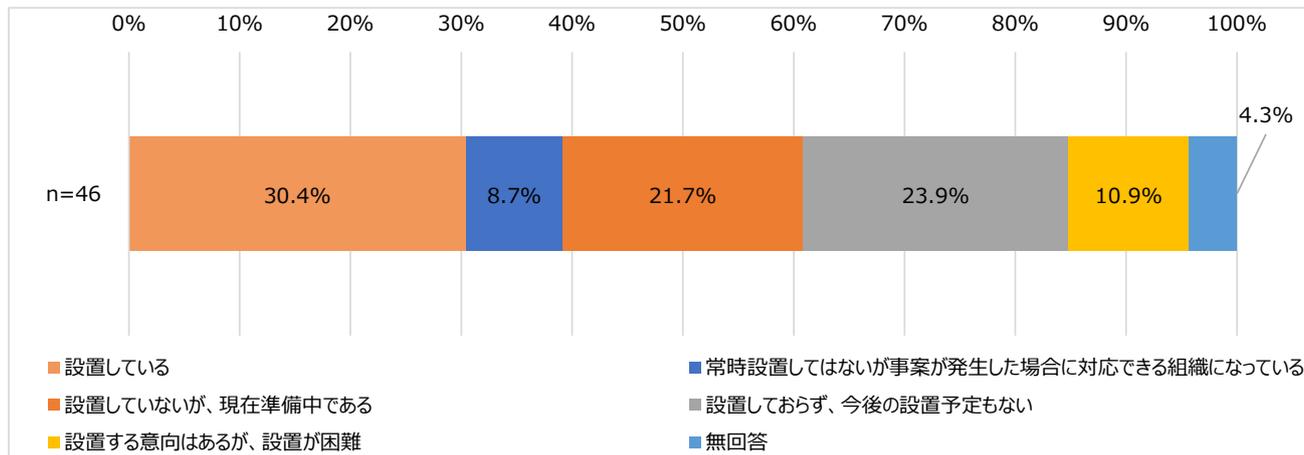
図表 12 AYA世代がんのがん患者の診察を行うに当たり、今後充実することが必要だと考える取組【指定・認定状況別】



問8 AYA世代のがん患者のためのAYA支援チームを設置していますか。

AYA世代のがん患者のためのAYA支援チーム設置状況は、「設置している」が30.4%と最も多く、次いで「設置しておらず、今後の設置予定もない」が23.9%であった。

図表 13 AYA支援チーム設置状況



第2章 調査結果（単純集計）

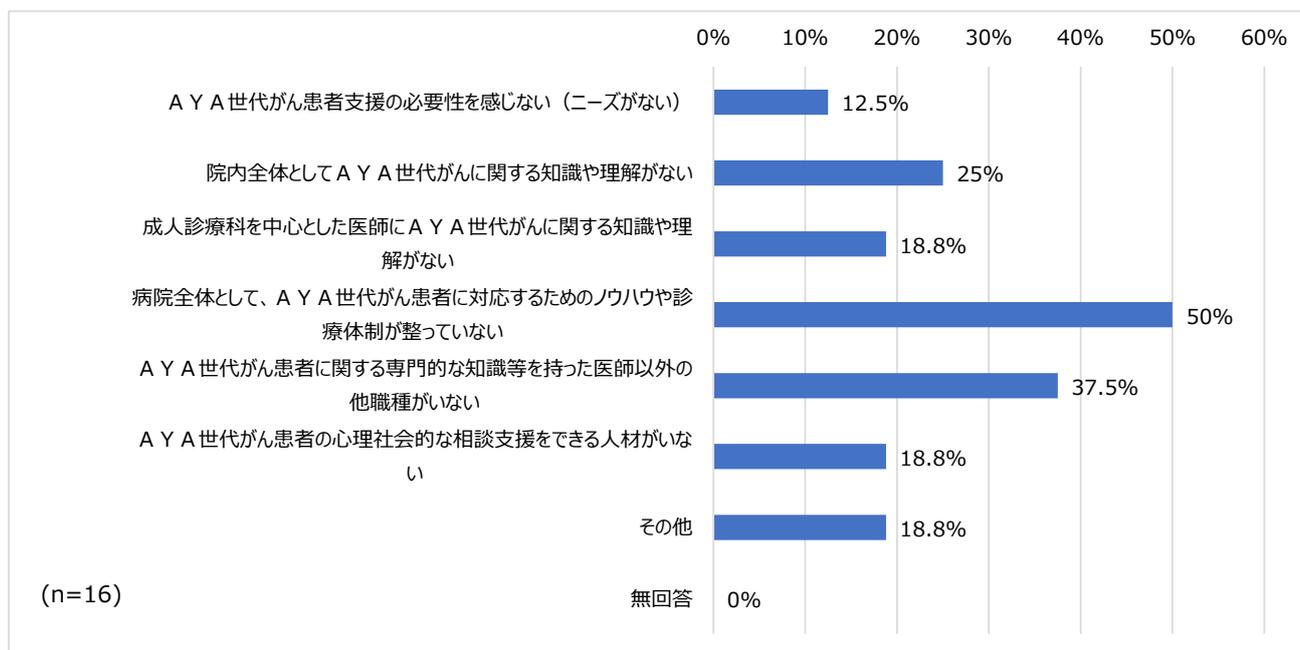
【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

問9 【上記8で04及び05を選択した場合】AYA世代のがん患者のためのAYA支援チーム設置ができない(していない)理由は何ですか（当てはまるものを全て選択してください）。

問8において「設置しておらず、今後の設置予定もない」又は「設置する意向はあるが、設置が困難」と回答した場合の、AYA支援チーム設置をできない(していない)理由は、「病院全体として、AYA世代がん患者に対応するためのノウハウや診療体制が整っていない」が50%と最も多く、次いで「AYA世代がん患者に関する専門的な知識等を持った医師以外の他職種がない」が37.5%であった。

【※問8において「設置しておらず、今後の設置予定もない」又は「設置する意向はあるが、設置が困難」と回答した者を対象に集計】

図表 14 AYA支援チーム設置ができない(していない)理由



第2章 調査結果（単純集計）

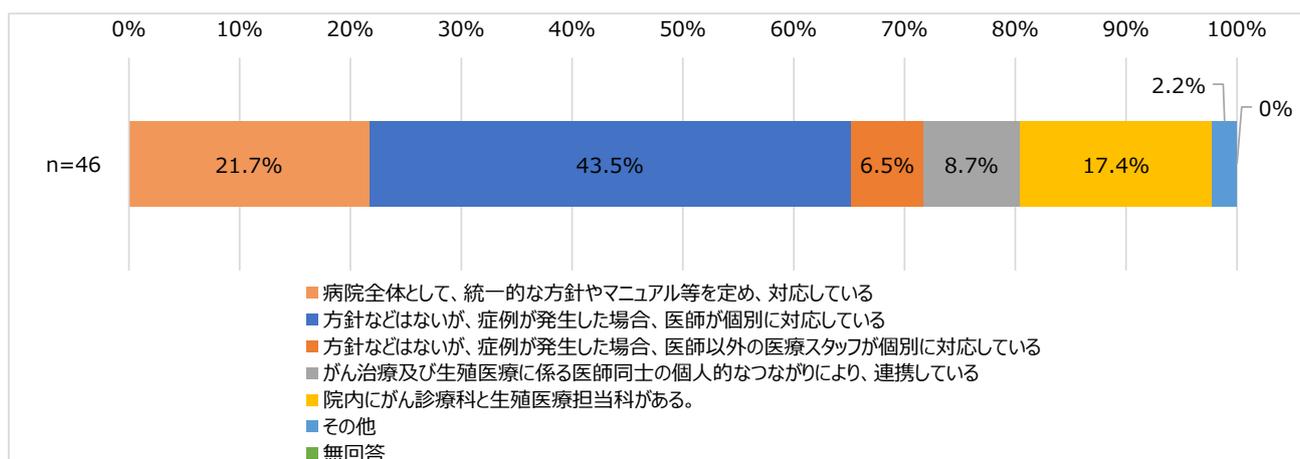
【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

④ がん・生殖医療

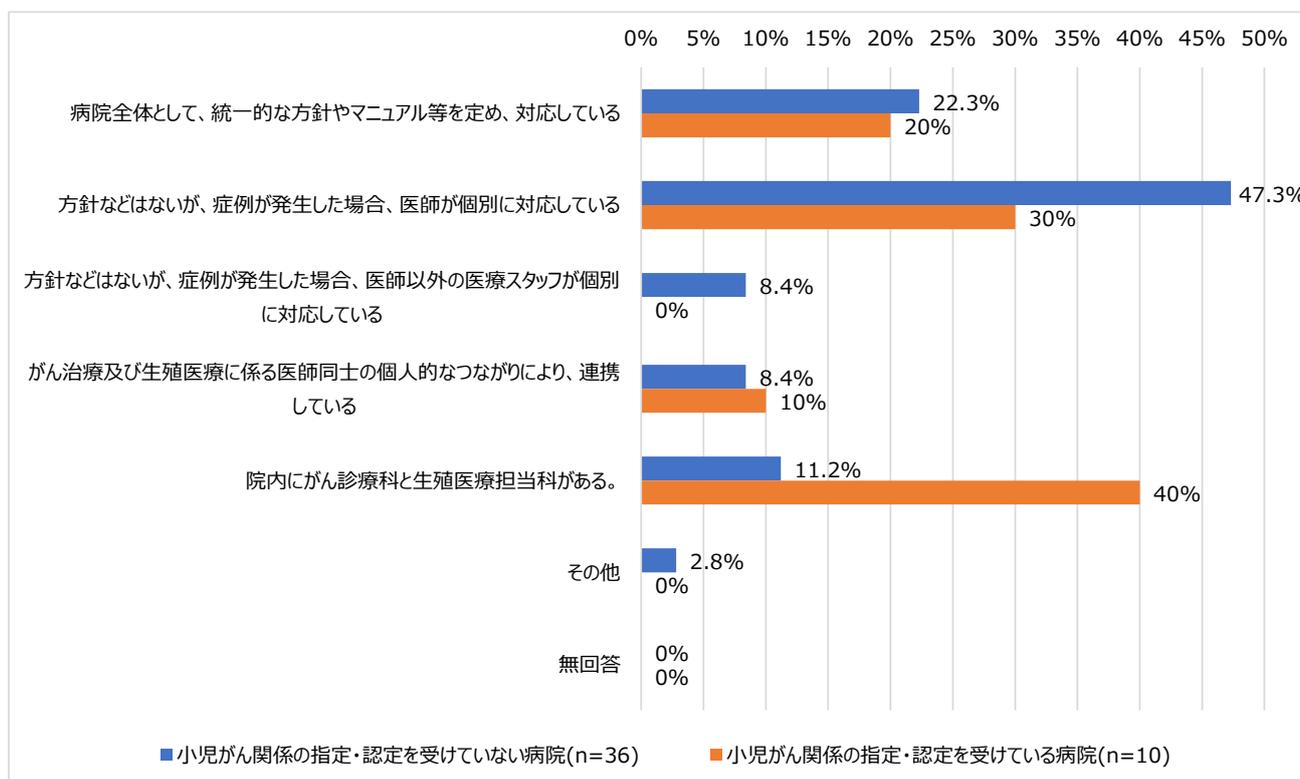
問 10 がん診療医療機関から生殖医療を実施する医療機関へ患者を繋げるために、どのような対応を行っていますか。

がん診療医療機関から生殖医療実施医療機関へ患者を繋げるための対応は、「方針などはないが、症例が発生した場合、医師が個別に対応している」が43.5%と最も多く、次いで「病院全体として、統一的な方針やマニュアル等を定め、対応している」が21.7%であった。

図表 15 がん診療医療機関から生殖医療を実施する医療機関へ患者を繋げるための対応



図表 16 がん診療医療機関から生殖医療を実施する医療機関へ患者を繋げるための対応
【指定・認定状況別】



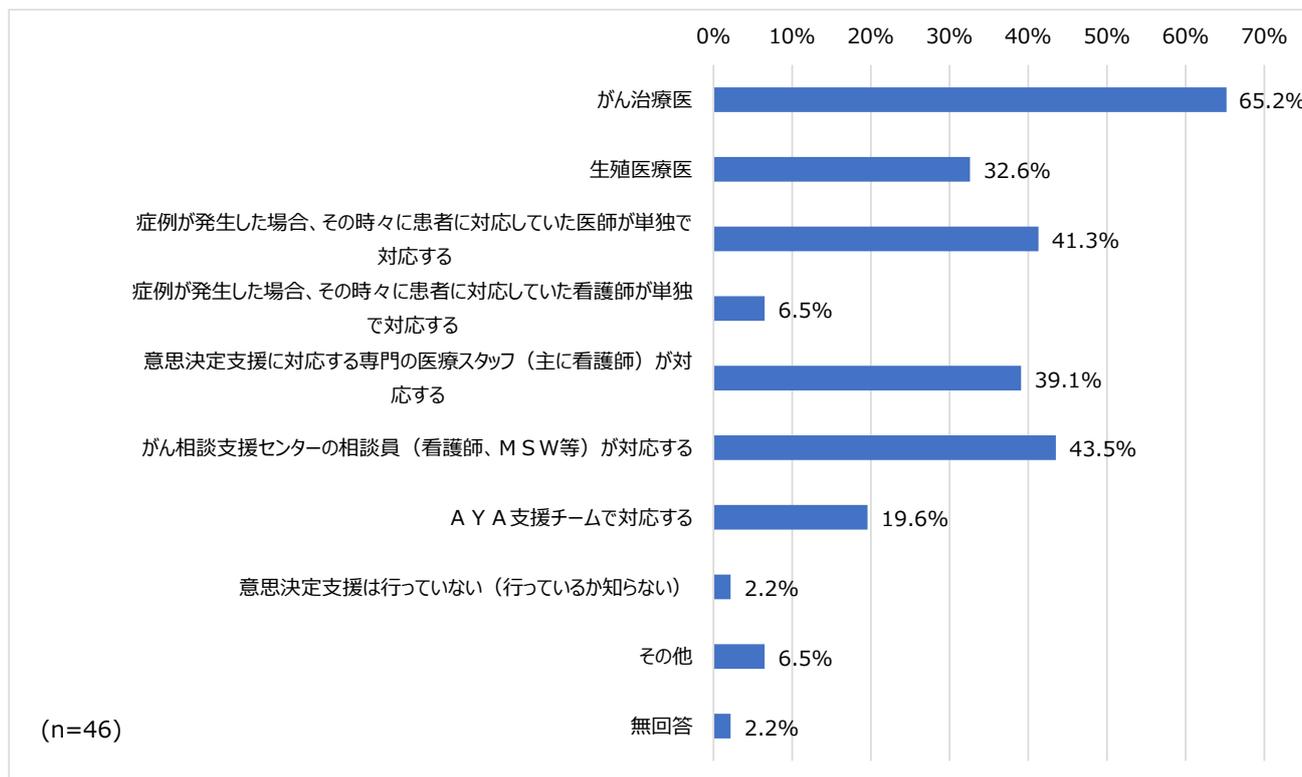
第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

問 11 がん患者等へのがん・生殖医療に関する意思決定支援は誰が行っていますか（当てはまるものを全て選択してください）。

がん患者等へのがん・生殖医療に関する意思決定支援の実施主体は、「がん治療医」が65.2%と最も多く、次いで「がん相談支援センターの相談員（看護師、MSW等）が対応する」が43.5%であった。

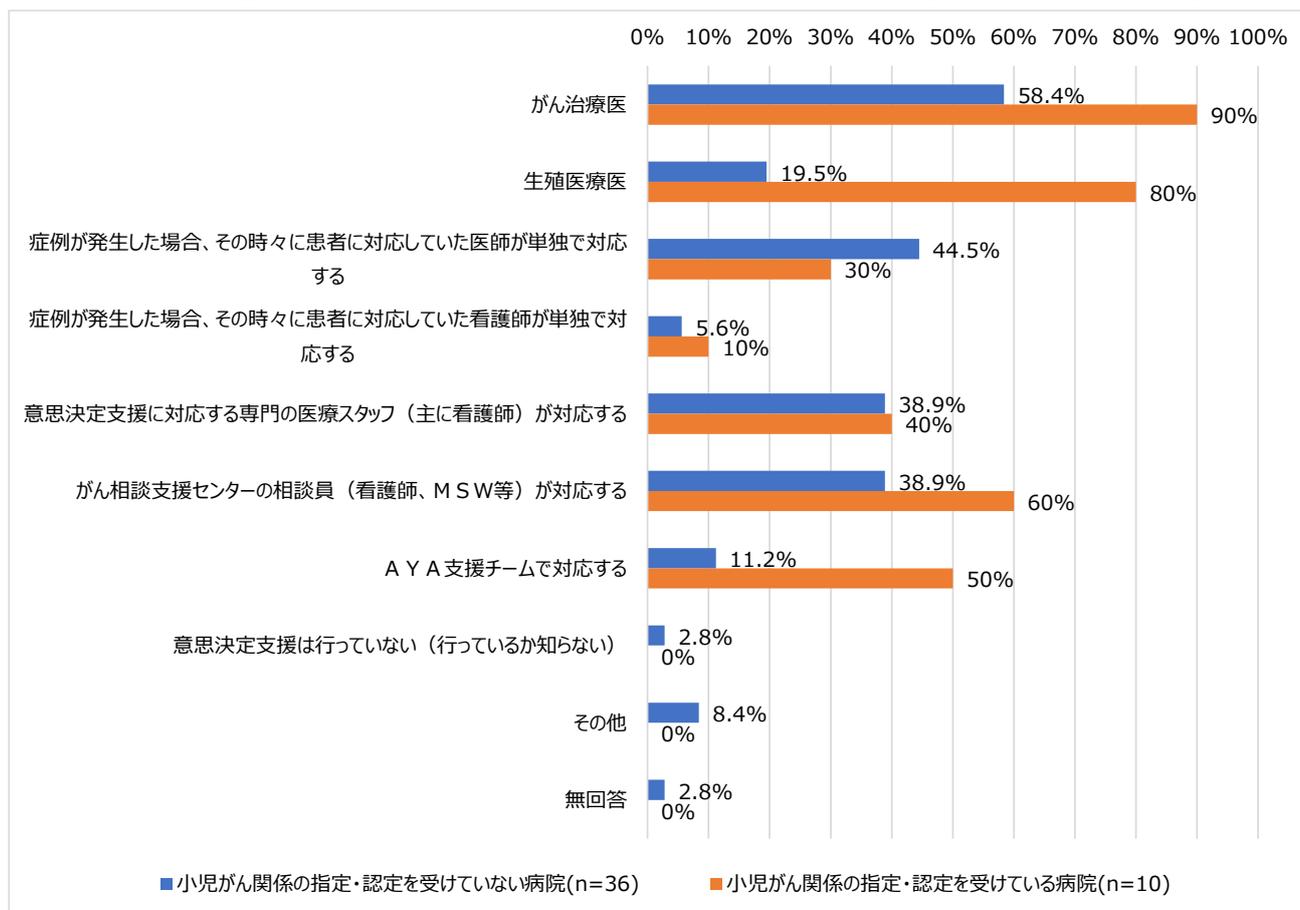
図表 17 がん患者等へのがん・生殖医療に関する意思決定支援の実施主体



第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

図表 18 がん患者等へのがん・生殖医療に関する意思決定支援の実施主体【指定・認定状況別】



第2章 調査結果（単純集計）

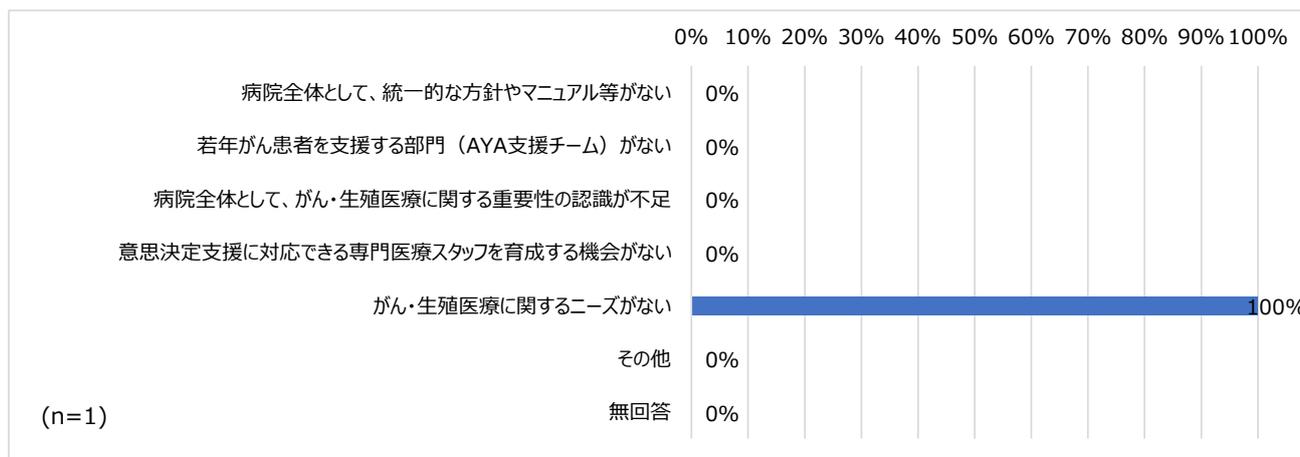
【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

問 12 【上記 11 で 08 を選択した場合】がん患者等へのがん・生殖医療に関する意思決定支援を行っていない理由は何ですか（当てはまるものを全て選択してください）。

問 11 において「意思決定支援は行っていない（行っているか知らない）」と回答した場合の理由は、「がん・生殖医療に関するニーズがない」が 100%であった。

【※問 11 において「意思決定支援は行っていない（行っているか知らない）」と回答した者を対象に集計】

図表 19 がん患者等へのがん・生殖医療に関する意思決定支援を行っていない理由



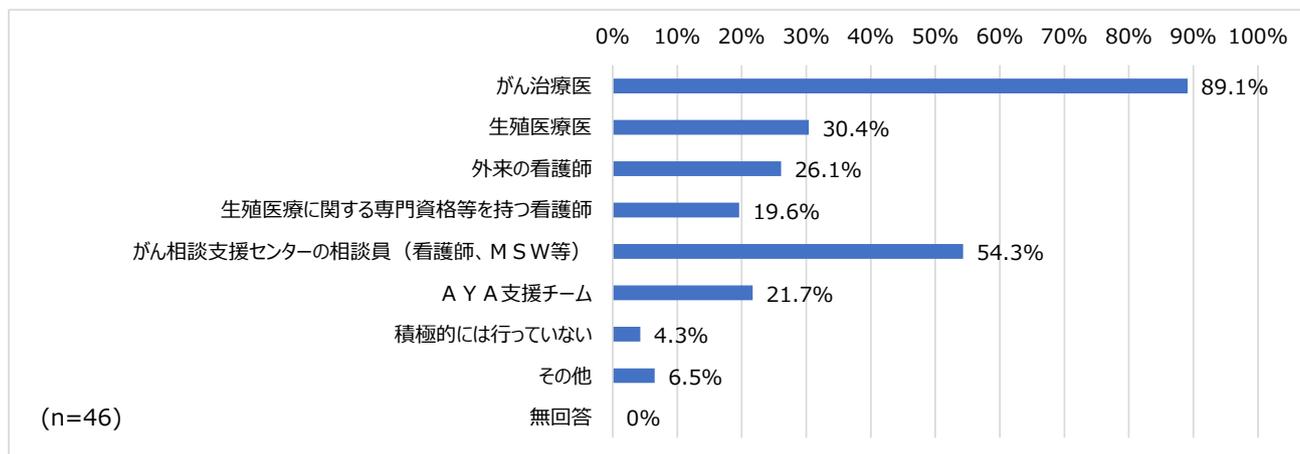
第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

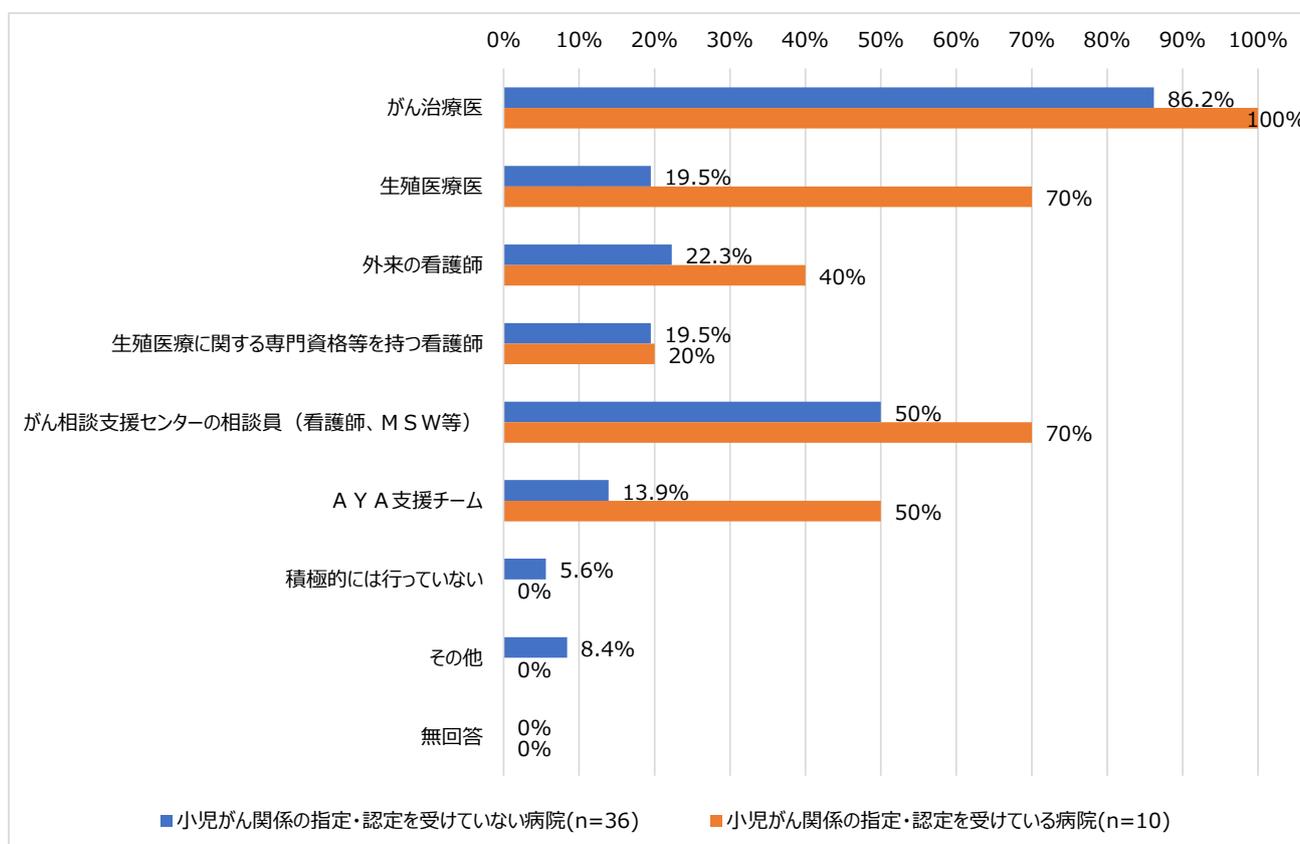
問 13 **がん患者等へのがん・生殖医療に関する情報提供は誰が行っていますか（当てはまるものを全て選択してください）。**

がん・生殖医療に関する情報提供の実施主体は、「がん治療医」が89.1%と最も多く、次いで「がん相談支援センターの相談員（看護師、MSW等）」が54.3%であった。

図表 20 がん患者等へのがん・生殖医療に関する情報提供の実施主体



図表 21 がん患者等へのがん・生殖医療に関する情報提供の実施主体【指定・認定状況別】



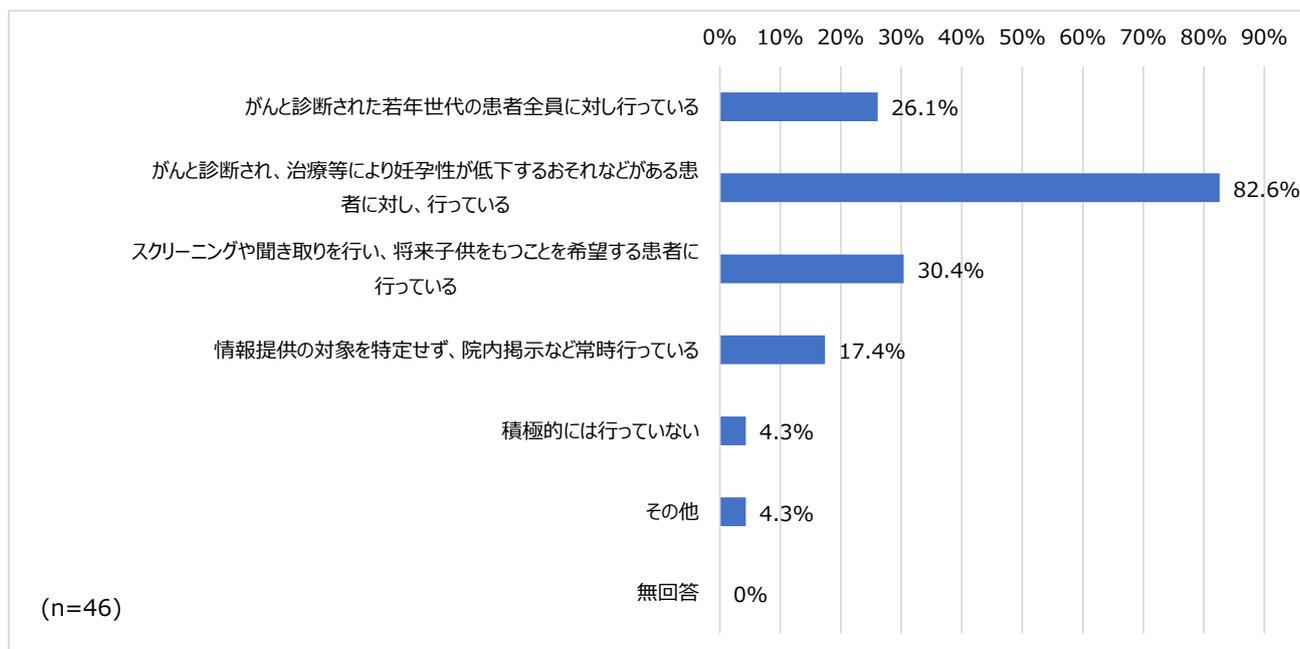
第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

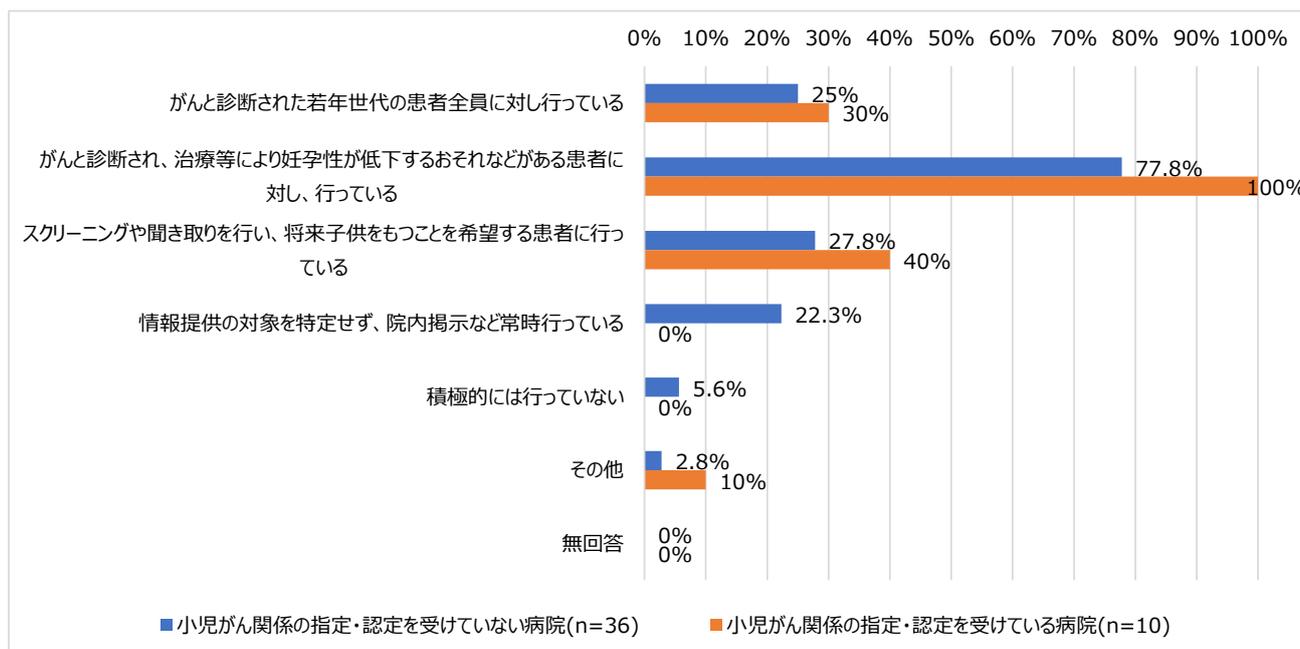
問 14 がん患者等へのがん・生殖医療に関する情報提供は誰に対して、または、どのように行っていますか（当てはまるものを全て選択してください）。

がん・生殖医療に関する情報提供の対象者・提供方法は、「がんと診断され、治療等により妊孕性が低下するおそれなどがある患者に対し、行っている」が 82.6%と最も多く、次いで「スクリーニングや聞き取りを行い、将来子供をもつことを希望する患者に行っている」が 30.4%であった。

図表 22 がん患者等へのがん・生殖医療に関する情報提供の対象者・提供方法



図表 23 がん患者等へのがん・生殖医療に関する情報提供の対象者・提供方法【指定・認定状況別】



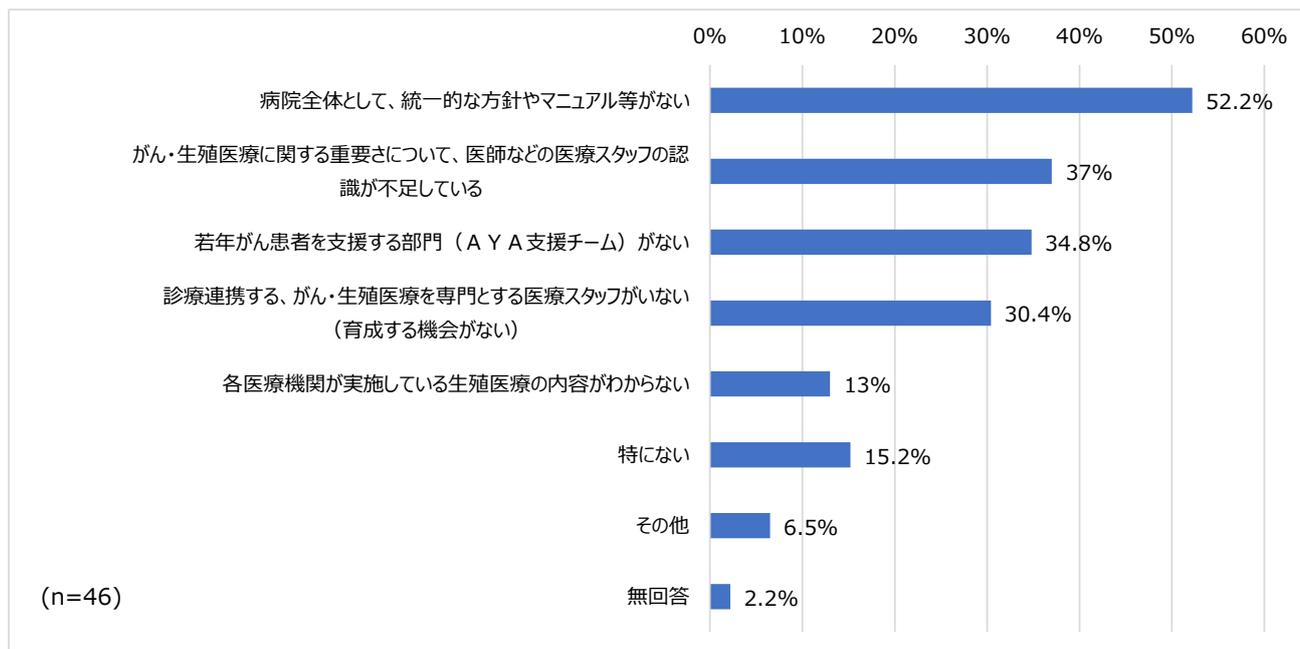
第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

問 15 貴院における、がん医療と生殖医療の連携に当たっての課題は何ですか（当てはまるものを全て選択してください）。

がん医療と生殖医療の連携に当たっての課題は、「病院全体として、統一的な方針やマニュアル等がない」が52.2%で最も多く、次いで「がん・生殖医療に関する重要性について、医師などの医療スタッフの認識が不足している」が37%であった。

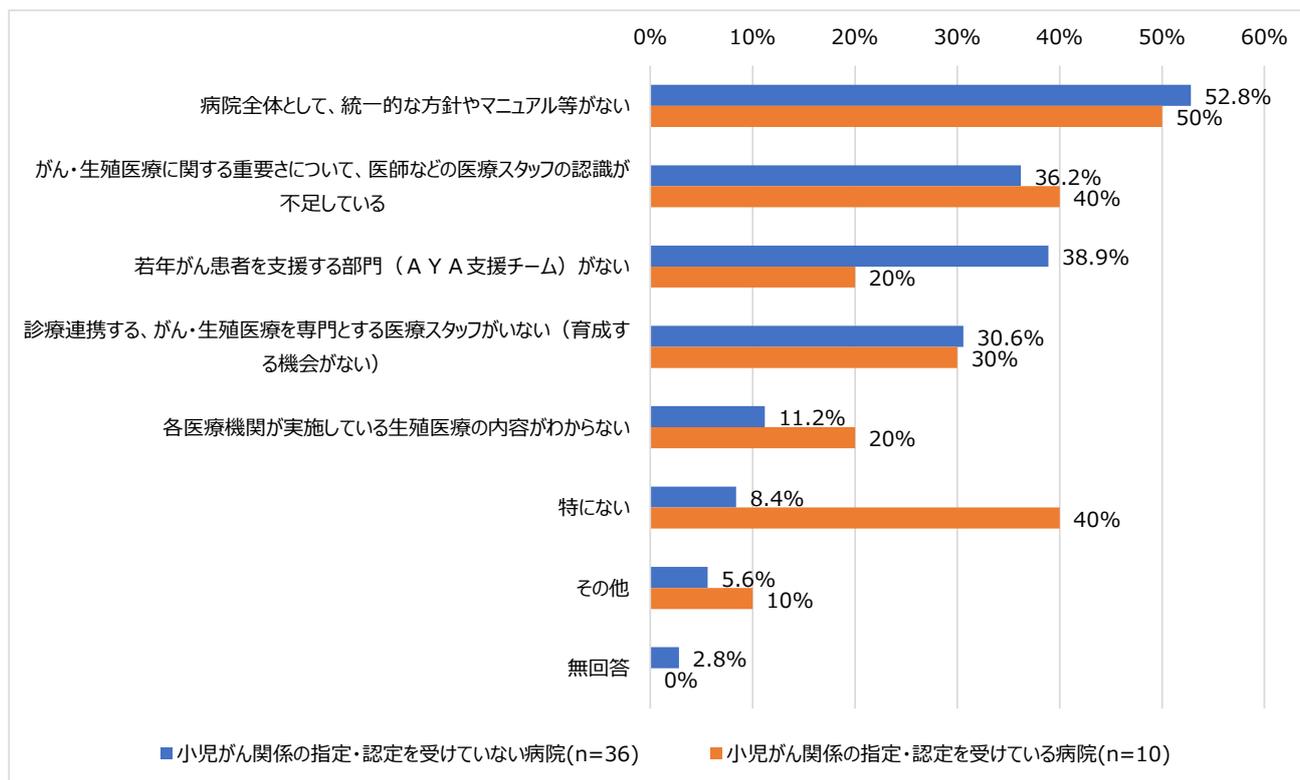
図表 24 がん医療と生殖医療の連携に当たっての課題



第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

図表 25 がん医療と生殖医療の連携に当たっての課題【指定・認定状況別】



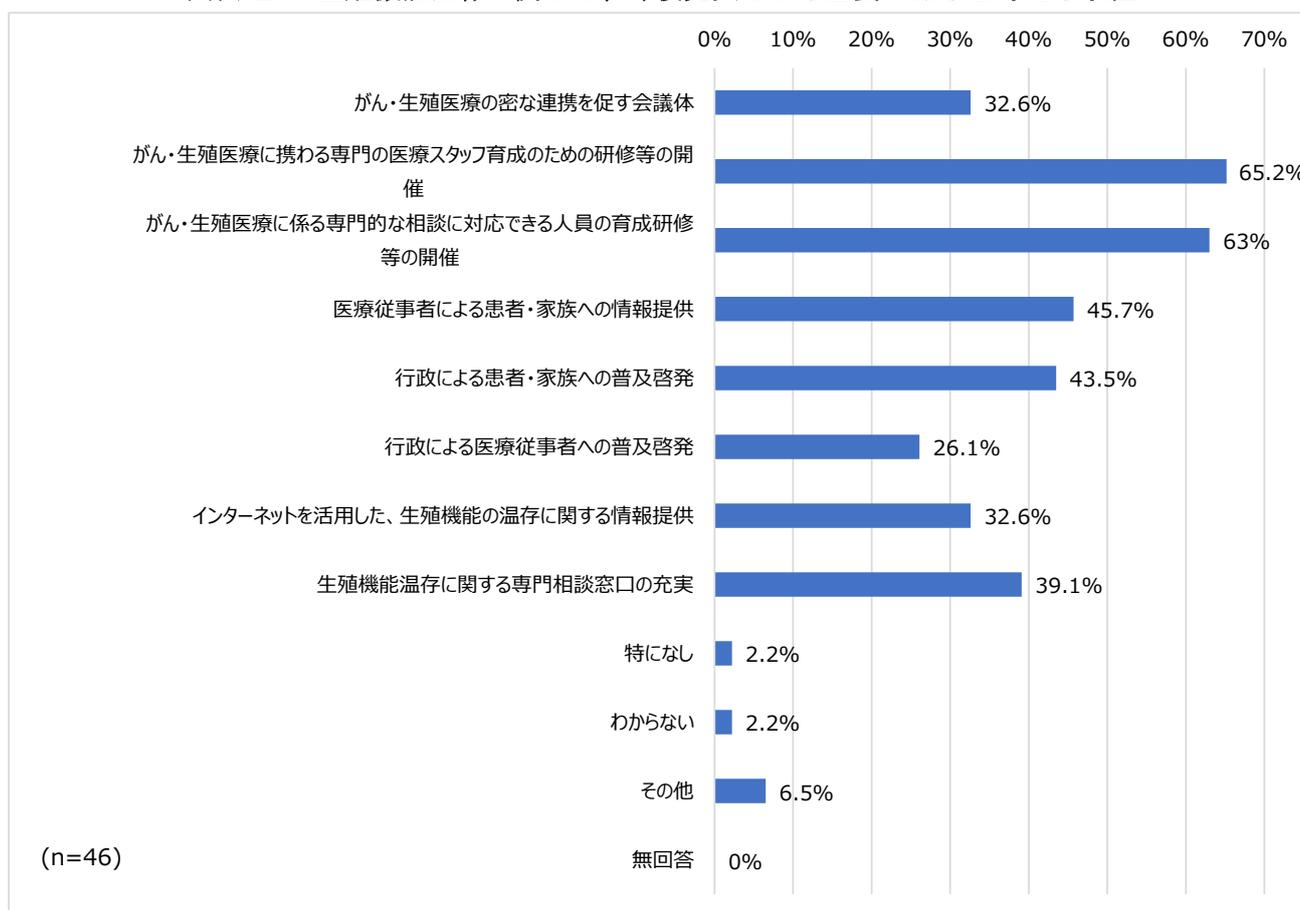
第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

問 16 生殖機能温存に関して、今後充実させる必要があると考える取組は何ですか（当てはまるものを全て選択してください）。

生殖機能温存に関して、今後充実させる必要があると考える取組は、「がん・生殖医療に携わる専門の医療スタッフ育成のための研修等の開催」が65.2%と最も多く、次いで「がん・生殖医療に係る専門的な相談に対応できる人員の育成研修等の開催」が63%であった。

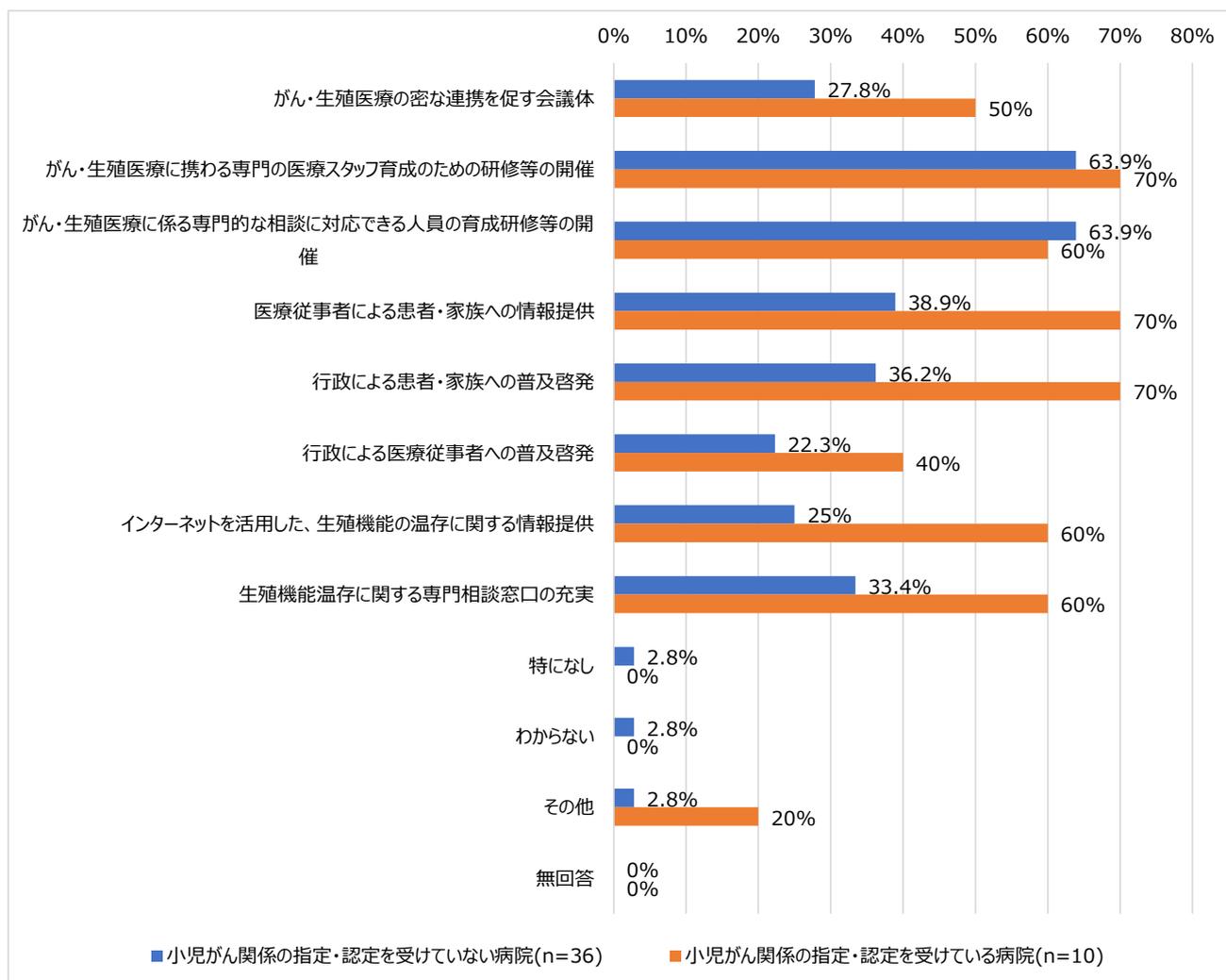
図表 26 生殖機能温存に関して、今後充実させる必要があると考える取組



第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

図表 27 生殖機能温存に関して、今後充実させる必要があると考える取組【指定・認定状況別】



第2章 調査結果（単純集計）

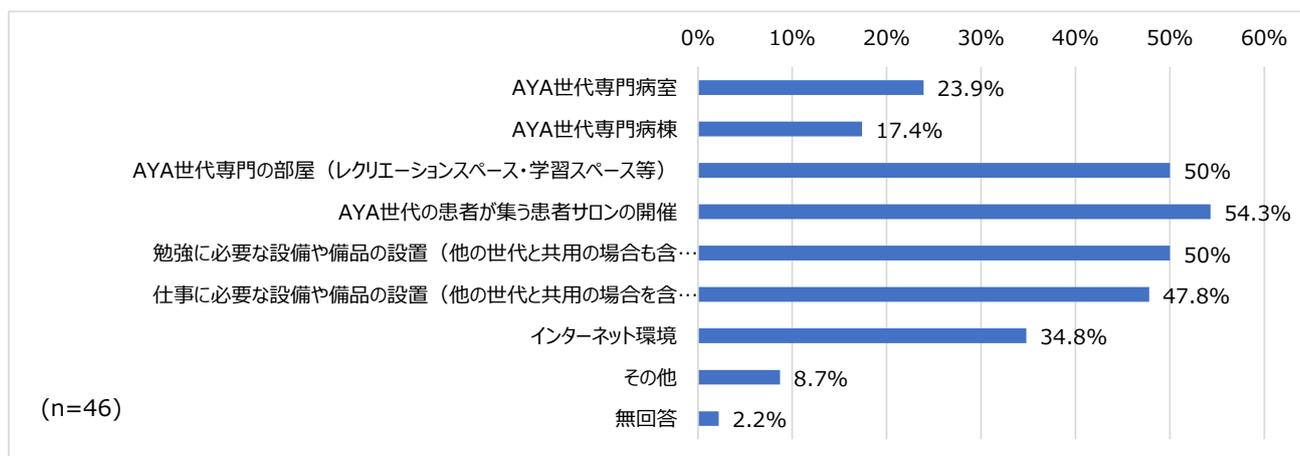
【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

⑤ AYA世代がん患者の療養環境

問 17 AYA世代のがん患者のための療養環境として、どのようなものが不足し、必要だと考えていますか（当てはまるものを全て選択してください）。

AYA世代のがん患者のための療養環境として、不足・必要と考えるものは、「AYA世代の患者が集う患者サロンの開催」が54.3%と最も多く、次いで「AYA世代専門の部屋（レクリエーションスペース・学習スペース等）」「勉強に必要な設備や備品の設置（他の世代と共用の場合も含む。）」がそれぞれ50%であった。

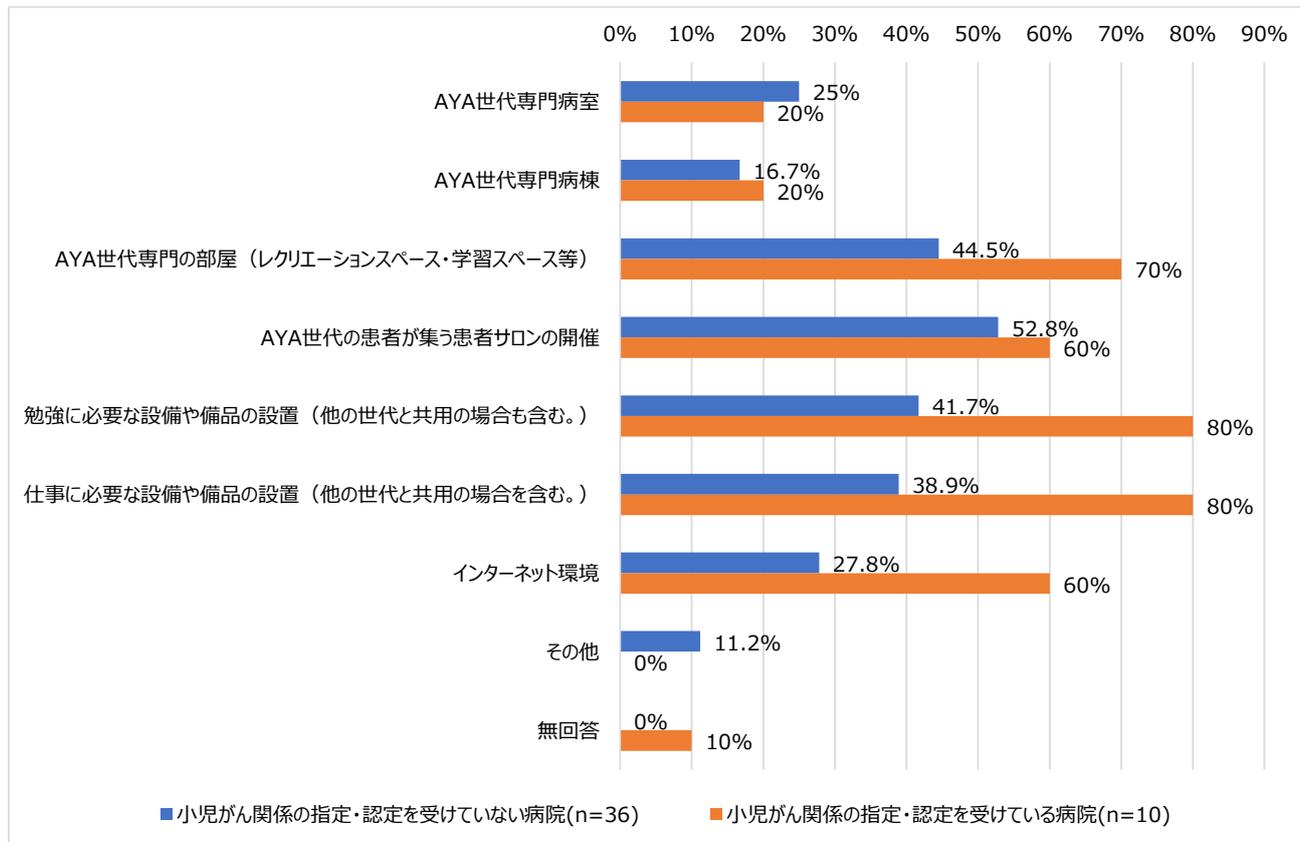
図表 28 AYA世代のがん患者のための療養環境として、不足・必要と考えるもの



第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

図表 29 AYA世代がん患者のための療養環境として、不足・必要と考えるもの【指定・認定状況別】



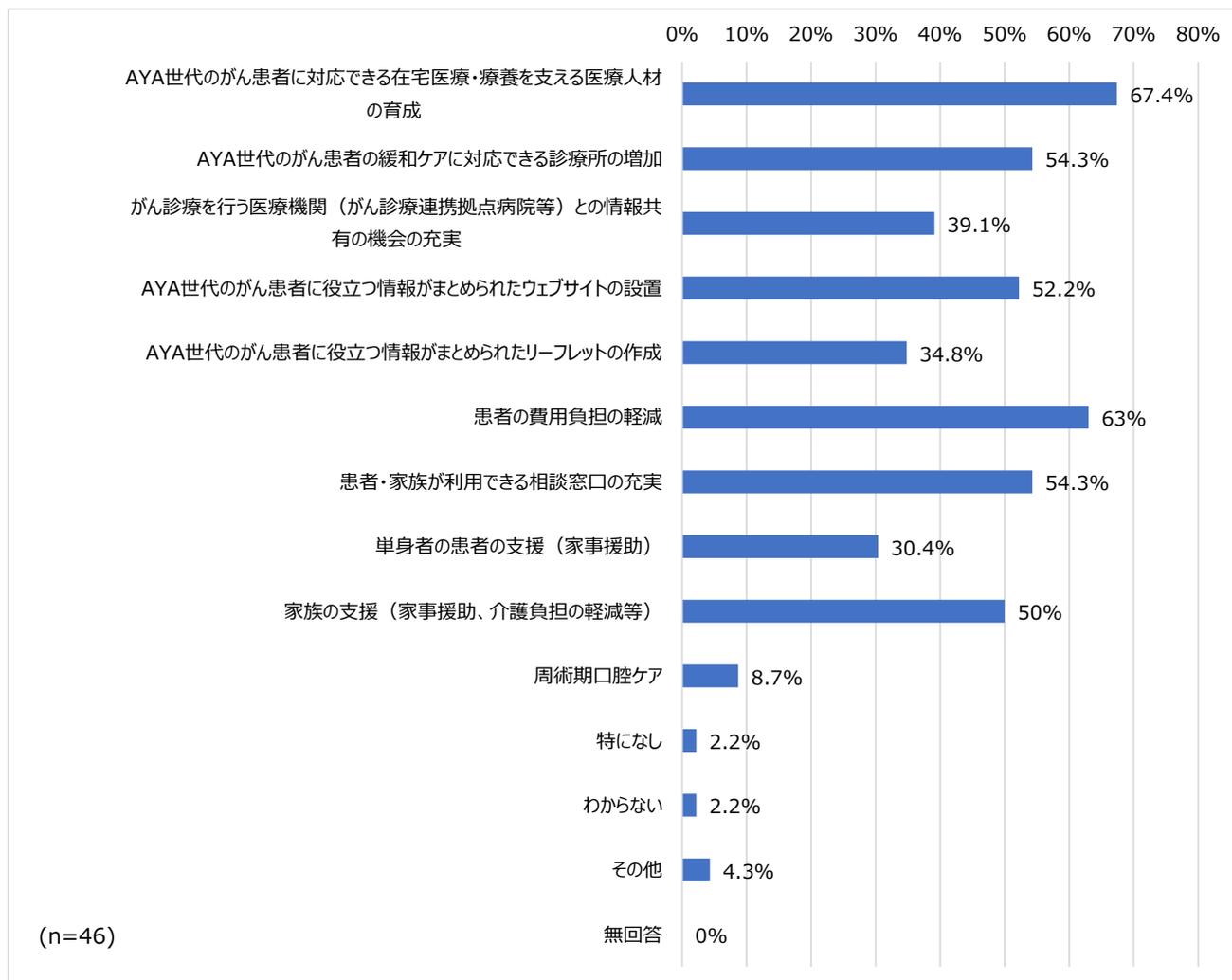
第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

問 18 AYA世代のがん患者の在宅医療・療養、緩和ケアに関して、今後充実させる必要があると考える取組は何ですか（当てはまるものを全て選択してください）。

AYA世代のがん患者の在宅医療・療養、緩和ケアに関して、今後充実させる必要があると考える取組は、「AYA世代のがん患者に対応できる在宅医療・療養を支える医療人材の育成」が67.4%と最も多く、次いで「患者の費用負担の軽減」が63%であった。

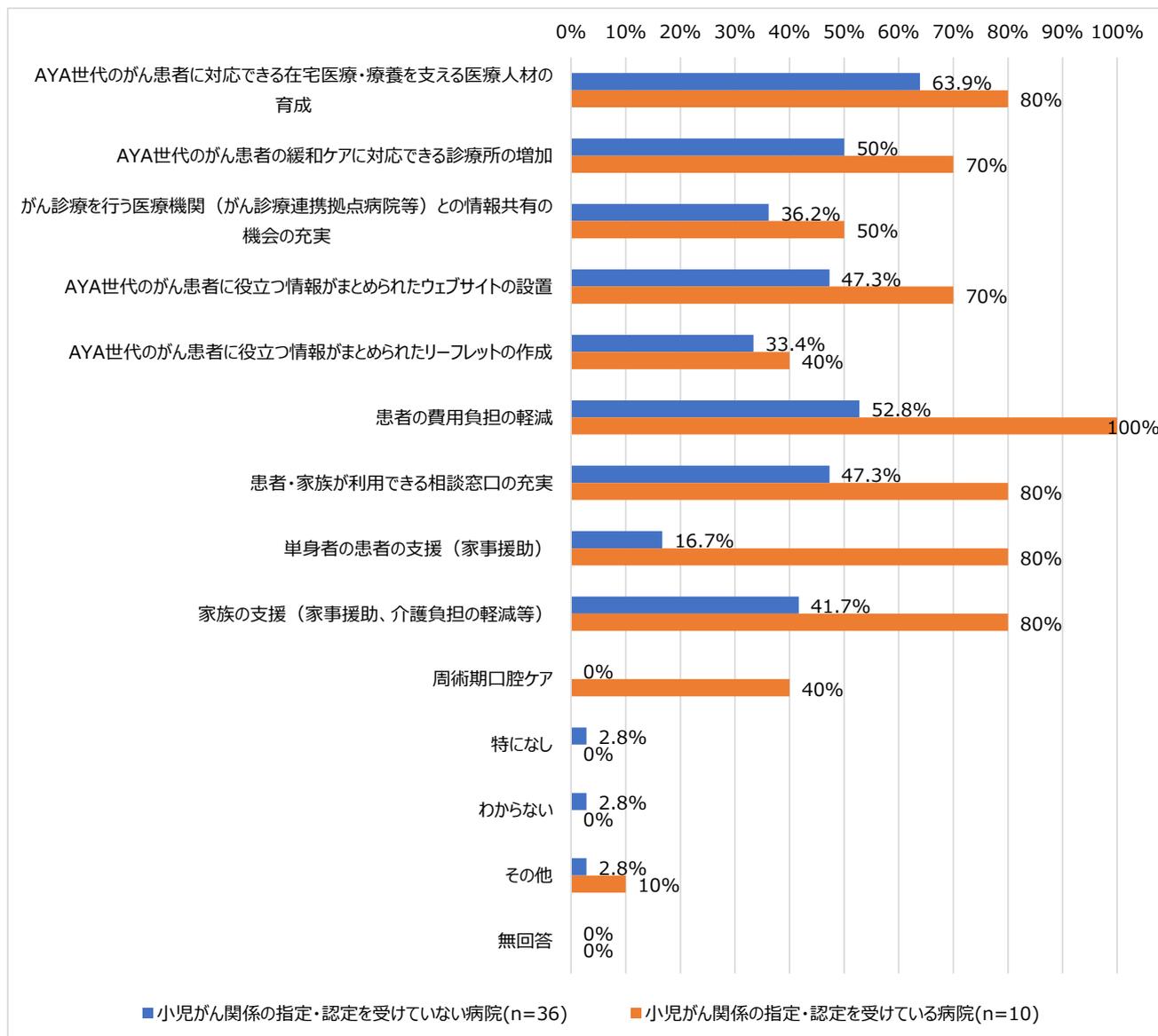
図表 30 AYA世代のがん患者の在宅医療・療養、緩和ケアに関して、今後充実させる必要があると考える取組



第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

図表 31 AYA世代のがん患者の在宅医療・療養、緩和ケアに関して、今後充実させる必要があると考える取組【指定・認定状況別】



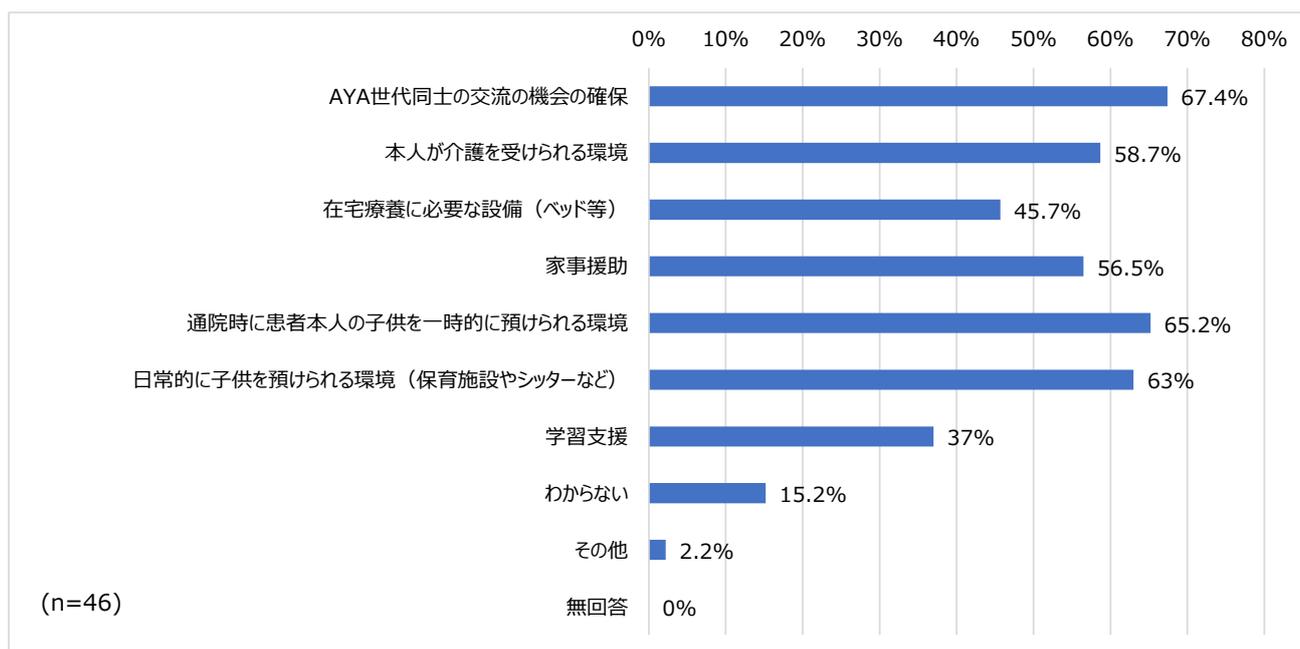
第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

問 19-1 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なものの（不足しているもの）は何ですか（当てはまるものを全て選択してください）。※通院期間中の時期

AYA世代のがん患者の通院期間中の時期において、身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）は、「AYA世代同士の交流の機会の確保」が67.4%で最も多く、次いで「通院時に患者本人の子供を一時的に預けられる環境」が65.2%であった。

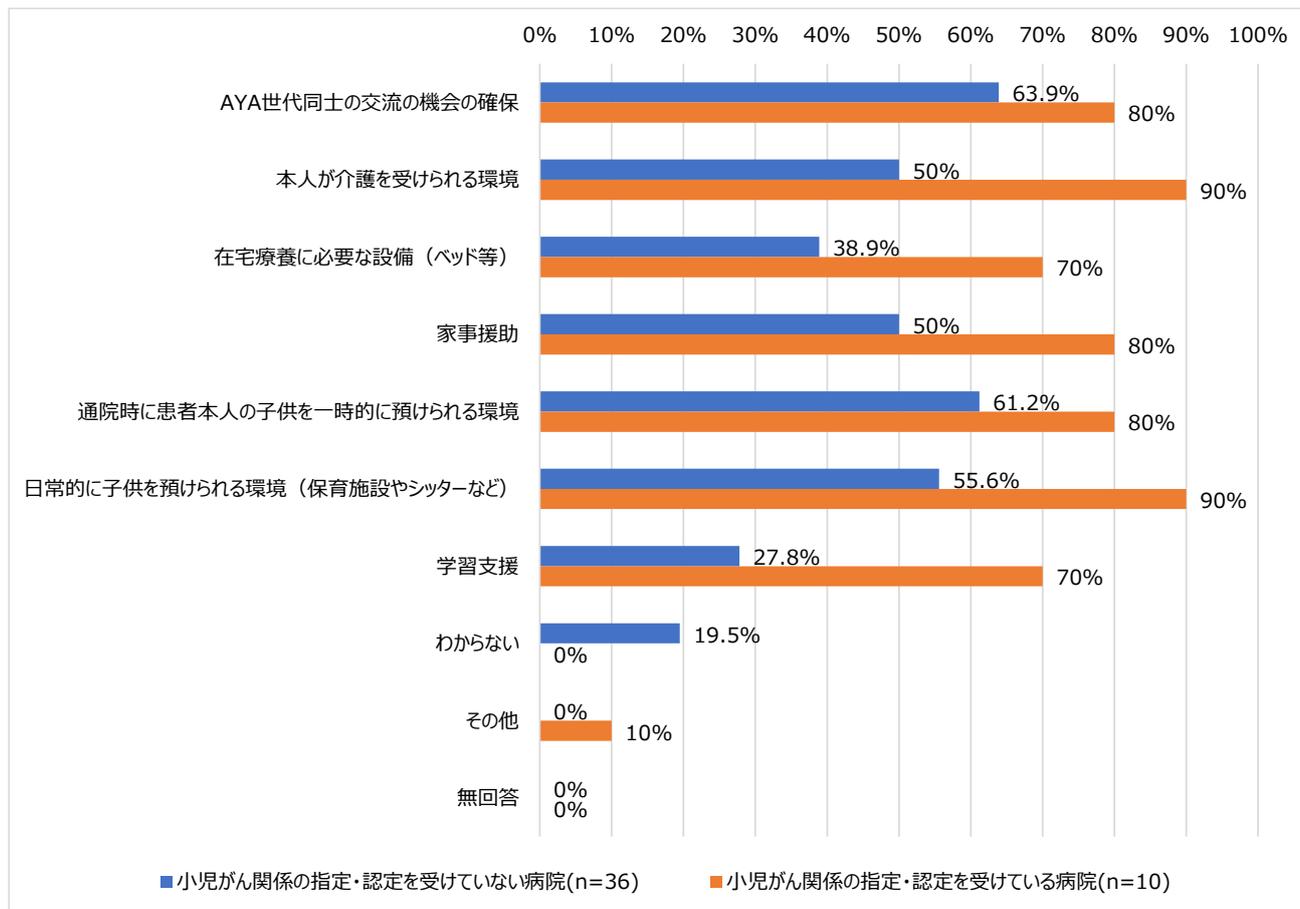
図表 32 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【※通院期間中の時期】



第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

図表 33 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【※通院期間中の時期】【指定・認定状況別】



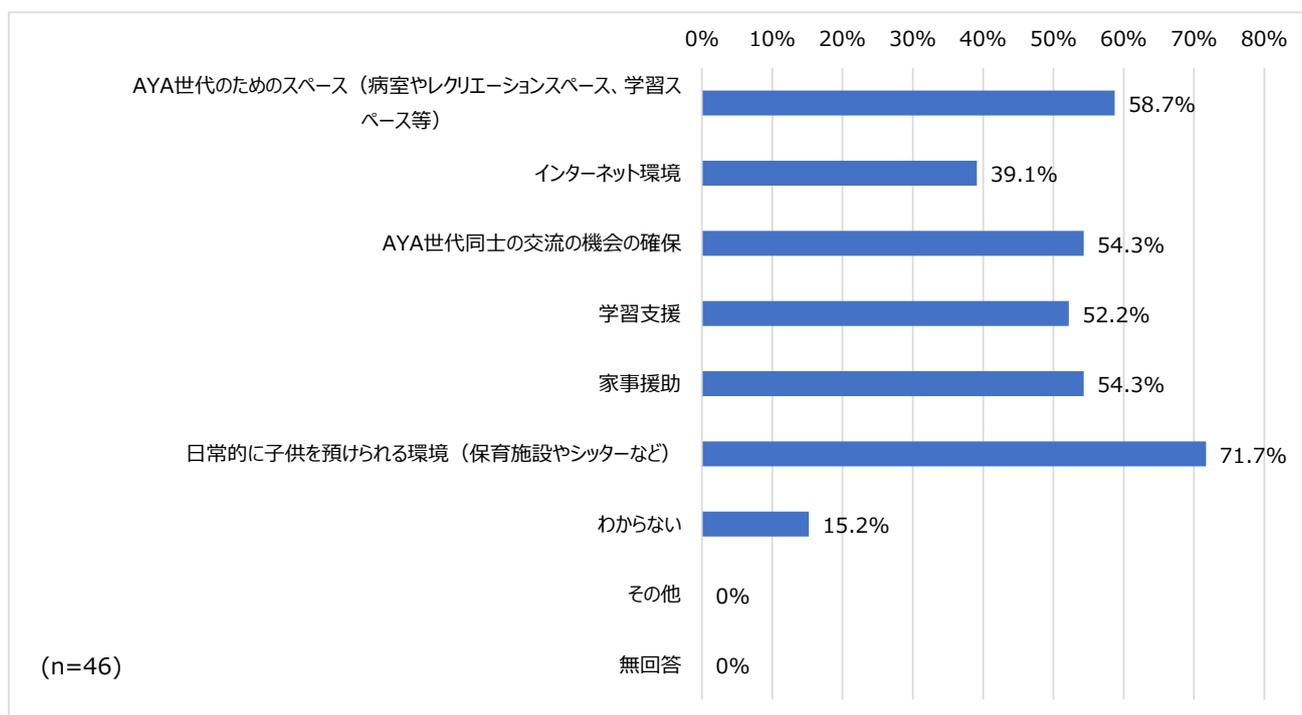
第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

問 19-2 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なものの（不足しているもの）は何ですか（当てはまるものを全て選択してください）。※入院治療中の時期

AYA世代のがん患者の入院治療中の時期において、身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）は、「日常的に子供を預けられる環境（保育施設やシッターなど）」が71.7%と最も多く、次いで「AYA世代のためのスペース（病室やレクリエーションスペース、学習スペース等）」が58.7%であった。

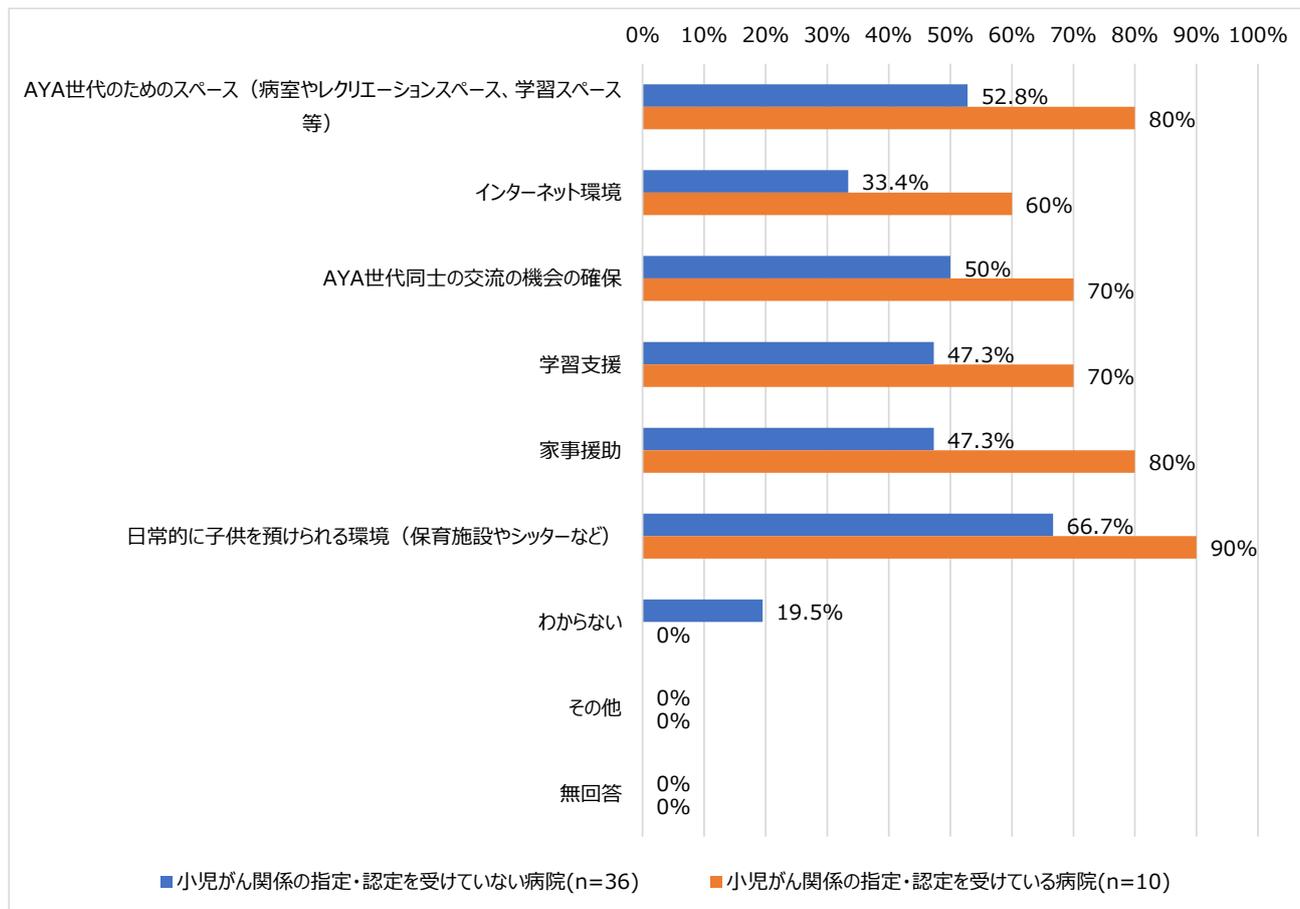
図表 34 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【※入院治療中の時期】



第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

図表 35 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【※入院治療中の時期】【指定・認定状況別】



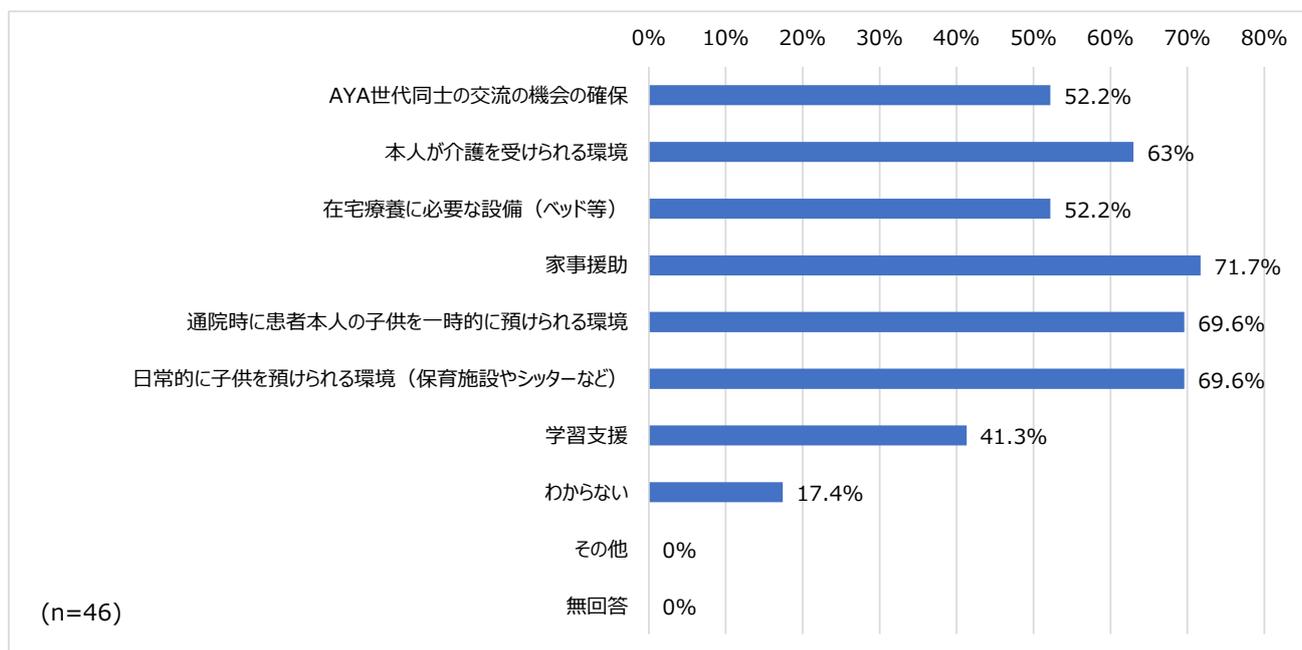
第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

問 19-3 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なものの（不足しているもの）は何ですか（当てはまるものを全て選択してください）。※在宅療養中の時期

AYA世代のがん患者の在宅療養中の時期において、身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）は、「家事援助」が71.7%と最も多く、次いで「通院時に患者本人の子供を一時的に預けられる環境」「日常的に子供を預けられる環境（保育施設やシッターなど）」がそれぞれ69.6%であった。

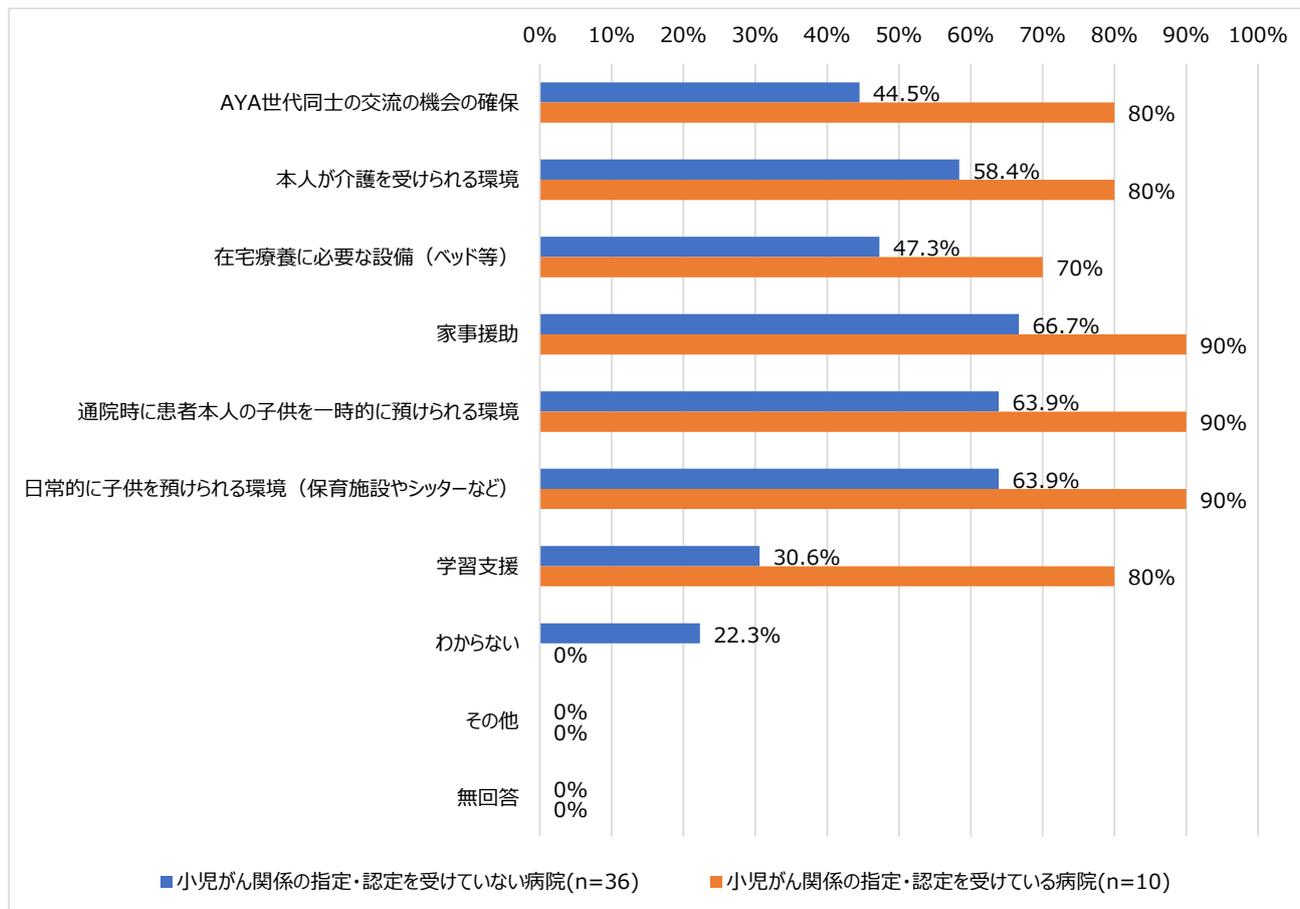
図表 36 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【※在宅療養中の時期】



第2章 調査結果（単純集計）

【A1-2】全指定病院 がん診療責任者

図表 37 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【※在宅療養中の時期】【指定・認定状況別】



第2章 調査結果（単純集計）

【A3】全指定病院 相談支援センター

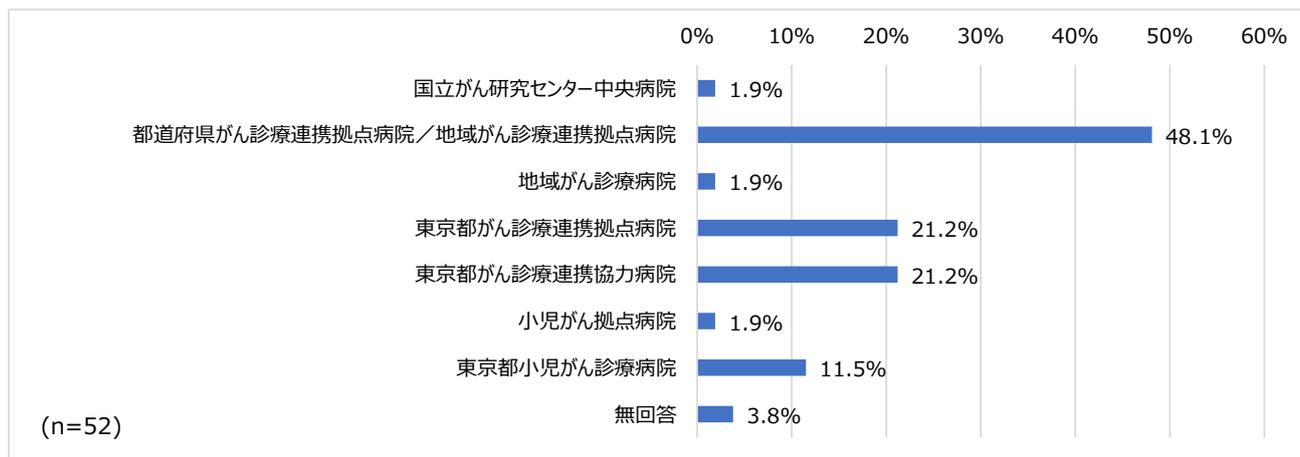
2. 【A3】全指定病院 相談支援センター

① 基本情報

問1 以下のどちらの指定・認定を受けていますか。あてはまるものを全て選択してください。

回答した病院は、「都道府県がん診療連携拠点病院／地域がん診療連携拠点病院」が48.1%と最も多く、次いで「東京都がん診療連携拠点病院」「東京都がん診療連携協力病院」がそれぞれ21.2%であった。

図表 38 指定・認定種別



第2章 調査結果（単純集計）

【A3】全指定病院 相談支援センター

問2-1 役職を記載してください。

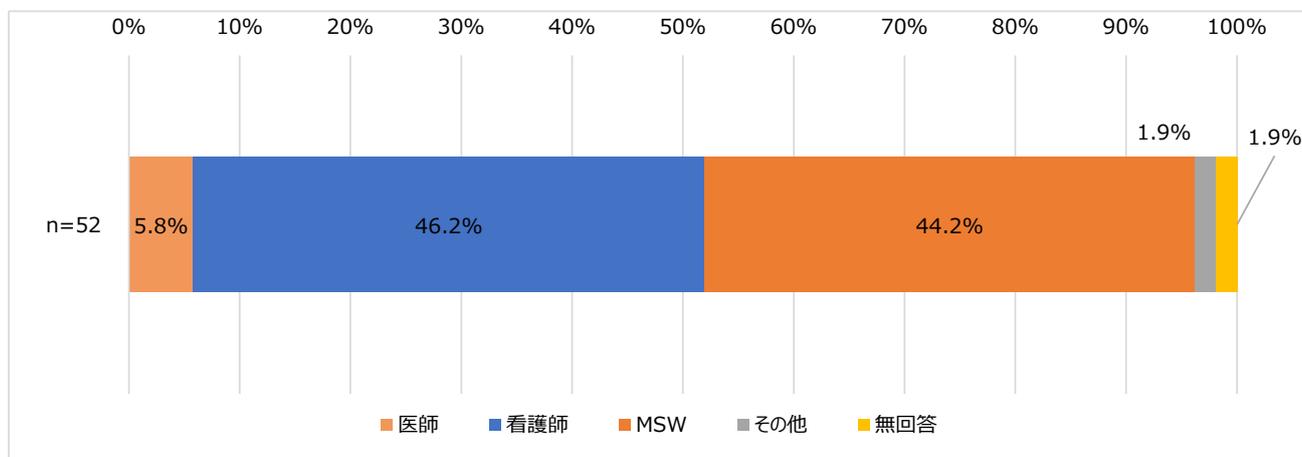
<主な回答の内訳>

- ・ がん相談支援センター長
- ・ 看護部長、看護師長、看護副師長
- ・ がん相談支援センター、医療相談窓口の係長及びスタッフ（MSW、看護師等） 等

問2-2 職種を教えてください。

回答者の職種は、「看護師」が46.2%と最も多く、次いで「MSW」が44.2%であった。

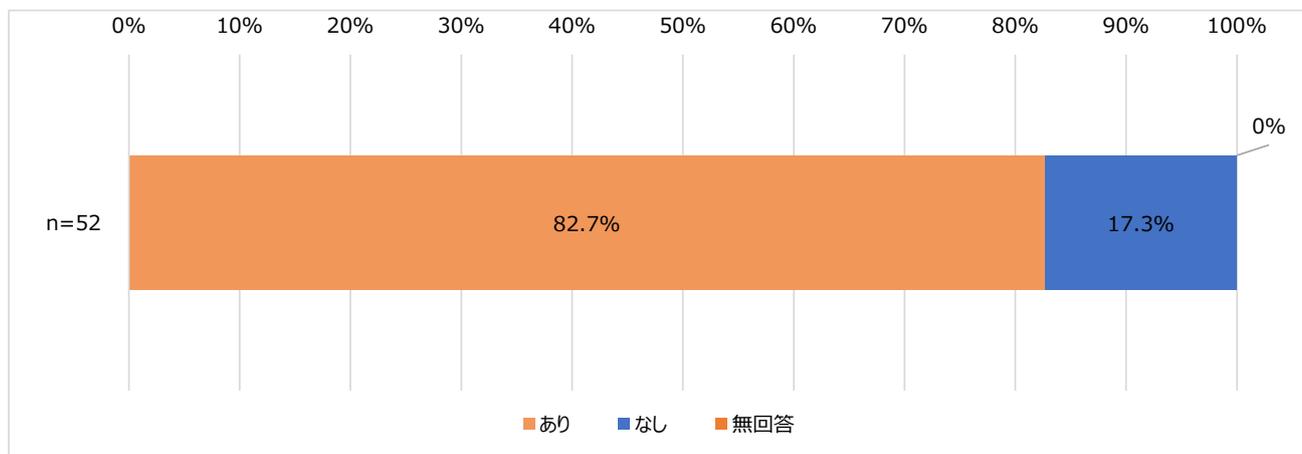
図表 39 回答者の職種



問3 両立支援コーディネーターの配置の有無

両立支援コーディネーターの配置状況は、「あり」が82.7%、「なし」が17.3%であった。

図表 40 両立支援コーディネーターの配置状況



第2章 調査結果（単純集計）

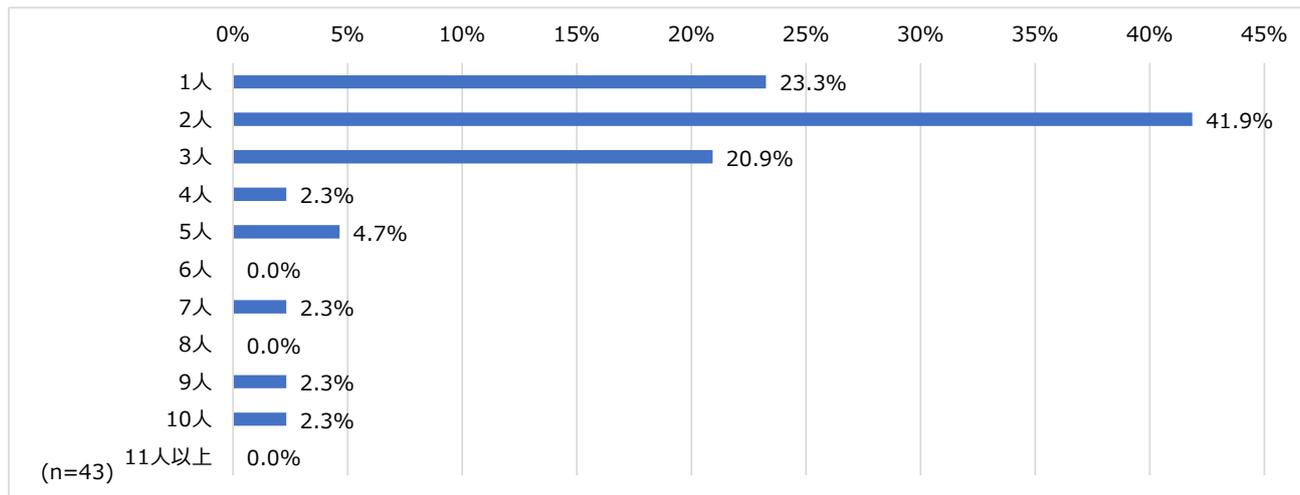
【A3】全指定病院 相談支援センター

問4-1 【3で「01 あり」と回答した方に伺います】両立支援コーディネーターを配置している場合、人数を教えてください。

問3において「あり」と回答した場合の配置人数は、「2人」が41.9%で最も多く、次いで「1人」が23.3%であった。

【※問3において「あり」と回答した者を対象に集計】

図表 41 両立支援コーディネーターの配置人数

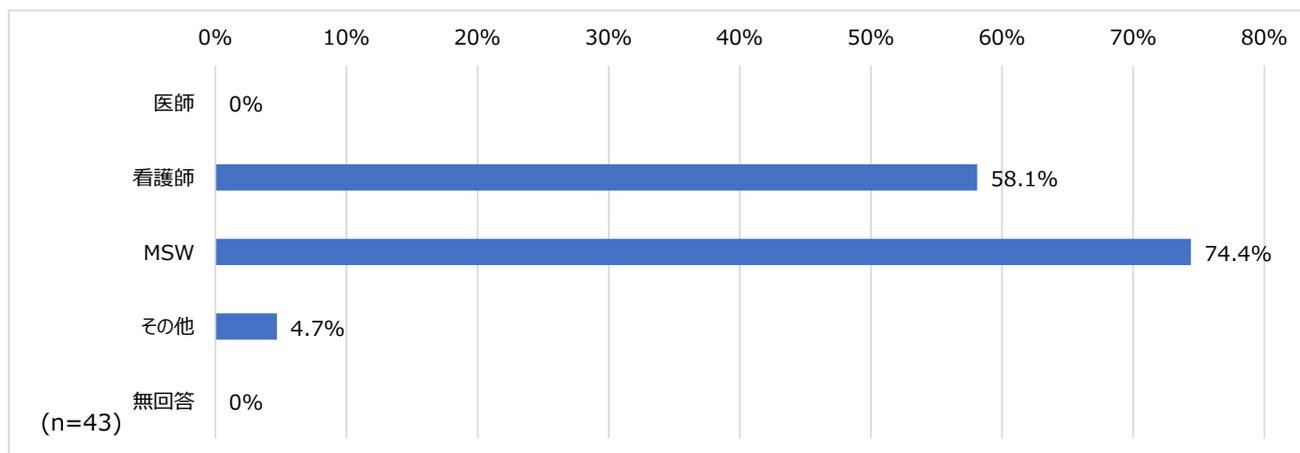


問4-2 【3で「01 あり」と回答した方に伺います】配置している場合、職種を教えてください（あてはまるものを全て選択してください）。

問3において「あり」と回答した場合の職種は、「MSW」が74.4%で最も多く、次いで「看護師」が58.1%であった。

【※問3において「あり」と回答した者を対象に集計】

図表 42 配置している両立支援コーディネーターの職種



第2章 調査結果（単純集計）

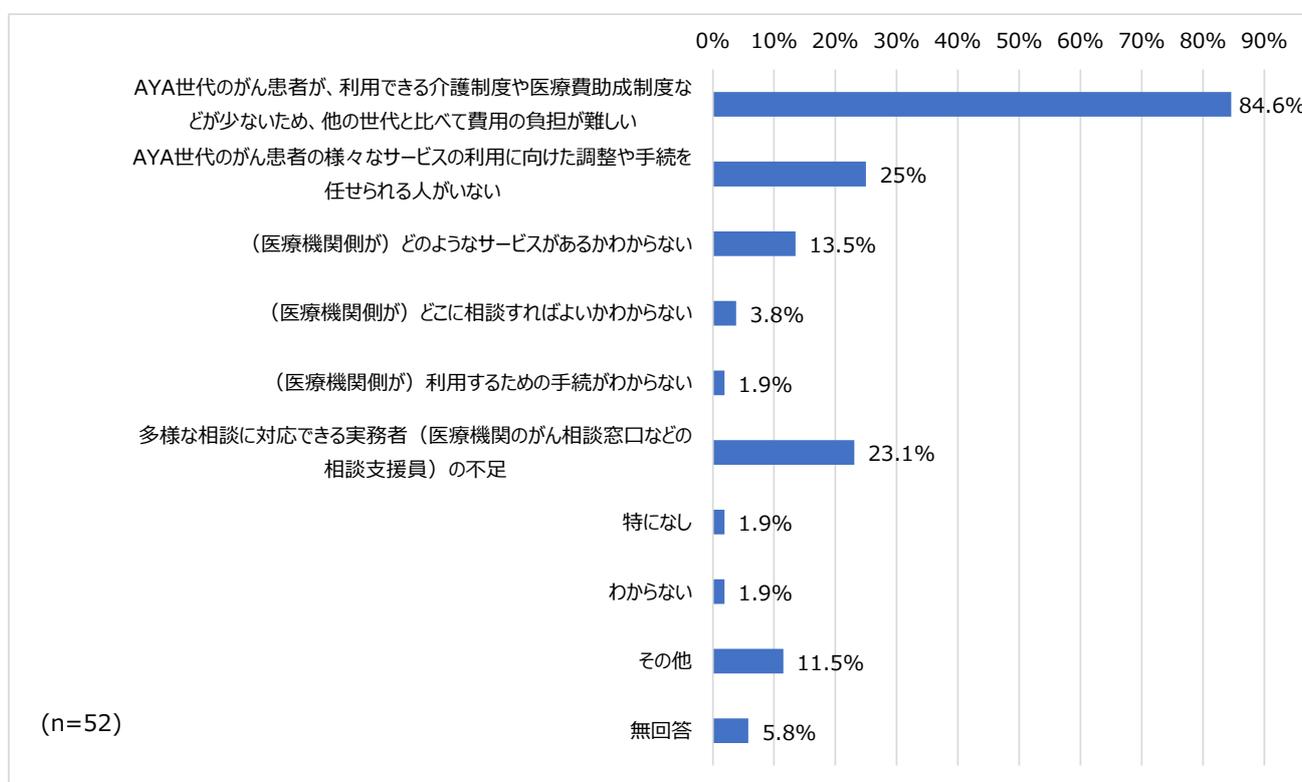
【A3】全指定病院 相談支援センター

② AYA世代がん患者への介護サービス

問 25 AYA世代のがん患者の介護サービス利用に当たっての課題は何ですか（あてはまるものを全て選択してください）。

AYA世代のがん患者の介護サービス利用に当たっての課題は、「AYA世代のがん患者が、利用できる介護制度や医療費助成制度などが少ないため、他の世代と比べて費用の負担が難しい」が84.6%と最も多く、次いで「AYA世代のがん患者の様々なサービスの利用に向けた調整や手続を任せられる人がいない」が25%であった。

図表 43 AYA世代のがん患者の介護サービス利用に当たっての課題



第2章 調査結果（単純集計）

【D1】 Aを除く都内病院 がん診療責任者

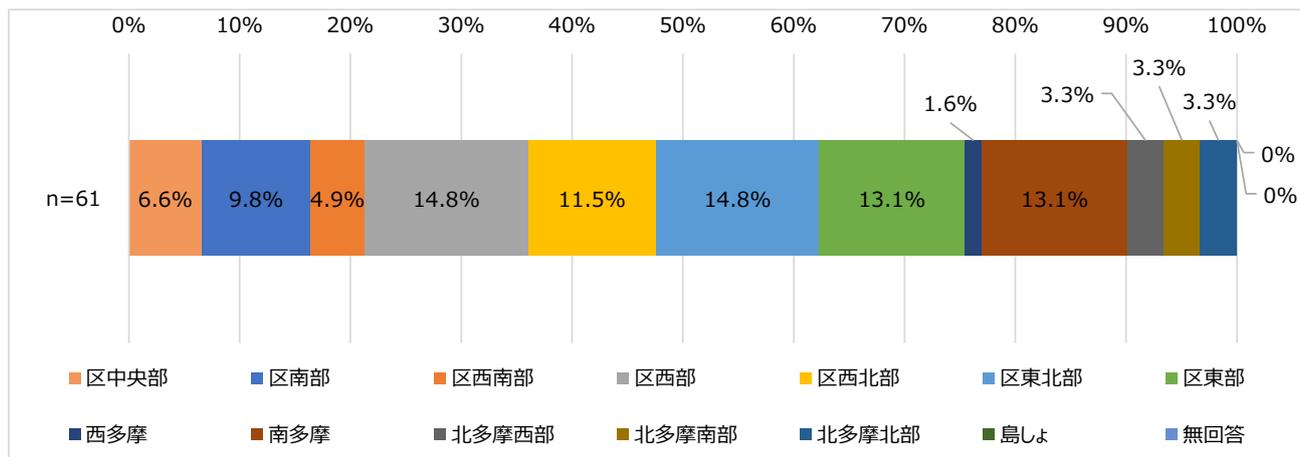
3. 【D1】 Aを除く都内病院 がん診療責任者

① 基本情報

問1 施設所在地を教えてください

回答した病院の所在する二次医療圏は、「区西部」と「区東北部」がそれぞれ14.8%と最も多く、次いで「区東部」「南多摩」がそれぞれ13.1%であった。

図表 44 所在する二次医療圏



問2 ご記入者の役職についてお伺いいたします。

<主な回答の内訳>

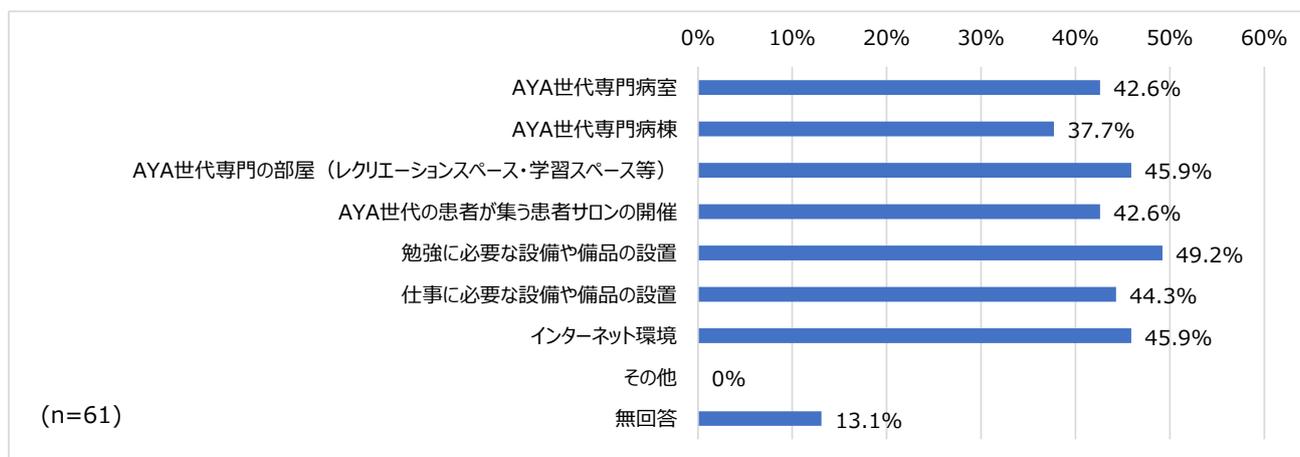
- ・ 院長、副院長
- ・ 診療部門長（外科、内科、腫瘍センター等）
- ・ ホスピス長
- ・ 医長、医師 等

② AYA世代がん患者の療養環境

問3 AYA世代のがん患者のための院内設備・院内環境として、どのようなものが不足し、必要だと考えていますか（当てはまるものを全て選択してください）。

AYA世代のがん患者のための院内設備・院内環境として、不足・必要と考えるものは、「勉強に必要な設備や備品の設置」が49.2%と最も多く、次いで「AYA世代専用の部屋（レクリエーションスペース・学習スペース等）」「インターネット環境」がそれぞれ45.9%であった。

図表 45 AYA世代のがん患者のための院内設備・院内環境として、不足・必要と考えるもの



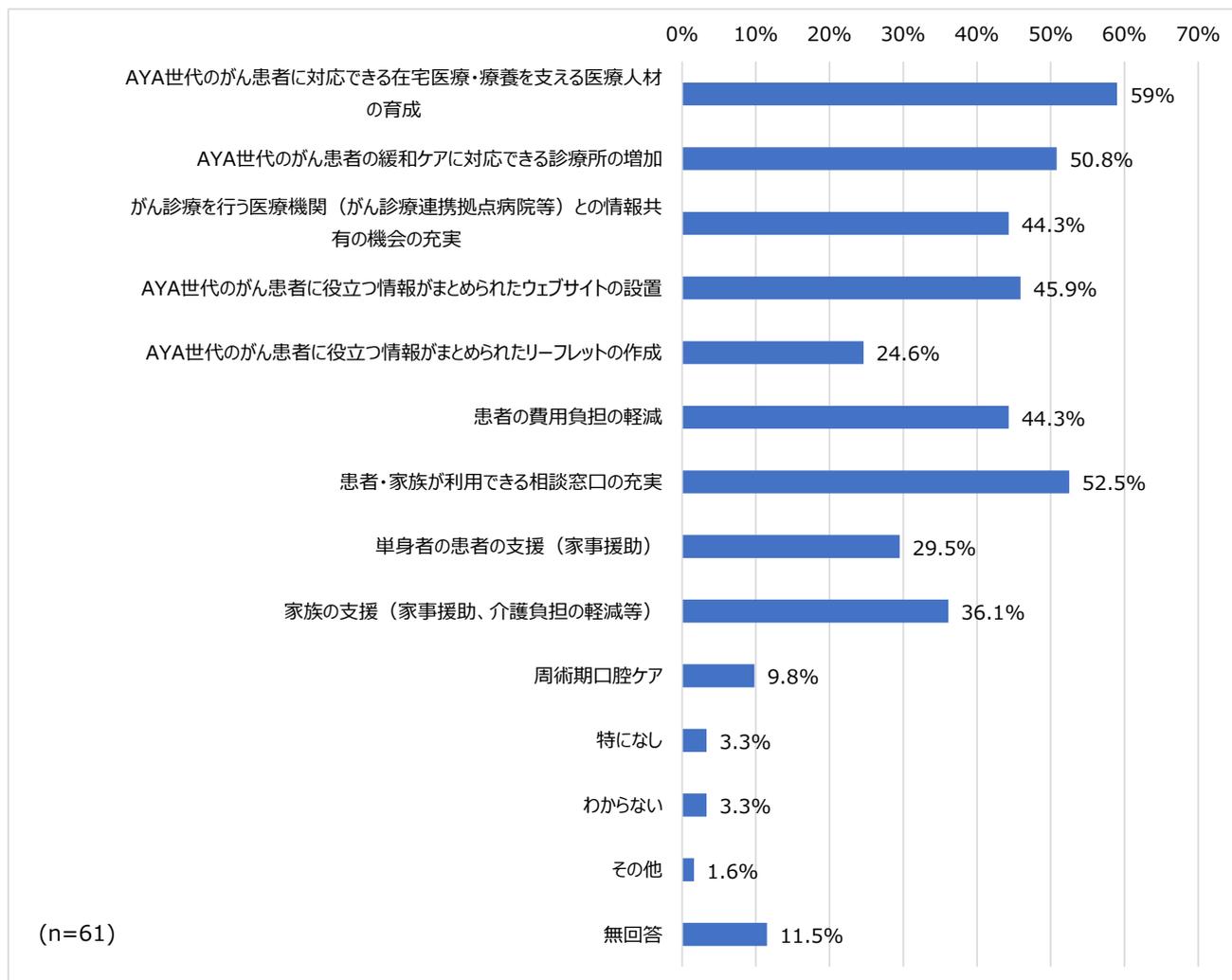
第2章 調査結果（単純集計）

【D1】Aを除く都内病院 がん診療責任者

問4 AYA世代のがん患者の在宅医療・療養、緩和ケアに関して、今後充実させる必要があると考える取組は何ですか（当てはまるものを全て選択してください）。

AYA世代のがん患者の在宅医療・療養、緩和ケアに関して、今後充実させる必要があると考える取組は、「AYA世代のがん患者に対応できる在宅医療・療養を支える医療人材の育成」が59%と最も多く、次いで「患者・家族が利用できる相談窓口の充実」が52.5%であった。

図表 46 AYA世代のがん患者の在宅医療・療養、緩和ケアに関して、今後充実させる必要があると考える取組



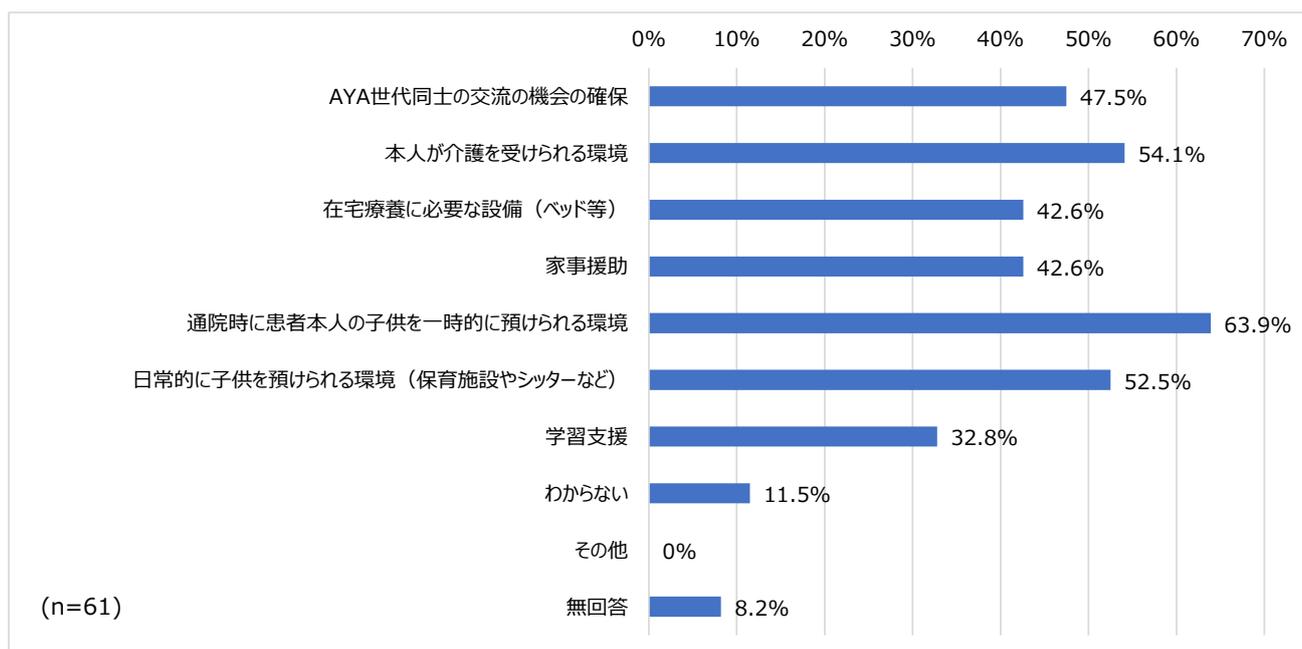
第2章 調査結果（単純集計）

【D1】Aを除く都内病院 がん診療責任者

問5-1 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）は何ですか（当てはまるものを全て選択してください）。※通院期間中の時期

AYA世代のがん患者の通院期間中の時期において、身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）は、「通院時に患者本人の子供を一時的に預けられる環境」が63.9%と最も多く、次いで「本人が介護を受けられる環境」が54.1%であった。

図表 47 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【※通院期間中の時期】



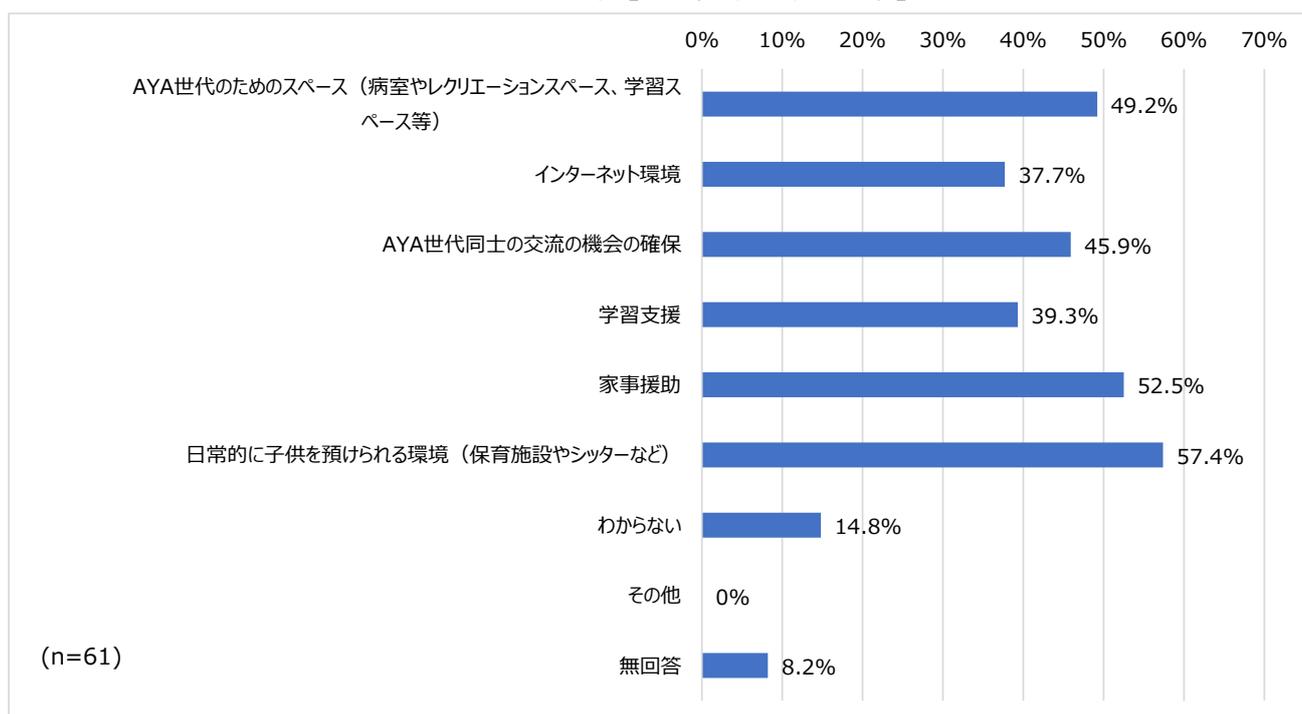
第2章 調査結果（単純集計）

【D1】Aを除く都内病院 がん診療責任者

問5-2 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）は何ですか（当てはまるものを全て選択してください）。※入院治療中の時期

AYA世代のがん患者の入院治療中の時期において、身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）は、「日常的に子供を預けられる環境（保育施設やシッターなど）」が57.4%と最も多く、次いで「家事援助」が52.5%であった。

図表 48 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【※入院治療中の時期】



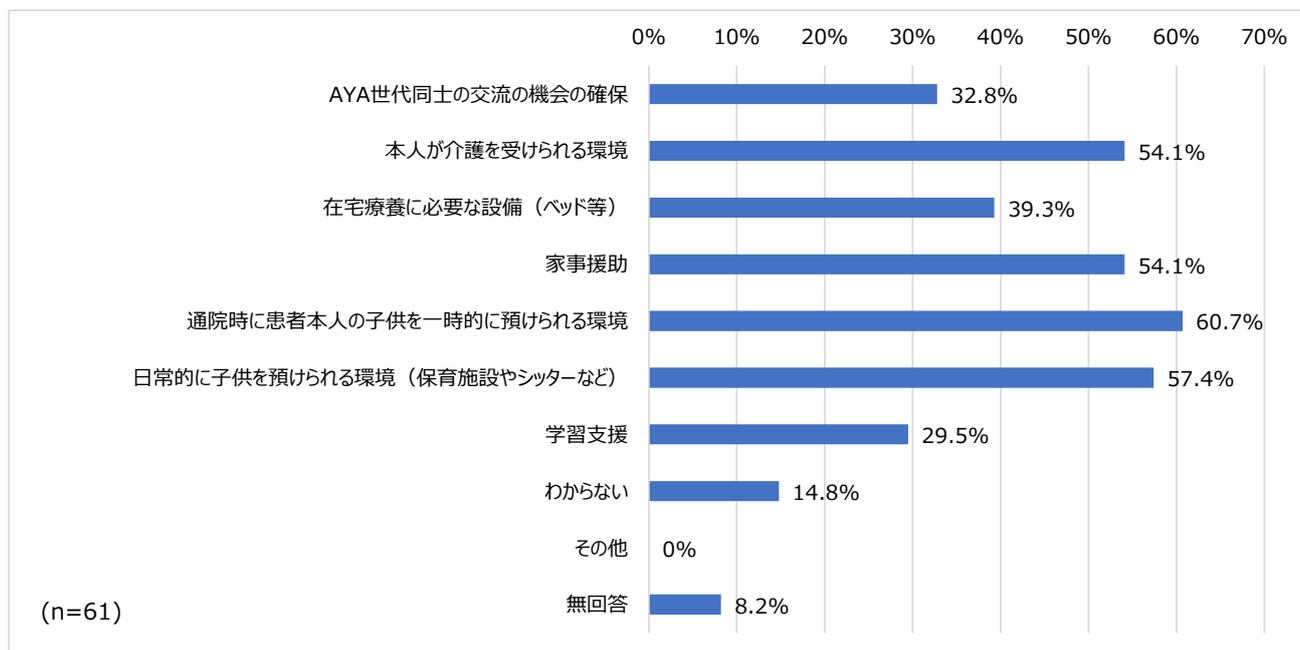
問5-3 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）は何ですか（当てはまるものを全て選択してください）。※在宅療養中の時期

AYA世代のがん患者の在宅療養中の時期において、身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）は、「通院時に患者本人の子供を一時的に預けられる環境」が60.7%と最も多く、次いで「日常的に子供を預けられる環境（保育施設やシッターなど）」が57.4%であった。

第2章 調査結果（単純集計）

【D1】Aを除く都内病院 がん診療責任者

図表 49 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【※在宅療養中の時期】



第2章 調査結果（単純集計）

【D2】 Aを除く都内病院 相談支援センター／患者相談窓口

4. 【D2】 Aを除く都内病院 相談支援センター／患者相談窓口

① 基本情報

問1-1 ご記入者の役職についてお伺いたします。

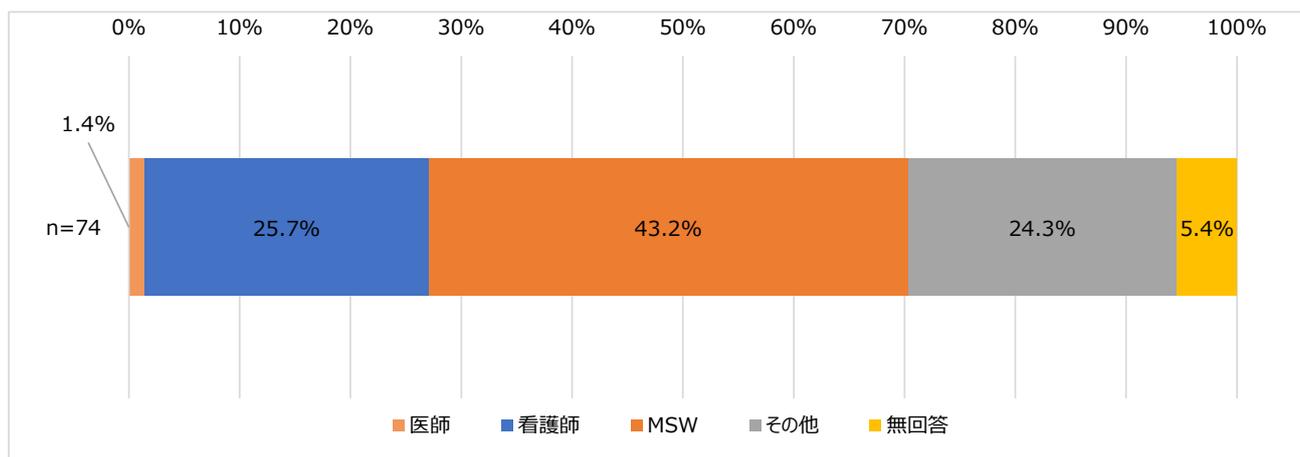
<主な回答の内訳>

- ・ 患者相談窓口責任者及びスタッフ
- ・ 地域連携部門責任者及びスタッフ
- ・ 入退院支援部門責任者及びスタッフ 等

問1-2 ご記入者の職種を教えてください。

回答者の職種は、「MSW」が43.2%と最も多く、次いで「看護師」が25.7%であった。

図表 50 回答者の職種



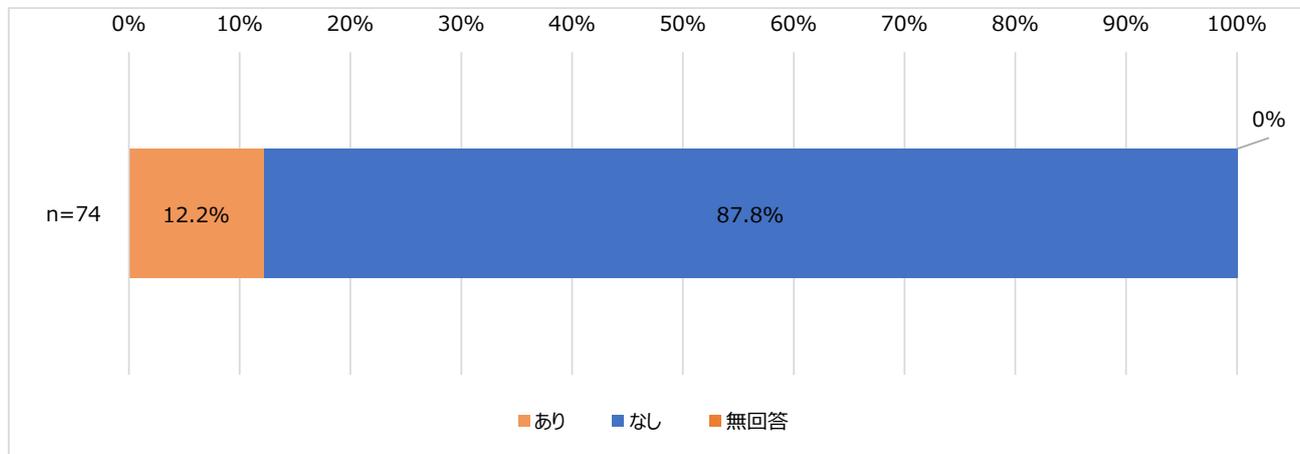
第2章 調査結果（単純集計）

【D2】 Aを除く都内病院 相談支援センター／患者相談窓口

問2-1 両立支援コーディネーターの配置の有無

両立支援コーディネーターの配置状況は、「あり」が12.2%、「なし」が87.8%であった。

図表 51 両立支援コーディネーターの配置状況

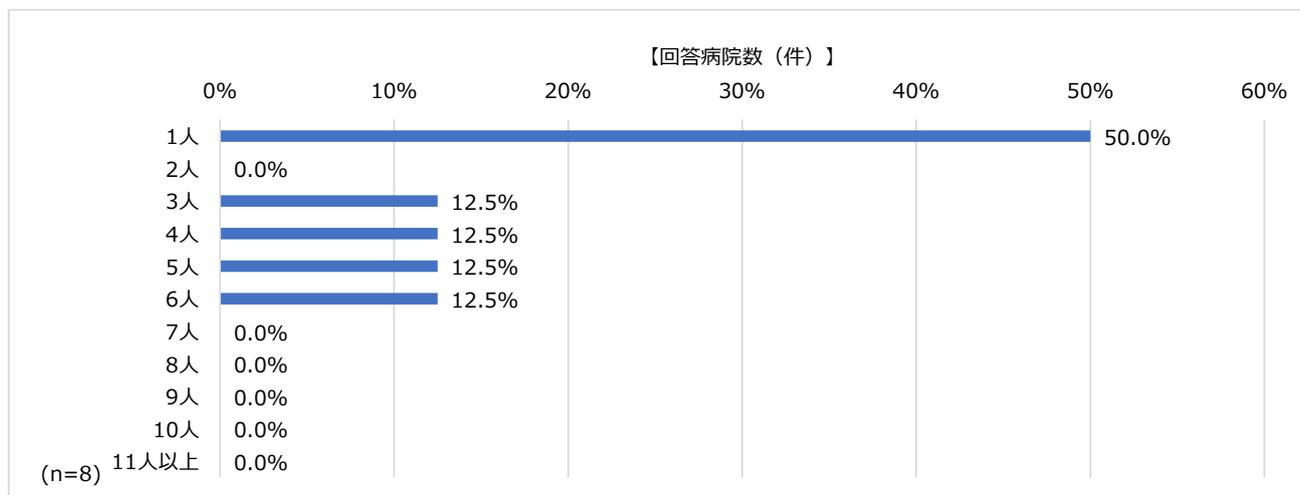


問2-2 両立支援コーディネーターを配置している場合、合計の人数を教えてください。

問2-1において「あり」と回答した場合の、両立支援コーディネーターの配置人数は、「1人」が44.4%と最も多く、次いで「0人」「3人」「4人」「5人」「6人」がそれぞれ11.1%であった。

【※問2-1において「あり」と回答した者を対象に集計】

図表 52 両立支援コーディネーターの配置人数



第2章 調査結果（単純集計）

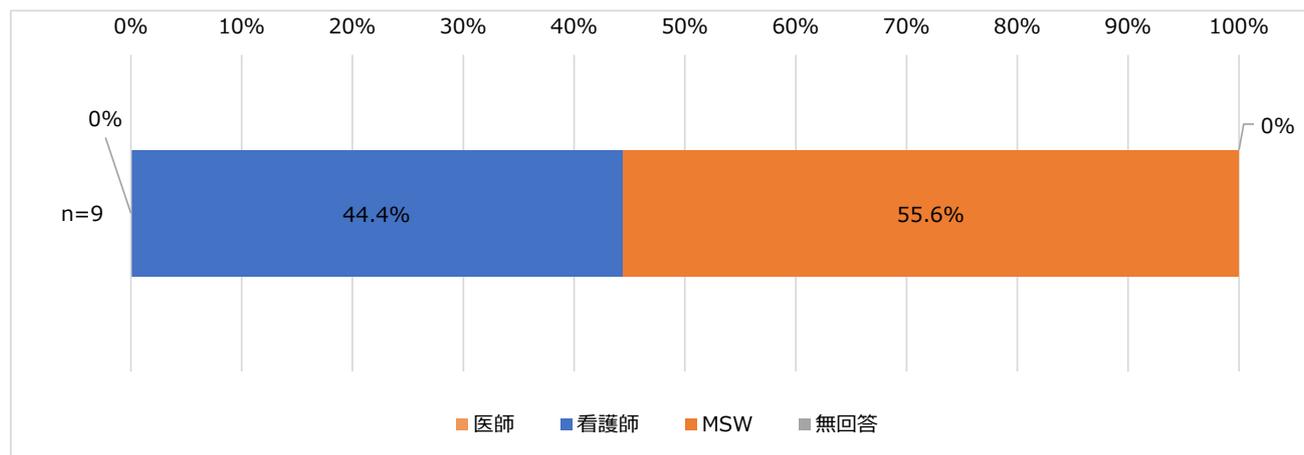
【D2】 Aを除く都内病院 相談支援センター／患者相談窓口

問2-3 両立支援コーディネーターを配置している場合、職種を教えてください。

問2-1において「あり」と回答した場合の、配置している両立支援コーディネーターの職種は、「MSW」が55.6%と最も多く、次いで「看護師」が44.4%であった。

【※問2-1において「あり」と回答した者を対象に集計】

図表 53 配置している両立支援コーディネーターの職種



第2章 調査結果（単純集計）

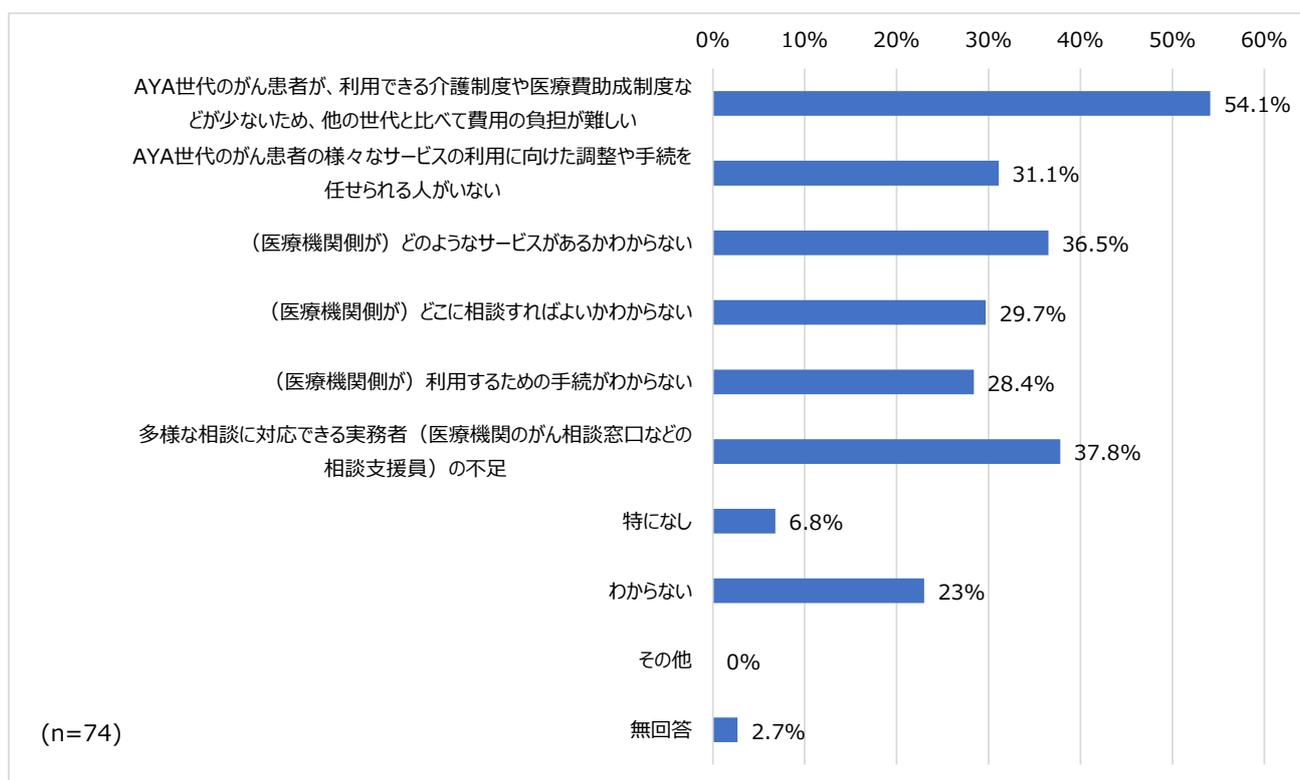
【D2】Aを除く都内病院 相談支援センター／患者相談窓口

② AYA世代がん患者への介護サービス

問 19 AYA世代のがん患者の介護サービス利用に当たっての課題は何ですか（あてはまるものを全て選択してください）。

AYA世代のがん患者の介護サービス利用に当たっての課題は、「AYA世代のがん患者が、利用できる介護制度や医療費助成制度などが少ないため、他の世代と比べて費用の負担が難しい」が54.1%と最も多く、次いで「多様な相談に対応できる実務者（医療機関のがん相談窓口などの相談支援員）の不足」が37.8%であった。

図表 54 AYA世代のがん患者の介護サービス利用に当たっての課題



第2章 調査結果（単純集計）

【E1-2】診療所（在宅療養支援診療所） 施設代表者

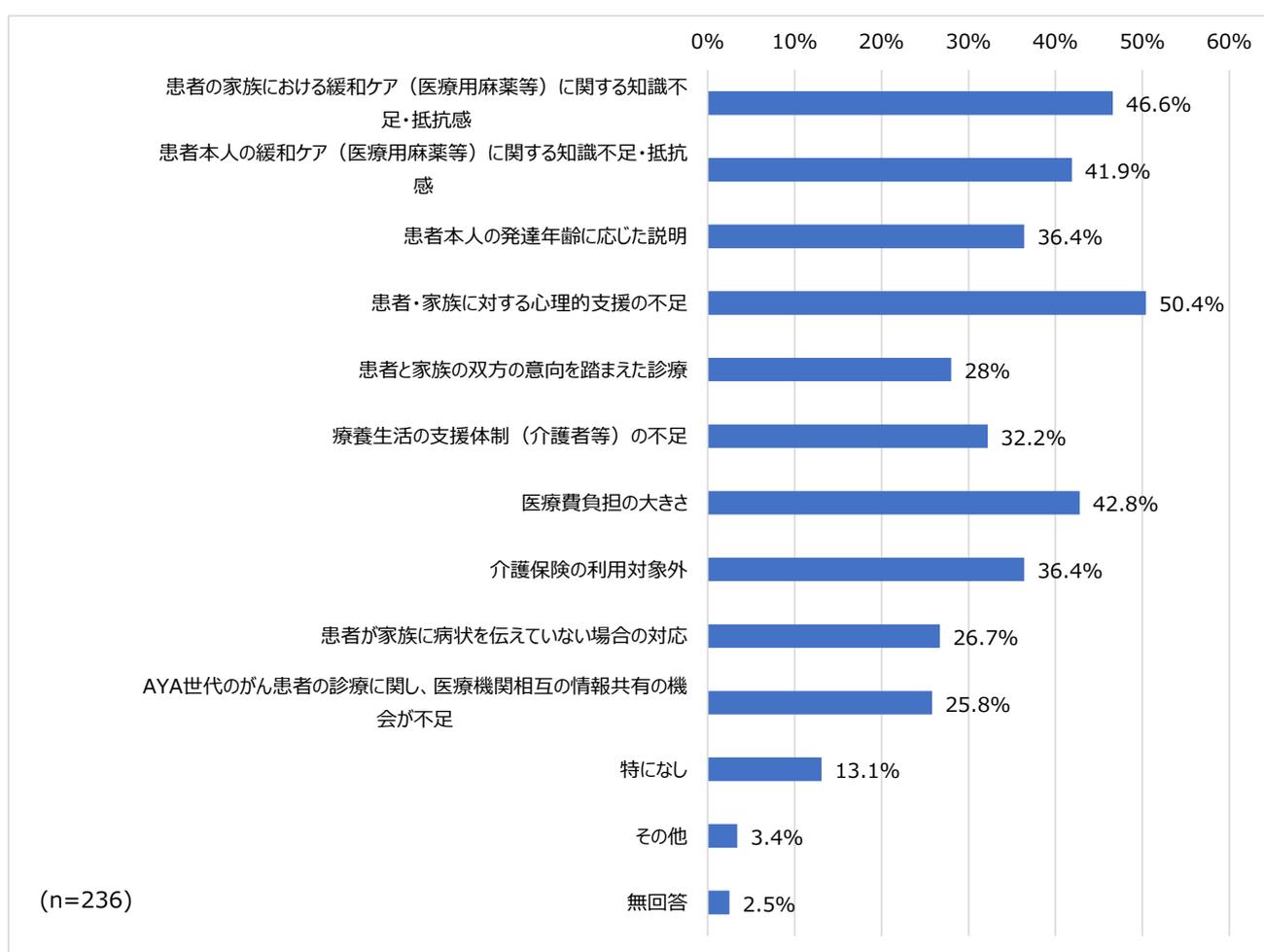
5. 【E1-2】診療所（在宅療養支援診療所） 施設代表者

① AYA世代がん患者の療養環境

問1 AYA世代のがん患者への在宅医療・療養、緩和ケアに対応するにあたって課題や困難なこととしてどのようなものがありますか（当てはまるものを全て選択してください）。

AYA世代のがん患者への在宅医療・療養、緩和ケアに対応するにあたっての課題や困難なことは、「患者・家族に対する心理的支援の不足」が50.4%と最も多く、次いで「患者の家族における緩和ケア（医療用麻薬等）に関する知識不足・抵抗感」が46.6%であった。

図表 55 AYA世代のがん患者への在宅医療・療養、緩和ケアに対応するにあたっての課題や困難なこと



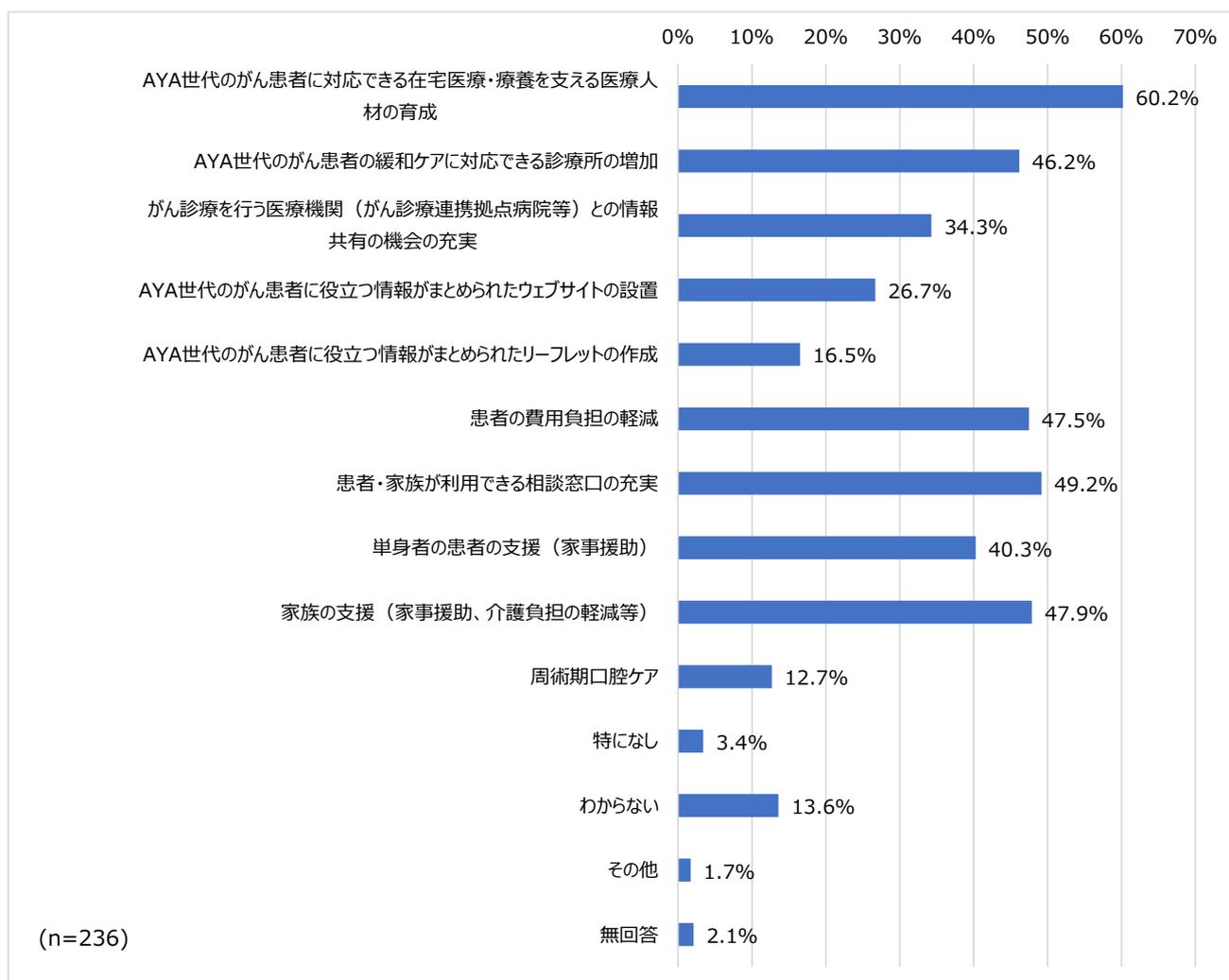
第2章 調査結果（単純集計）

【E1-2】診療所（在宅療養支援診療所） 施設代表者

問2 AYA世代のがん患者の在宅医療・療養、緩和ケアに関して、今後充実させる必要があると考える取組は何ですか（当てはまるものを全て選択してください）。

AYA世代のがん患者の在宅医療・療養、緩和ケアに関して、今後充実させる必要があると考える取組は、「AYA世代のがん患者に対応できる在宅医療・療養を支える医療人材の育成」が60.2%と最も多く、次いで「患者・家族が利用できる相談窓口の充実」が49.2%であった。

図表 56 AYA世代のがん患者の在宅医療・療養、緩和ケアに関して、今後充実させる必要があると考える取組



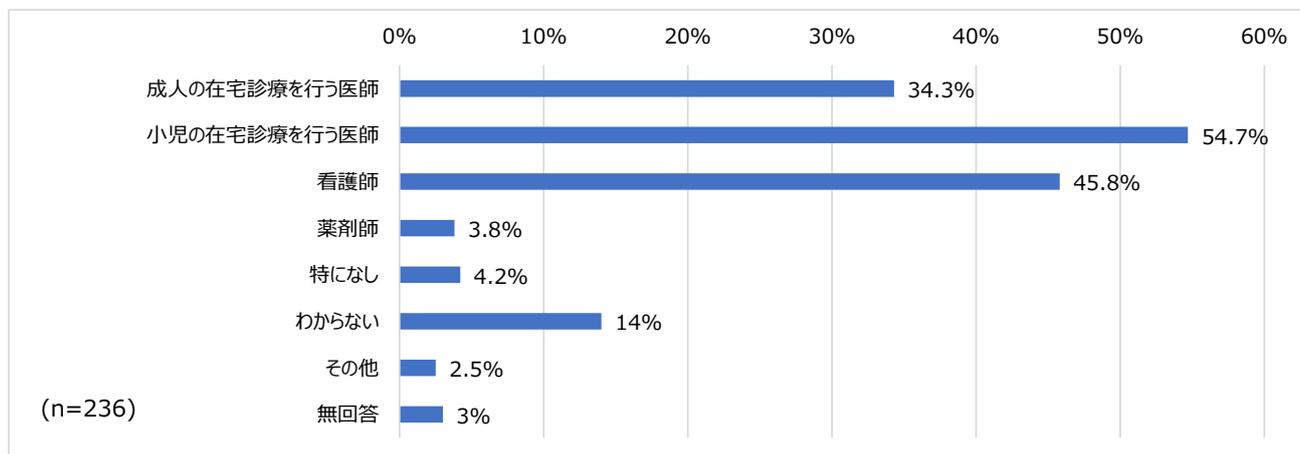
第2章 調査結果（単純集計）

【E1-2】診療所（在宅療養支援診療所） 施設代表者

問3 AYA世代のがん患者への在宅医療・療養を充実させるため育成が必要な職種は何ですか（当てはまるものを2つまで選択してください）。

AYA世代のがん患者への在宅医療・療養を充実させるため育成が必要な職種は、「小児の在宅診療を行う医師」が54.7%と最も多く、次いで「看護師」が45.8%であった。

図表 57 AYA世代のがん患者への在宅医療・療養を充実させるため育成が必要な職種



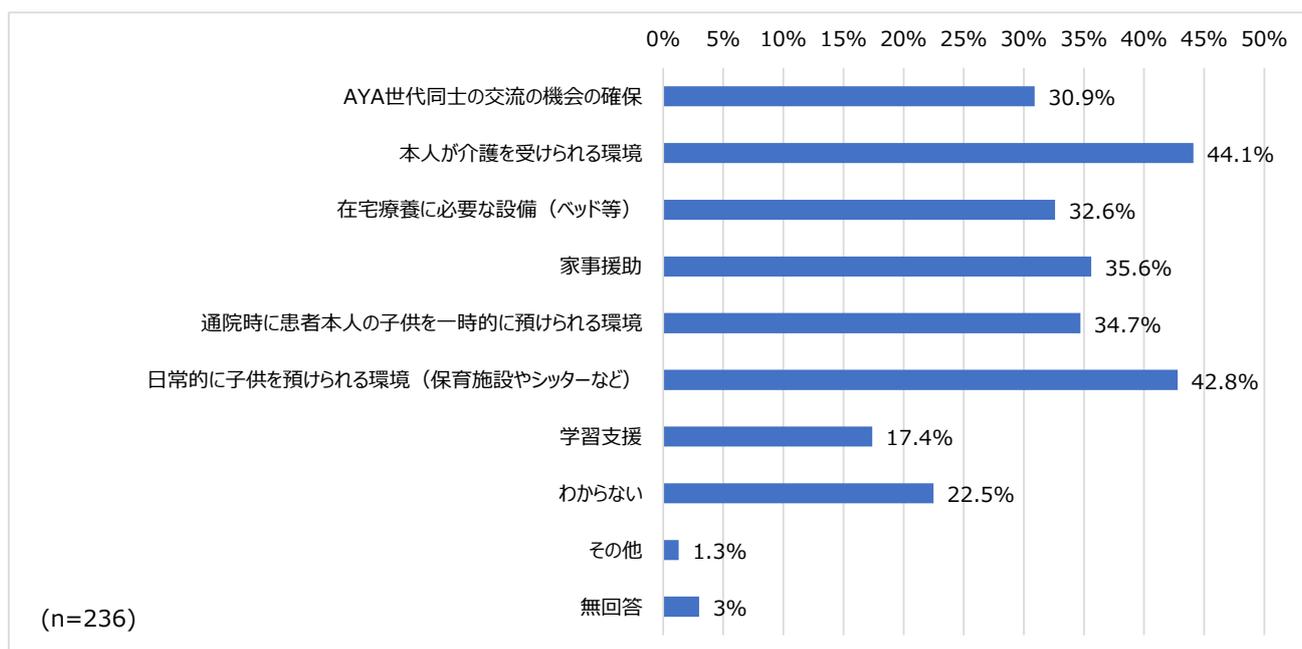
第2章 調査結果（単純集計）

【E1-2】診療所（在宅療養支援診療所） 施設代表者

問4-1 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）は何ですか（当てはまるものを全て選択してください）。※通院期間中の時期

AYA世代のがん患者の通院期間中の時期において、身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）は、「本人が介護を受けられる環境」が44.1%と最も多く、次いで「日常的に子供を預けられる環境（保育施設やシッターなど）」が42.8%であった。

図表 58 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【※通院期間中の時期】



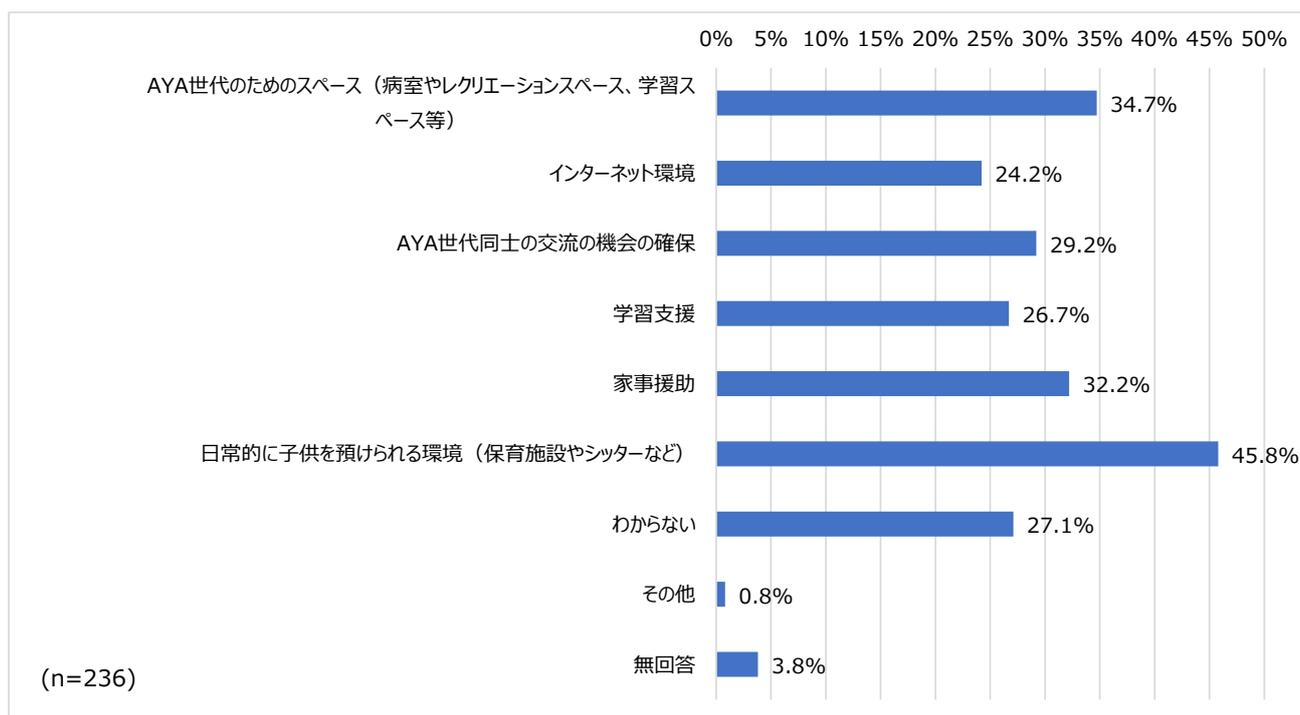
第2章 調査結果（単純集計）

【E1-2】診療所（在宅療養支援診療所） 施設代表者

問4-2 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）は何ですか（当てはまるものを全て選択してください）。※入院治療中の時期

AYA世代のがん患者の入院治療中の時期において、身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）は、「日常的に子供を預けられる環境（保育施設やシッターなど）」が45.8%と最も多く、次いで「AYA世代のためのスペース（病室やレクリエーションスペース、学習スペース等）」が34.7%であった。

図表 59 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【※入院治療中の時期】



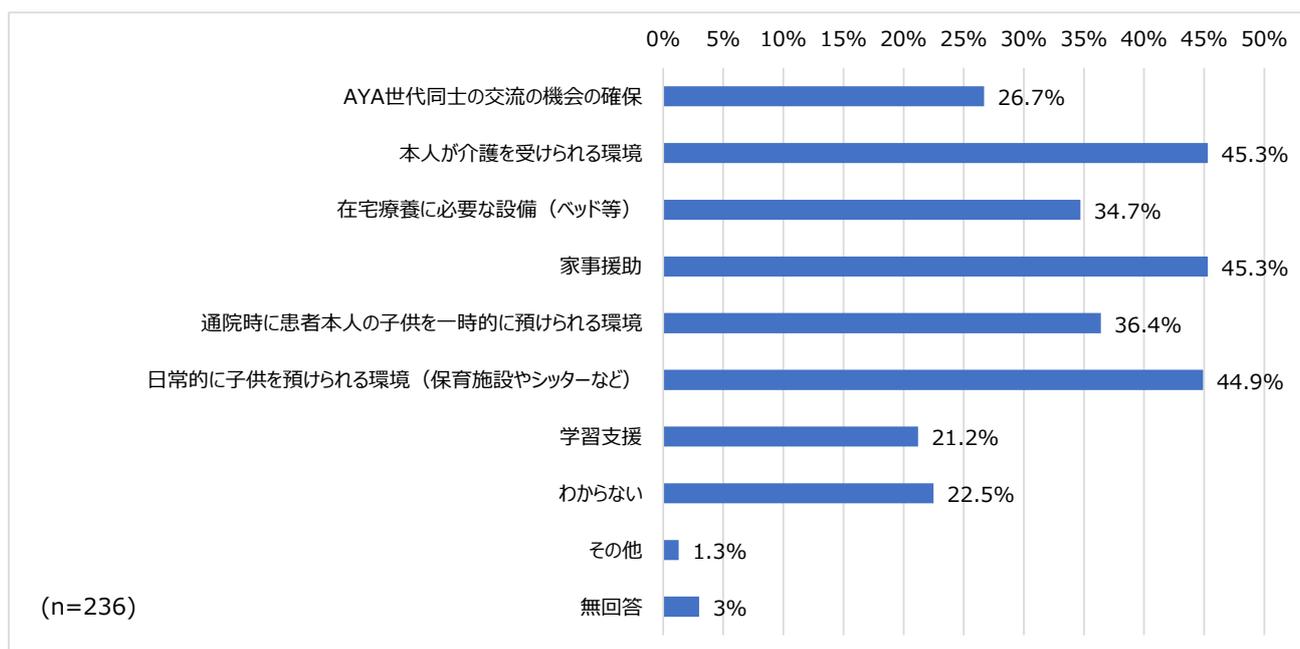
第2章 調査結果（単純集計）

【E1-2】診療所（在宅療養支援診療所） 施設代表者

問4-3 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）は何ですか（当てはまるものを全て選択してください）。※在宅療養中の時期

AYA世代のがん患者の在宅療養中の時期において、身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）は、「本人が介護を受けられる環境」と「家事援助」がそれぞれ45.3%と最も多く、次いで「日常的に子供を預けられる環境（保育施設やシッターなど）」が44.9%であった。

図表 60 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【※在宅療養中の時期】



第2章 調査結果（単純集計）

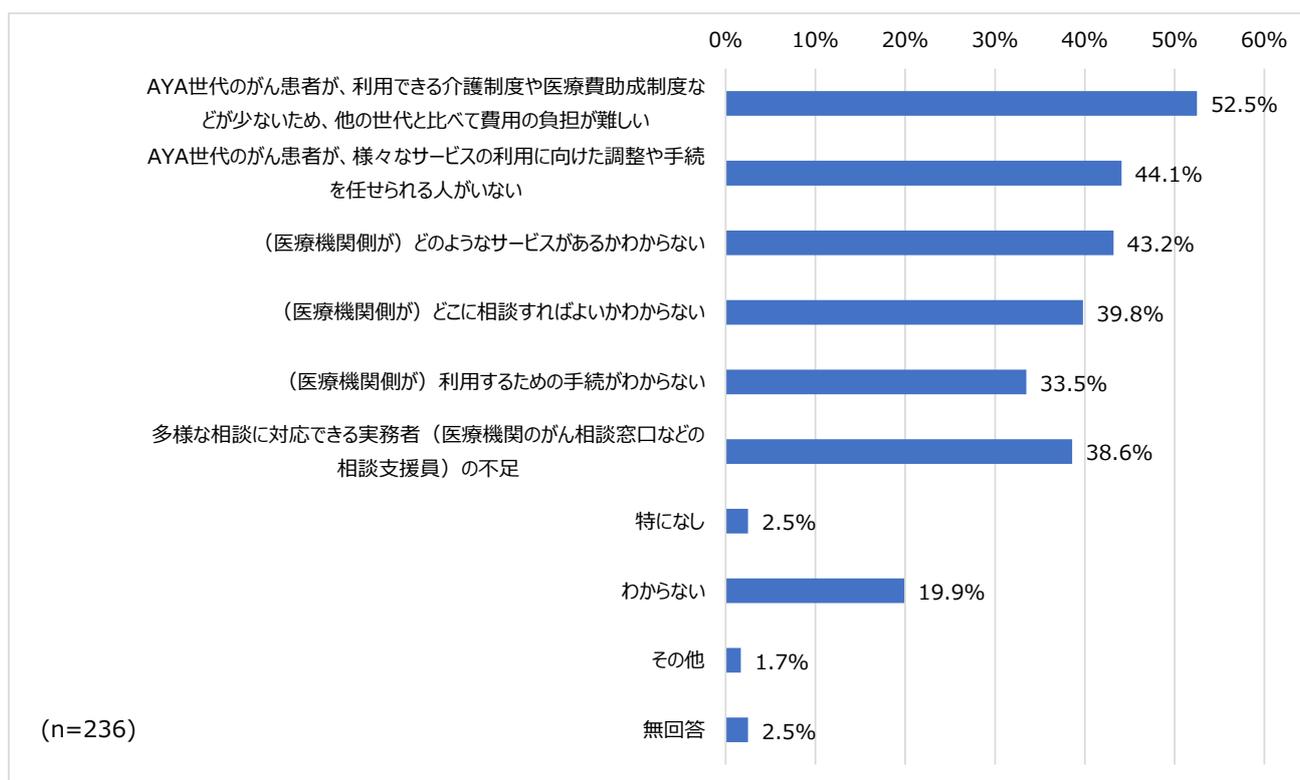
【E1-2】診療所（在宅療養支援診療所） 施設代表者

② AYA世代がん患者への介護サービス

問5 AYA世代のがん患者の介護サービス利用に当たっての課題について、あてはまるものを全て選択してください。

AYA世代のがん患者の介護サービス利用に当たっての課題は、「AYA世代のがん患者が、利用できる介護制度や医療費助成制度などが少ないため、他の世代と比べて費用の負担が難しい」が52.5%と最も多く、次いで「AYA世代のがん患者が、様々なサービスの利用に向けた調整や手続を任せられる人がいない」が44.1%であった。

図表 61 AYA世代のがん患者の介護サービス利用に当たっての課題



第2章 調査結果（単純集計）

【F1】生殖機能温存治療指定医療機関

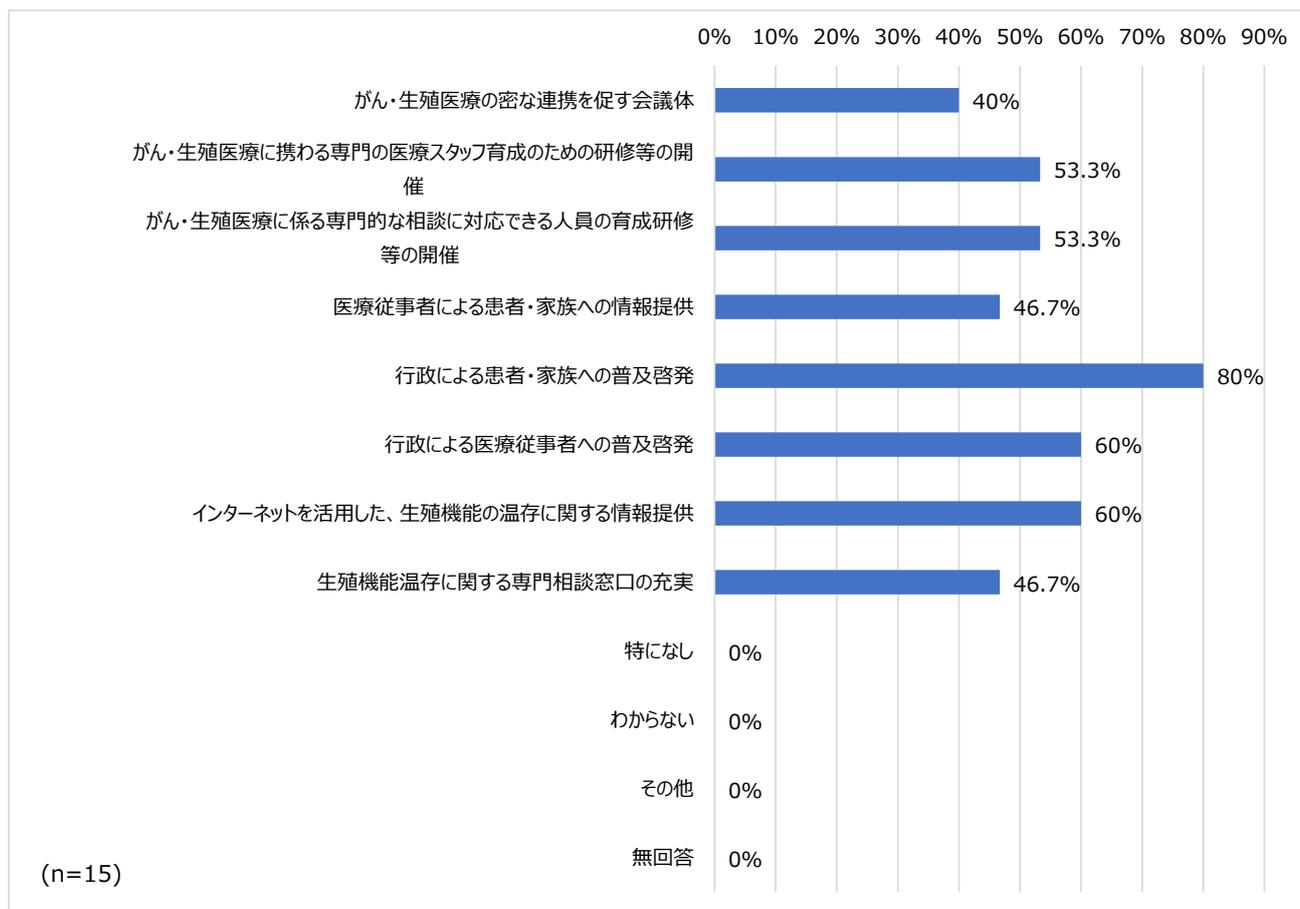
6. 【F1】生殖機能温存治療指定医療機関

① がん・生殖医療

問1 生殖機能温存に関して、今後充実させる必要があると考える取組は何ですか。あてはまるものを全て選択してください。

生殖機能温存に関して、今後充実させる必要があると考える取組は、「行政による患者・家族への普及啓発」が80%と最も多く、次いで「行政による医療従事者への普及啓発」「インターネットを活用した、生殖機能の温存に関する情報提供」がそれぞれ60%であった。

図表 62 生殖機能温存に関して、今後充実させる必要があると考える取組



第3章 課題の整理

1. A Y A世代がん患者に対する診療について

① A Y A世代がん患者の診療

現状

＜A Y A世代がん患者を受け入れる（診療する）際の診療科の決定方法＞【図表 9、図表 10】

指定病院全体においては、「紹介状等を受け取った診療科で対応している」が65.2%と最も多く、次いで「方針などはないが、症例が発生した場合、院内スタッフ内でカンファレンス等を開催し、個別に対応している」「小児科や成人診療科の医師同士の個人的なつながりにより、連携をしている」がそれぞれ13%であった。

小児がん関係の指定を受けている病院に限って見た場合も、回答の傾向に大きな差はみられなかった。

＜A Y A世代がんのがん患者の診察を行うに当たり、今後充実することが必要だと考える取組＞【図表 11、図表 12】

指定病院全体においては、「A Y A世代がん患者に対応できる相談支援部門の充実、連携強化」が56.5%と最も多く、次いで「関係診療科間や多職種間での患者情報の共有」「A Y A世代がん患者の治療や相談支援についてコンサルテーションできるA Y A支援チームの設置または対応拡大・強化」がそれぞれ52.2%であった。

小児がん関係の指定を受けている病院に限って見た場合、「A Y A世代がん患者のための療養環境の整備」との回答が70%と最も多かった。

課題

＜A Y A世代がん患者を受け入れる（診療する）際の診療科の決定方法＞【図表 9、図表 10】

「病院全体として、統一的な方針やマニュアル等を定め、対応している」又は「方針などはないが、症例が発生した場合、院内スタッフ内でカンファレンス等を開催し、個別に対応している」と回答した病院は全体の2割程度に留まっており、残る8割の病院において、A Y A世代がん患者を受け入れる際の診療科の決定方法が明確に定められていない現状が判明した。

＜A Y A世代がんのがん患者の診察を行うに当たり、今後充実することが必要だと考える取組＞【図表 11、図表 12】

小児がん関係の指定を受けない病院を中心に、「A Y A世代がん患者に対応できる相談支援部門の充実、連携強化」、「関係診療科間や多職種間での患者情報の共有」及び「A Y A世代がん患者の治療や相談支援についてコンサルテーションできるA Y A支援チームの設置または対応拡大・強化」に多くの回答が寄せられたことから、A Y A世代がん患者の治療や相談にあたり、関係者間での連携を含めた受け入れ体制が十分に整っていない可能性が示唆された。

今後検討すべき論点

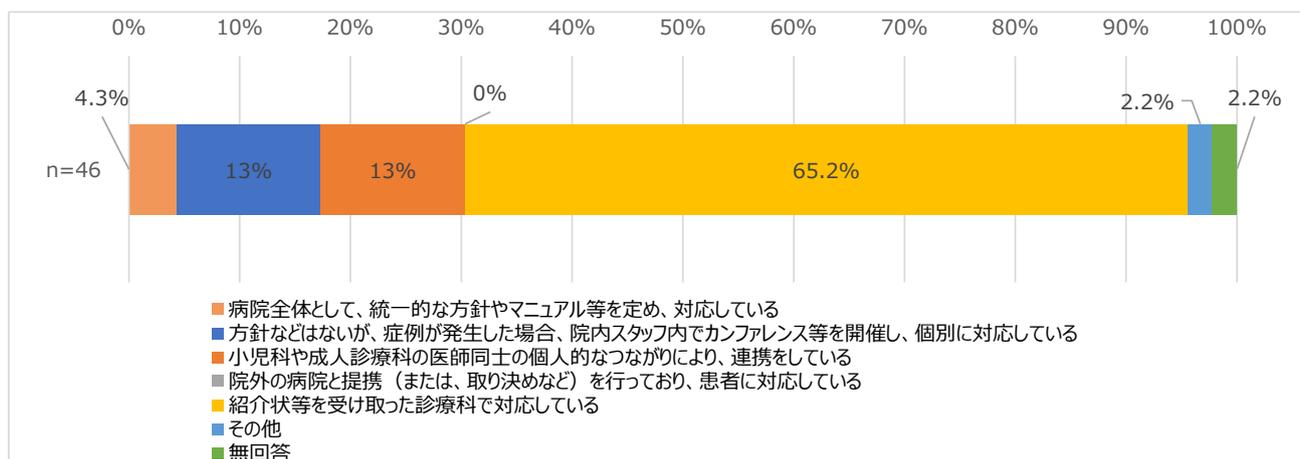
＜AYA世代がん患者を受け入れる（診療する）際の診療科の決定方法＞【図表 9、図表 10】

約8割の病院において、AYA世代がん患者を受け入れる際の診療科の決定方法が明確に定められていないことから、そのことによる影響の有無を確認した上で、今後の対応の方向性を検討していく必要がある。

＜AYA世代がんのがん患者の診察を行うに当たり、今後充実することが必要だと考える取組＞【図表 11、図表 12】

小児がん関係の指定を受けていない病院において、AYA世代の患者の診察を行うにあたっての関係者間での連携を含めた受け入れ体制が十分に整っていない可能性が示唆されたことから、小児がん関係の指定を受けている病院における取組等も踏まえながら、体制の整備について検討していく必要がある。

図表 9 AYA世代がん患者を受け入れる（診療する）際の診療科の決定方法【A1-2問6再掲】

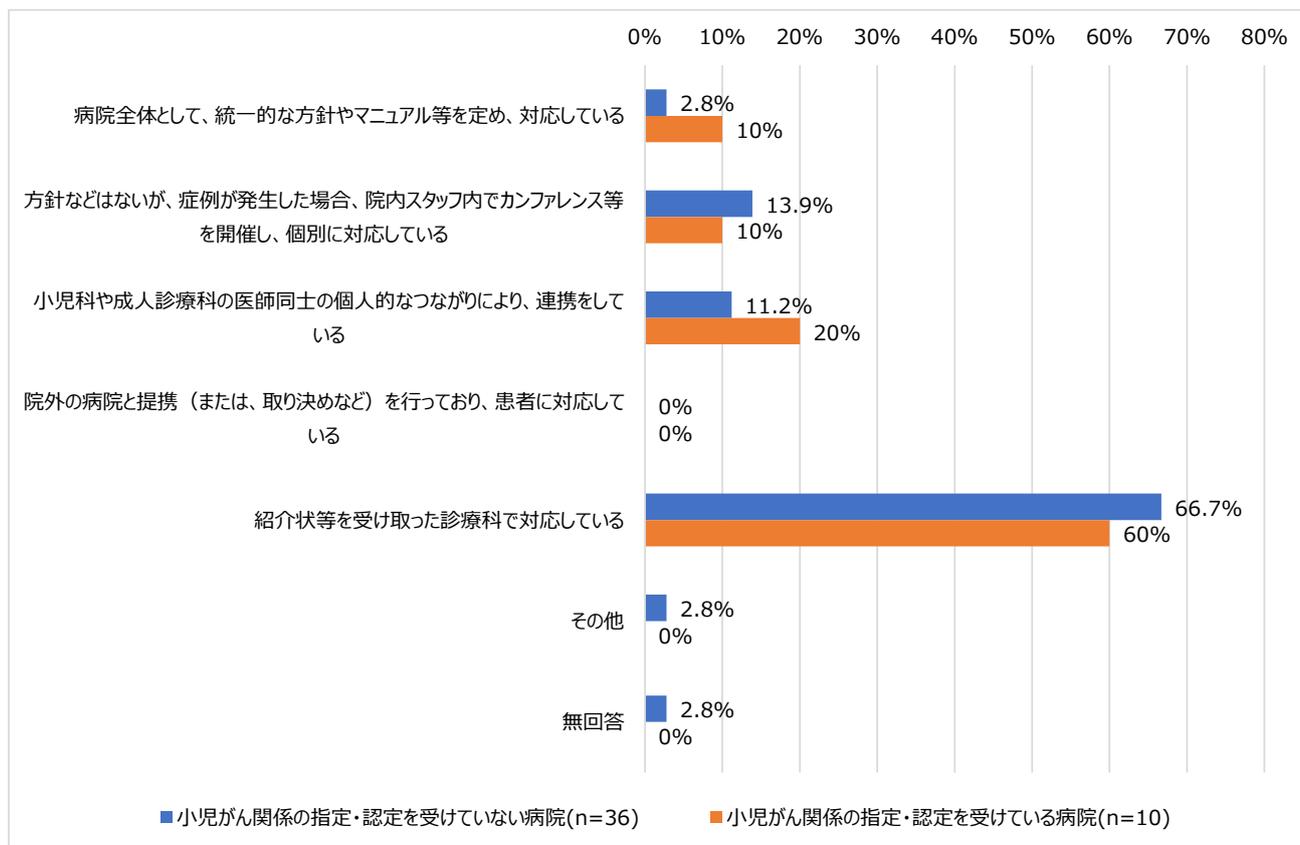


第3章 課題の整理

A Y A世代がん患者に対する診療について

図表 10 A Y A世代がん患者を受け入れる（診療する）際の診療科の決定方法【指定・認定状況別】

【A1-2 問6再掲】

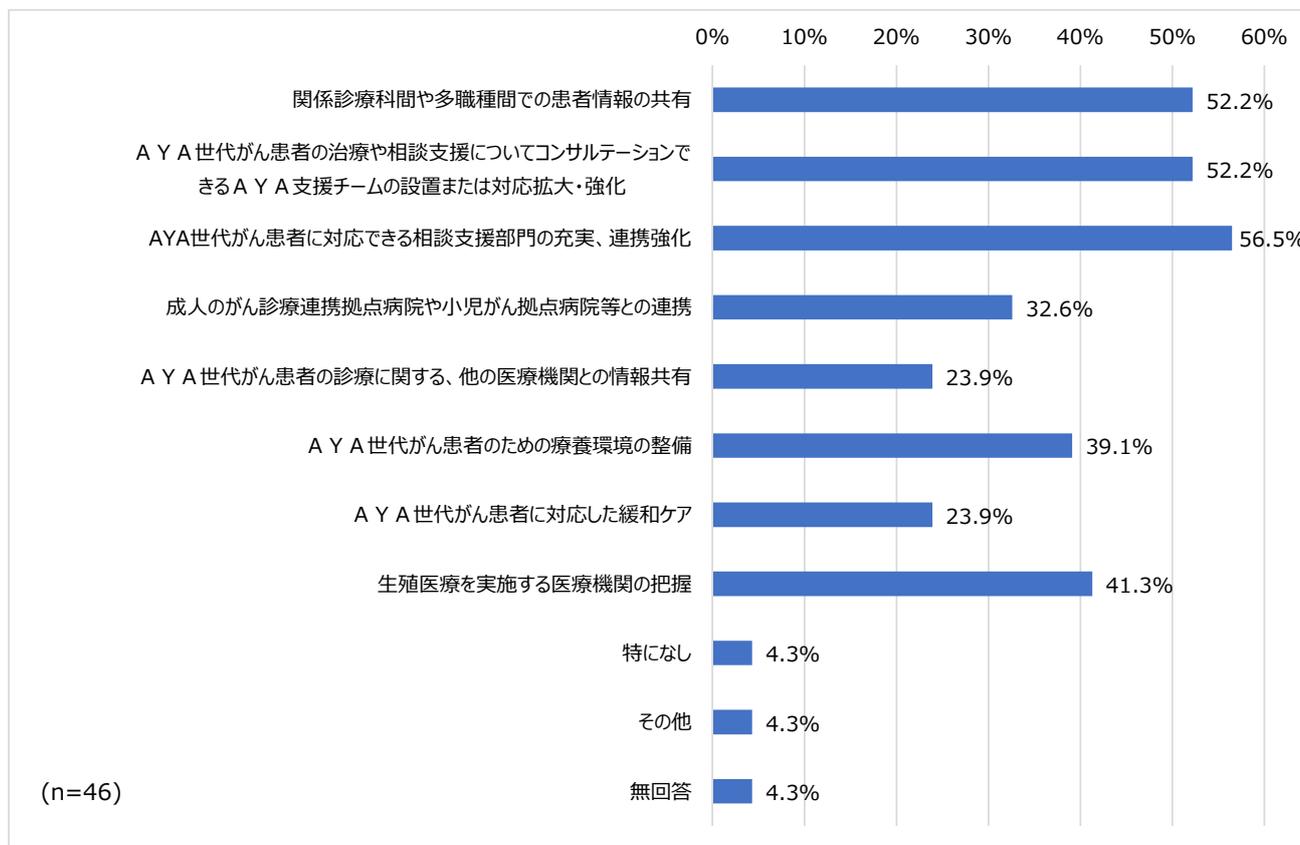


第3章 課題の整理

A Y A世代がん患者に対する診療について

図表 11 A Y A世代のがん患者の診察を行うに当たり、今後充実することが必要だと考える取組

【A1-2 問7再掲】

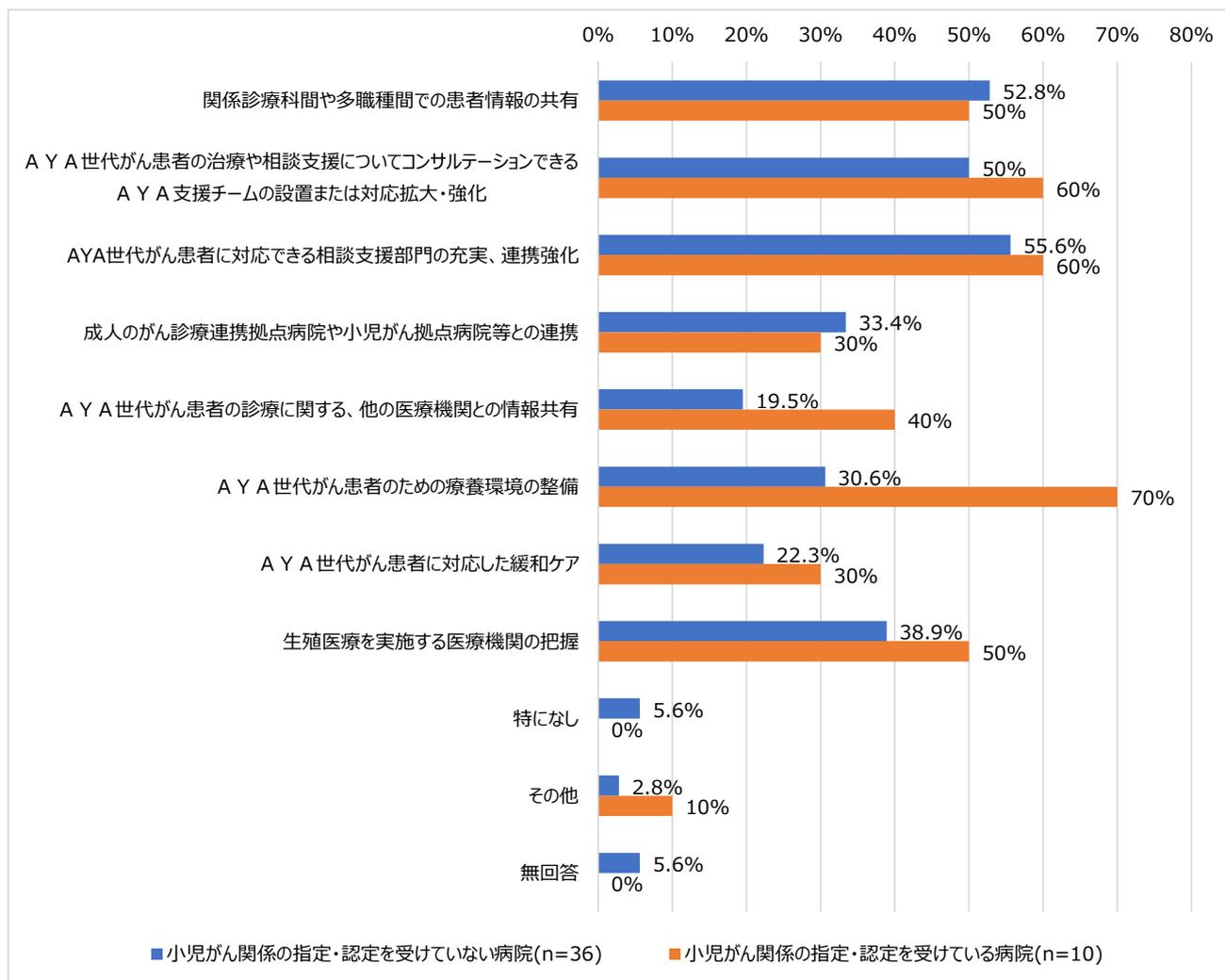


第3章 課題の整理

AYA世代がん患者に対する診療について

図表 12 AYA世代がんのがん患者の診察を行うに当たり、今後充実することが必要だと考える取組

【指定・認定状況別】【A1-2問7再掲】



第3章 課題の整理

A Y A世代がん患者に対する診療について

② 長期フォローアップ

現状

＜成人後の長期フォローアップの実施状況及びその実施方法＞【図表 2、図表 3】

指定病院全体においては、「実施していない」が 34.8%と最も多く、次いで「院内の小児診療科及び成人診療科が連携して実施」が 23.9%であった。

小児がん関係の指定を受けている病院に限って見た場合、「院内の小児診療科及び成人診療科が連携して実施」との回答が 60%と最も多かった。

＜長期フォローアップを院内の成人診療科が行っている場合の診療科＞【図表 4、図表 5】

指定病院全体においては、「合併症に関連する診療科（複数診療科が関連する場合も含む）」が 30%と最も多く、次いで「原疾患に関連する診療科」が 23.3%であった。

小児がん関係の指定を受けている病院に限って見た場合も、「合併症に関連する診療科（複数診療科が関連する場合も含む）」との回答が 50%と最も多かった。

＜長期フォローアップを実施している場合、治療終了後の定期的なフォローアップの内容＞【図表 6、図表 7】

指定病院全体においては、「がんの再発の有無」が 91.3%と最も多く、次いで「体調や健康管理の状況」が 78.3%であった

小児がん関係の指定を受けている病院に限って見た場合、各項目の回答率が他の病院と比べて高い結果となった。

＜長期フォローアップを実施していない場合の理由＞【図表 8】

長期フォローアップを実施していない病院における未実施理由は、「他院へ紹介しているため」が 56.3%と最も多く、次いで「患者が受診しない（希望しない）ため」が 18.8%であった。

課題

＜成人後の長期フォローアップの実施状況及びその実施方法＞【図表 2、図表 3】

小児がん関係の指定を受けている病院では成人後の長期フォローアップの実施率が 100%であった一方、指定を受けていない病院では「実施していない」との回答した病院が 44.5%となっており、小児がん関係の指定を受けていない病院において成人後の長期フォローアップを十分に実施できていない現状が判明した。

今後検討すべき論点

＜成人後の長期フォローアップの実施状況及びその実施方法＞【図表 2、図表 3】

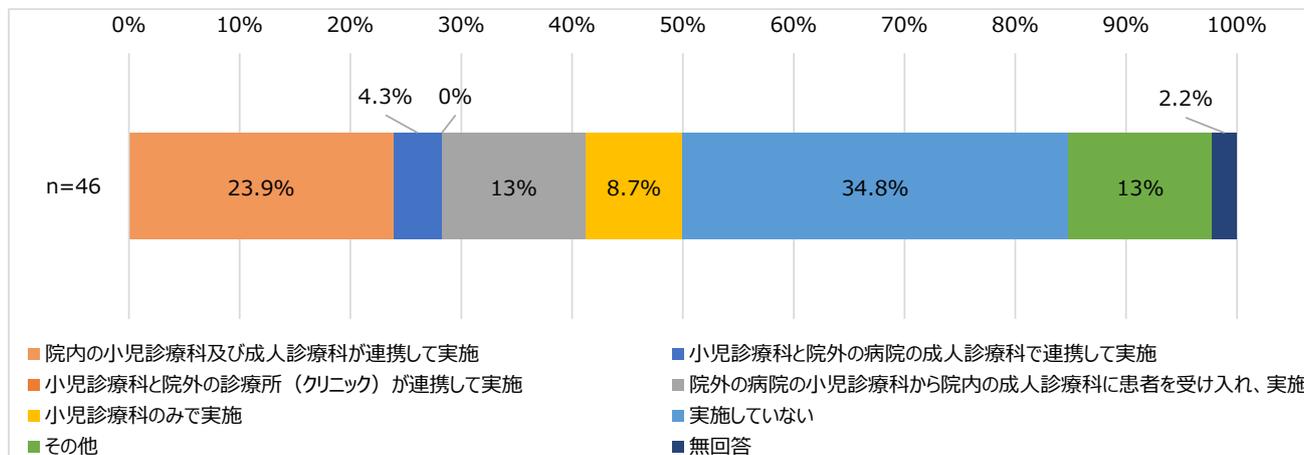
＜長期フォローアップを実施している場合、治療終了後の定期的なフォローアップの内容＞【図表 6、図表 7】

第3章 課題の整理

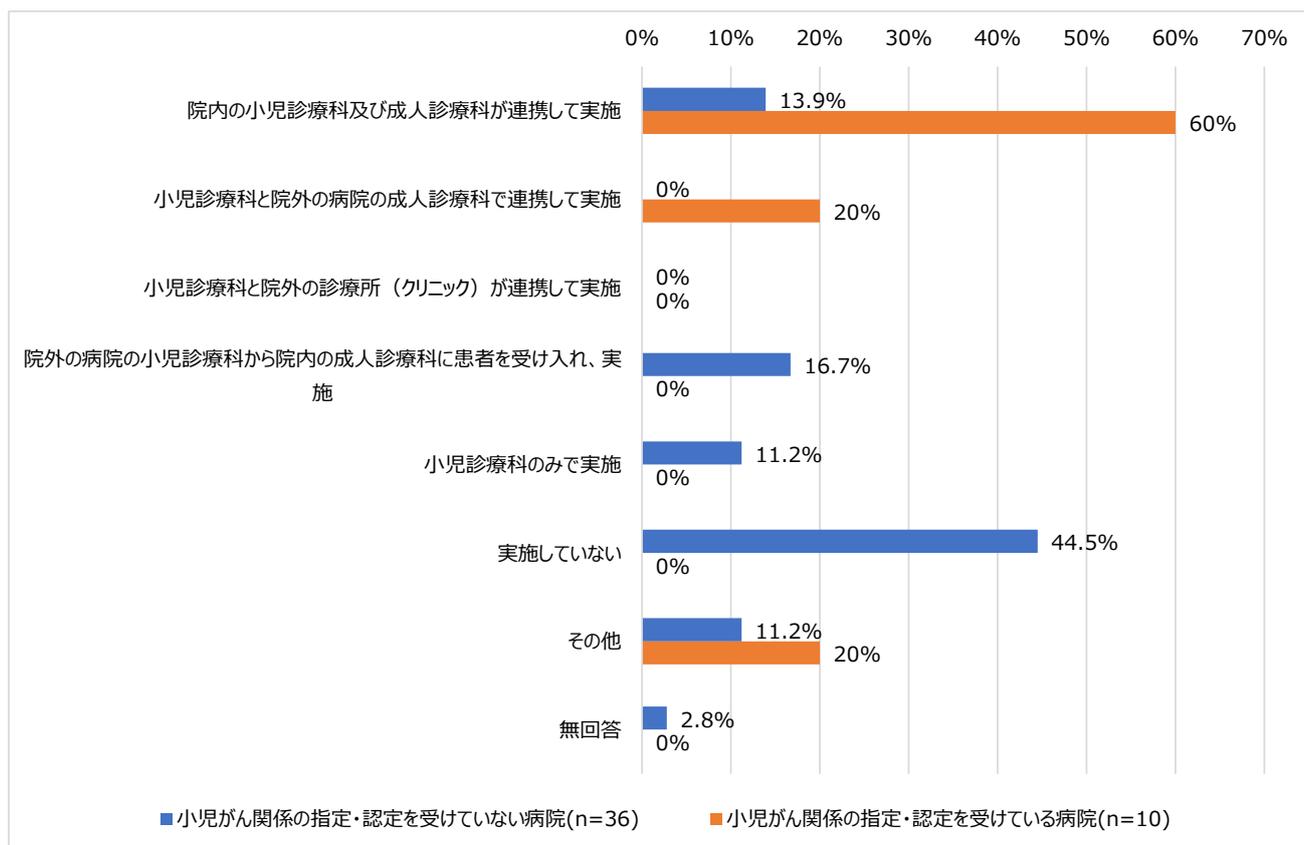
A Y A世代がん患者に対する診療について

小児がん関係の指定を受けていない病院において成人後の長期フォローアップが実施できていない理由をより詳細に確認し、具体的な対応策を検討していく必要がある。

図表 2 成人後の長期フォローアップの実施状況及びその実施方法【A1-2問2再掲】



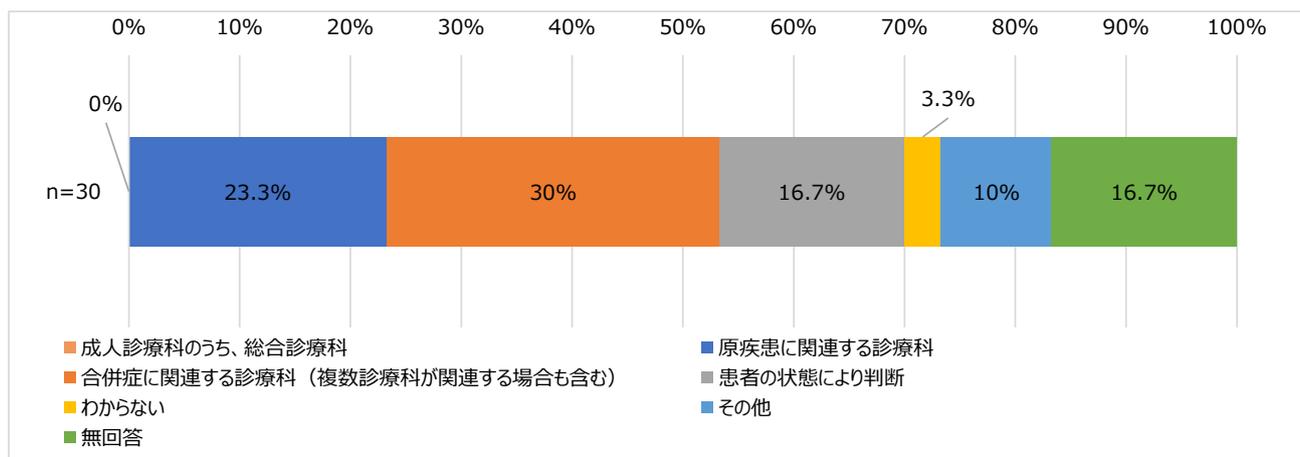
図表 3 成人後の長期フォローアップの実施状況及びその実施方法【指定・認定状況別】
【A1-2問2再掲】



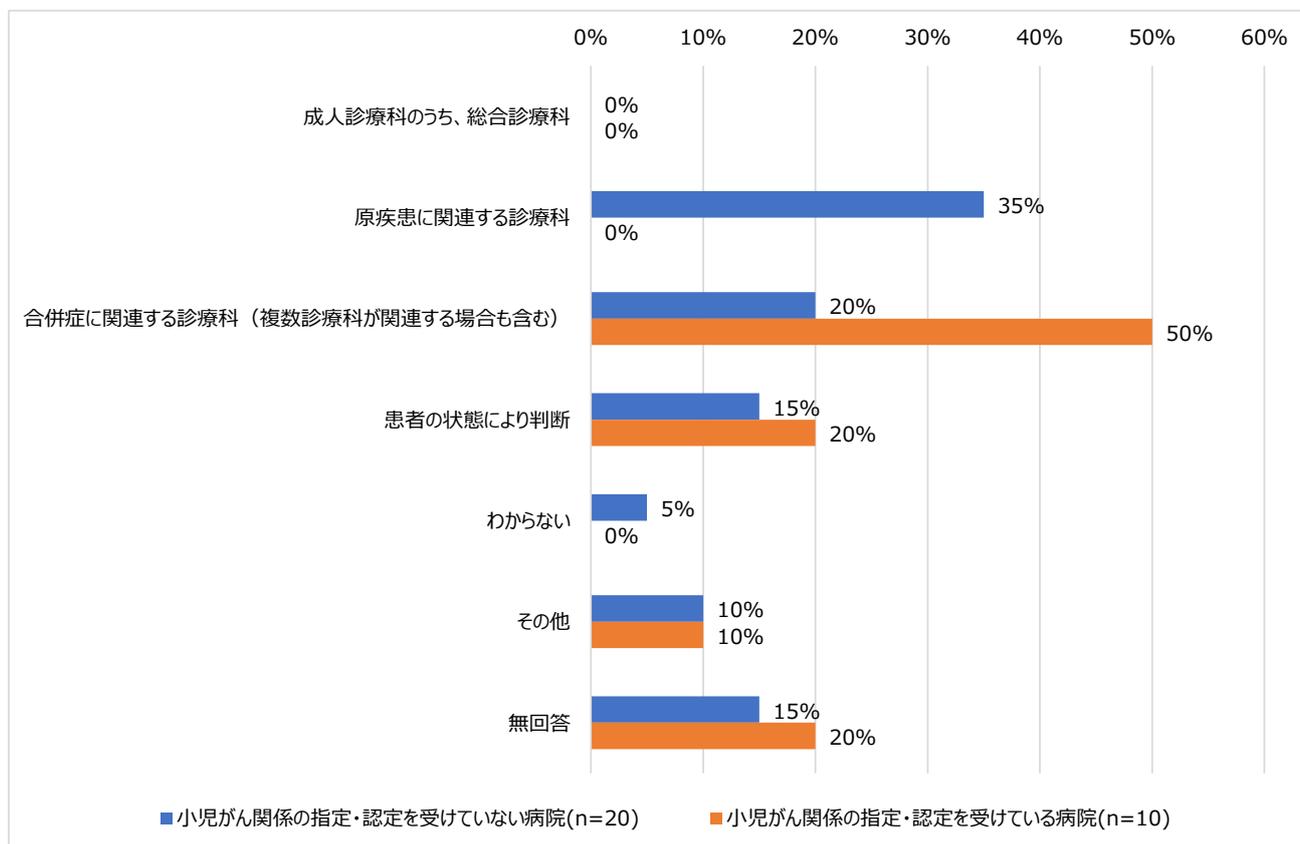
第3章 課題の整理

A Y A世代がん患者に対する診療について

図表 4 長期フォローアップを院内の成人診療科が行っている場合の診療科【A1-2 問3 再掲】



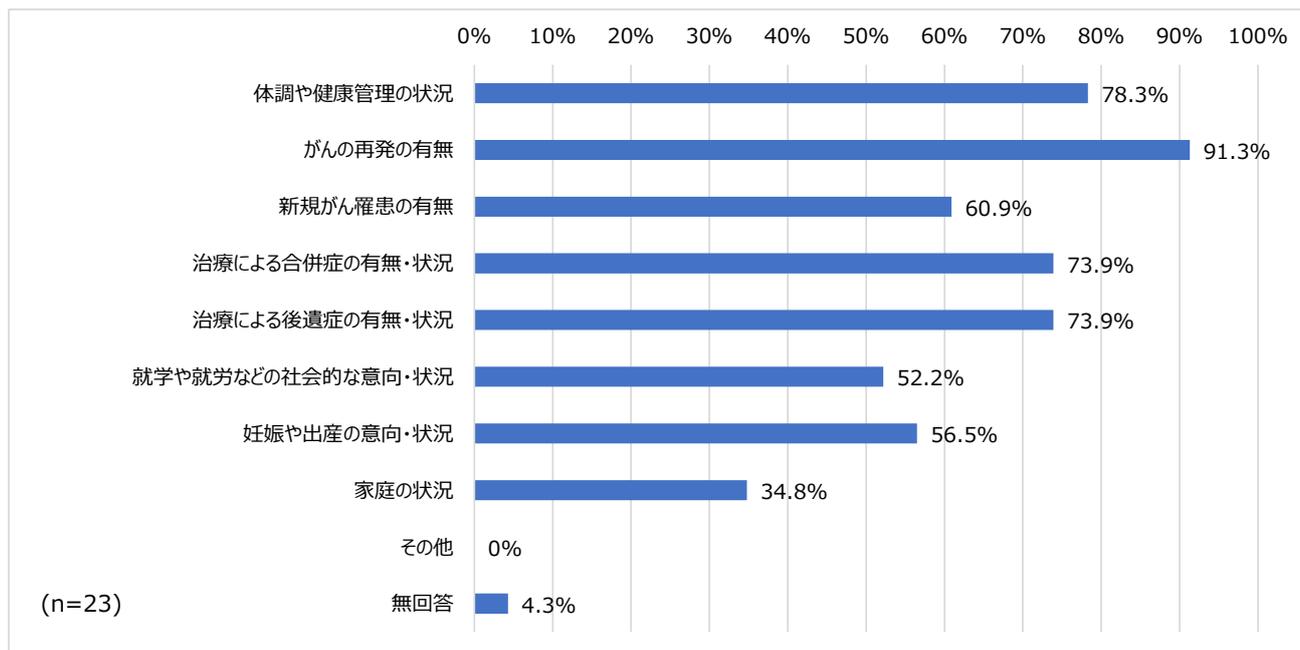
図表 5 長期フォローアップを院内の成人診療科が行っている場合の診療科【指定・認定状況別】
【A1-2 問3 再掲】



第3章 課題の整理

A Y A世代がん患者に対する診療について

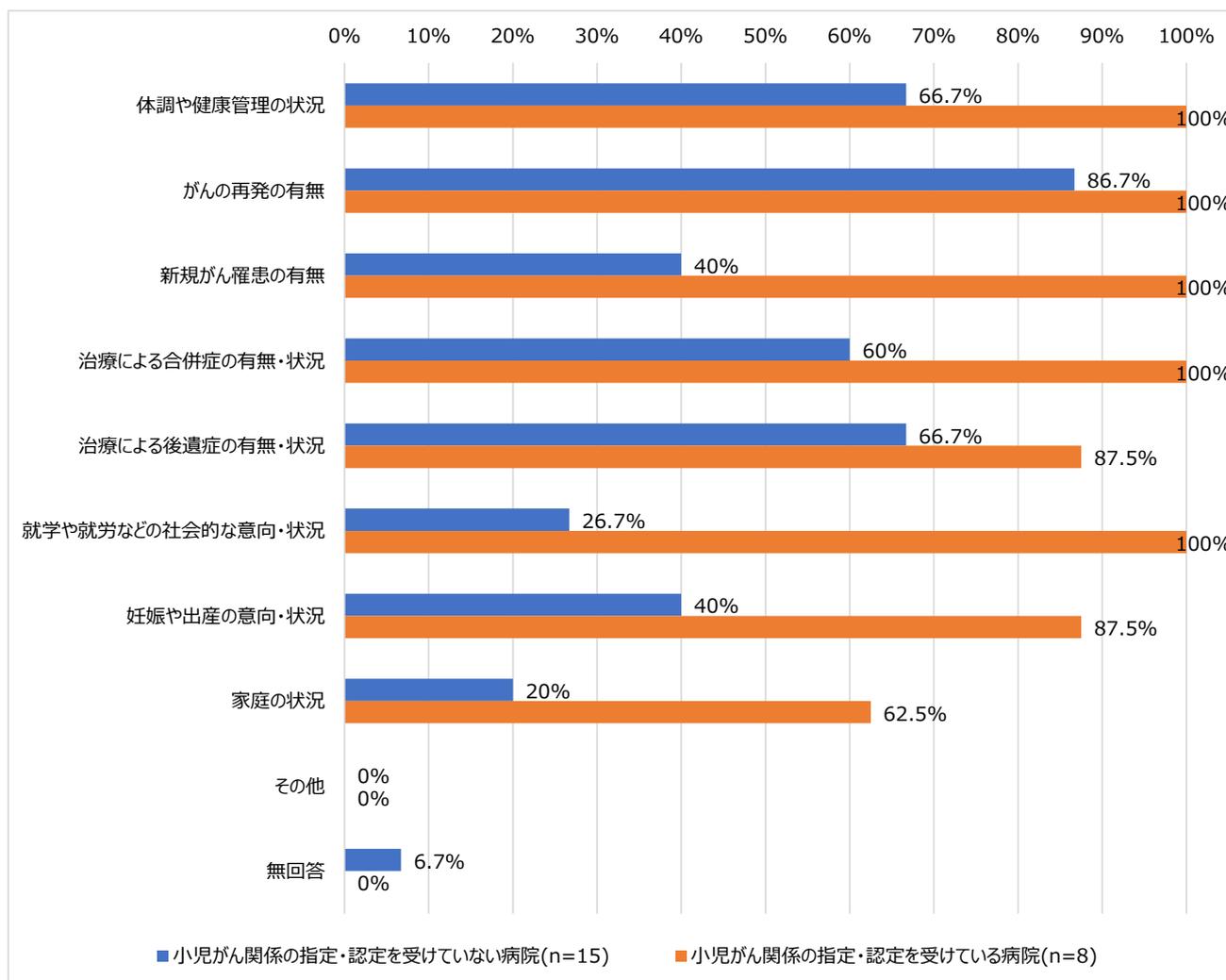
図表 6 治療終了後の定期的なフォローアップの内容【A1-2問4再掲】



第3章 課題の整理

A Y A世代がん患者に対する診療について

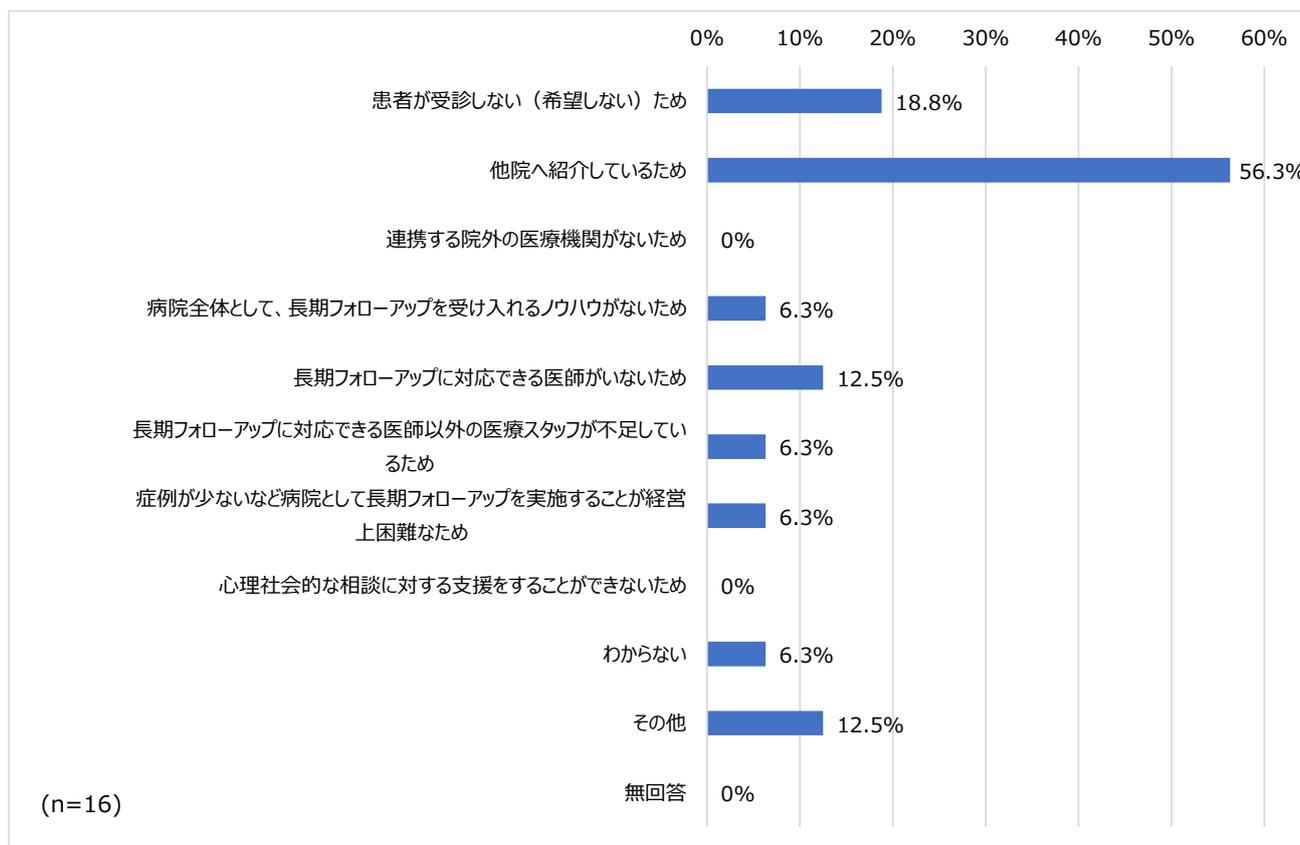
図表 7 治療終了後の定期的なフォローアップの内容【指定・認定状況別】【A1-2問4再掲】



第3章 課題の整理

A Y A世代がん患者に対する診療について

図表 8 長期フォローアップを実施していない理由【A1-2 問5再掲】



第3章 課題の整理

A Y A世代がん患者に対応するための院内の体制について

2. A Y A世代がん患者に対応するための院内の体制について

現状

< A Y A支援チームの設置状況 > 【図表 13】

指定病院全体においては、「設置している」が30.4%と最も多く、次いで「設置しておらず、今後の設置予定もない」が23.9%であった。

< A Y A世代のがん患者のためのA Y A支援チーム設置ができない（していない）理由 > 【図表 14】

A Y A支援チーム設置ができない（していない）理由は、「病院全体として、A Y A世代がん患者に対応するためのノウハウや診療体制が整っていない」が50%と最も多く、次いで「A Y A世代がん患者に関する専門的な知識等を持った医師以外の他職種がない」が37.5%であった。

課題

< A Y A支援チームの設置状況・未設置理由 > 【図表 13、図表 14】

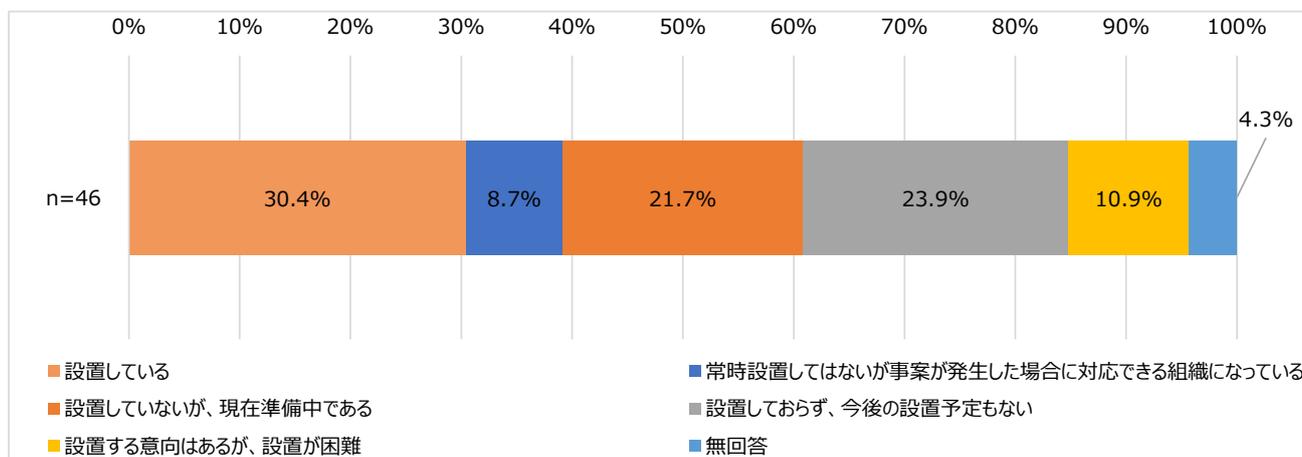
A Y A支援チームを設置していない理由は、「病院全体として、A Y A世代がん患者に対応するためのノウハウや診療体制が整っていない」「A Y A世代がん患者に関する専門的な知識等を持った医師以外の他職種がない」との回答が多くを占めていることから、A Y A支援のための専門的知識・ノウハウ・人的リソースが不足している現状が判明した。

今後検討すべき論点

< A Y A支援チームの設置状況・未設置理由 > 【図表 13、図表 14】

A Y A支援チームを設置していない病院においてはA Y A支援のための専門的知識・ノウハウ・人的リソースが不足していることが判明したことから、A Y A世代がん患者の支援に携わる人材育成の体制整備や、チームを設置している病院における事例の紹介等の具体的な対応策を必要に応じて検討していく必要がある。

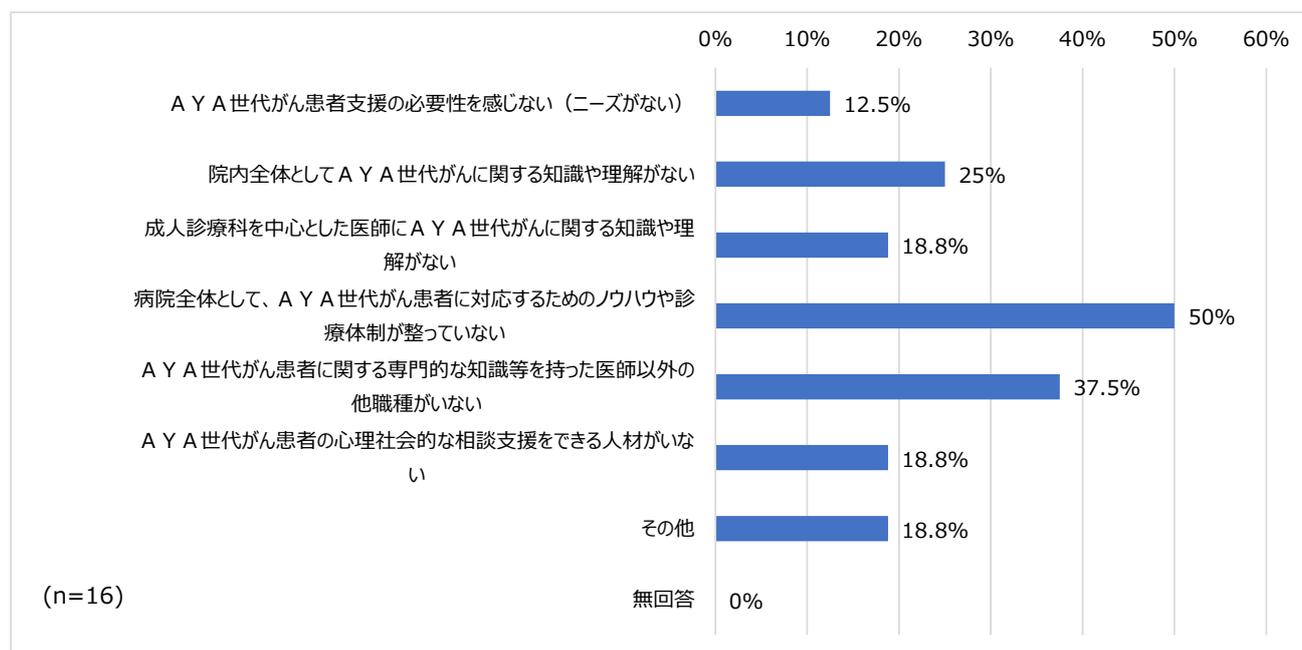
図表 13 A Y A支援チーム設置状況 【A1-2 問8再掲】



第3章 課題の整理

A Y A世代がん患者に対応するための院内の体制について

図表 14 A Y A支援チーム設置ができない（していない）理由【A1-2問9再掲】



第3章 課題の整理

AYA世代がん患者への生活面への支援や、在宅医療・療養環境の改善について

3. AYA世代がん患者への生活面への支援や、在宅医療・療養環境の改善について

現状

＜AYA世代のがん患者の介護サービス利用に当たっての課題＞【図表 63】

指定病院・その他の病院・在宅療養支援診療所のいずれにおいても、「AYA世代のがん患者が、利用できる介護制度や医療費助成制度などが少ないため、ほかの世代と比べて費用の負担が難しい」との回答が最も多く、次いで「AYA世代のがん患者の様々なサービスの利用に向けた調整や手続を任せられる人がいない」「多様な相談に対応できる実務者（医療機関のがん相談窓口などの相談支援員）の不足」等に多くの回答が寄せられた。

また、その他の病院・在宅療養支援診療所においては、「(医療機関側が) どのようなサービスがあるかわからない」「(医療機関側が) どこに相談すればよいかわからない」「(医療機関側が) 利用するための手続がわからない」にも多くの回答があった。

＜AYA世代のがん患者のための療養環境として、不足・必要なもの＞【図表 64】

指定病院・その他の病院とも、「AYA世代専門の部屋(レクリエーションスペース・学習スペース等)」「AYA世代の患者が集う患者サロンの開催」「勉強に必要な設備や備品の設置」「仕事に必要な設備や備品の設置」に多くの回答が寄せられた。

＜AYA世代のがん患者の在宅医療・療養、緩和ケアに関して、今後充実させる必要があると考える取組＞【図表 65】

指定病院・その他の病院・在宅療養支援診療所のいずれにおいても、「AYA世代のがん患者に対応できる在宅医療・療養を支える医療人材の育成」との回答が最も多く、次いで「AYA世代のがん患者の緩和ケアに対応できる診療所の増加」「患者の費用負担の軽減」「患者・家族が利用できる相談窓口の充実」に多くの回答が寄せられた。

＜AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【通院治療中の時期】＞【図表 66】

指定病院においては「AYA世代同士の交流の機会の確保」、その他の病院においては「通院時に患者本人の子供を一時的に預けられる環境」、在宅療養支援診療所においては「本人が介護を受けられる環境」がそれぞれ最も多い回答であった。

このほか、「日常的に子供を預けられる環境（保育施設やシッターなど）」にも多くの回答が寄せられた。

＜AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【入院治療中の時期】＞【図表 67】

指定病院・その他の病院・在宅療養支援診療所のいずれにおいても、「日常的に子供を預けられる環境（保育施設やシッターなど）」が最も多く、次いで「AYA世代のためのスペース」「AYA世代同士の交流の機会の確保」「家事援助」等に多くの回答が寄せられた。

第3章 課題の整理

A Y A世代がん患者への生活面への支援や、在宅医療・療養環境の改善について

＜A Y A世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【在宅療養中の時期】＞【図表 68】

指定病院においては「家事援助」、その他の病院においては「通院時に患者本人の子供を一時的に預けられる環境」、在宅療養支援診療所においては「本人が介護を受けられる環境」「家事援助」がそれぞれ最も多い回答であった。

このほか、「日常的に子供を預けられる環境（保育施設やシッターなど）」にも多くの回答が寄せられた。

＜A Y A世代のがん患者への在宅医療・療養、緩和ケアに対応するにあたって課題や困難なこと＞【図表 55】

在宅療養支援診療所においては、「患者・家族に対する心理的支援の不足」が50.4%と最も多く、次いで「患者の家族における緩和ケア（医療用麻薬等）に関する知識不足・抵抗感」が46.6%であった。

＜A Y A世代のがん患者への在宅医療・療養を充実させるため育成が必要な職種＞【図表 57】

在宅療養支援診療所においては、「小児の在宅診療を行う医師」が54.7%と最も多く、次いで「看護師」が45.8%であった。

課題

＜A Y A世代のがん患者の介護サービス利用にあたっての課題＞【図表 63】

いずれの医療機関においても「A Y A世代のがん患者が、利用できる介護制度や医療費助成制度などが少ないため、ほかの世代と比べて費用の負担が難しい」が最も多い回答となっており、A Y A世代向けの助成・制度の不足による費用負担の困難さが介護サービス利用にあたっての課題となっている現状が判明した。

また、その他の病院・在宅療養支援診療所においては、患者に案内を行う医療機関側が必ずしも十分な知識等を有していない状況も明らかになった。

＜A Y A世代のがん患者のための療養環境として、不足・必要なもの＞【図表 64】

現時点では「A Y A世代専門の部屋（レクリエーションスペース・学習スペース等）」「A Y A世代の患者が集う患者サロンの開催」「勉強に必要な設備や備品の設置」「仕事に必要な設備や備品の設置」が不足している現状が判明した。

＜A Y A世代のがん患者の在宅医療・療養、緩和ケアに関して、今後充実させる必要があると考える取組＞【図表 65】

いずれの医療機関においても「A Y A世代のがん患者に対応できる在宅医療・療養を支える医療人材の育成」が最も多い回答となっており、A Y A世代がん患者に対応できる医療人材の不足が課題となっている現状が判明した。

第3章 課題の整理

AYA世代がん患者への生活面への支援や、在宅医療・療養環境の改善について

＜AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【通院治療中の時期】【入院治療中の時期】【在宅療養中の時期】＞【図表 66、図表 67、図表 68】

いずれの医療機関においても、全期間を通して「患者本人の子供を預けられる環境」「家事援助」に関する回答が多く、患者本人の日常生活をサポートするための環境が十分に整っていないことが課題となっている現状が判明した。

＜AYA世代のがん患者への在宅医療・療養、緩和ケアに対応するにあたって課題や困難なこと＞【図表 55】

「患者・家族に対する心理的支援の不足」「患者の家族における緩和ケア（医療用麻薬等）に関する知識不足・抵抗感」に多くの回答が寄せられたことから、患者・家族への心理的支援や理解に関するサポートの不足が在宅療養支援診療所にとって課題となっている現状が判明した。

＜AYA世代のがん患者への在宅医療・療養を充実させるため育成が必要な職種＞【図表 57】

「小児の在宅診療を行う医師」「看護師」に多くの回答が寄せられたことから、同職種が特に不足・必要とされていることが分かった。

今後検討すべき論点

＜AYA世代のがん患者の介護サービス利用にあたっての課題＞【図表 63】

AYA世代向けの助成・制度の不足による費用負担の困難さが課題となっている現状を踏まえ、患者が介護サービスを利用しやすくなるための支援制度等の枠組みを検討していく必要がある。

＜AYA世代のがん患者のための療養環境として、不足・必要なもの＞【図表 64】

同世代同士での交流の機会の確保や、世代の特性に応じた設備や備品の設置等に多くのニーズが寄せられたことを踏まえ、環境の整備に向けた検討が必要である。

＜AYA世代のがん患者の在宅医療・療養、緩和ケアに関して、今後充実させる必要があると考える取組＞【図表 65】

いずれの病院においても「AYA世代のがん患者に対応できる在宅医療・療養を支える医療人材の育成」が最も多い回答となっていることから、AYA世代の支援に携わる人材育成の具体的な対応策を検討していく必要がある。

＜AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【通院治療中の時期】～【在宅療養中の時期】＞【図表 66、図表 67、図表 68】

いずれの病院においても、全期間を通して「患者本人の子供を預けられる環境」「家事援助」に関する回答が多く、患者本人が必要なサービス提供を受けられるよう、体制整備に向けた方法などの検討が必要である。

第3章 課題の整理

AYA世代がん患者への生活面への支援や、在宅医療・療養環境の改善について

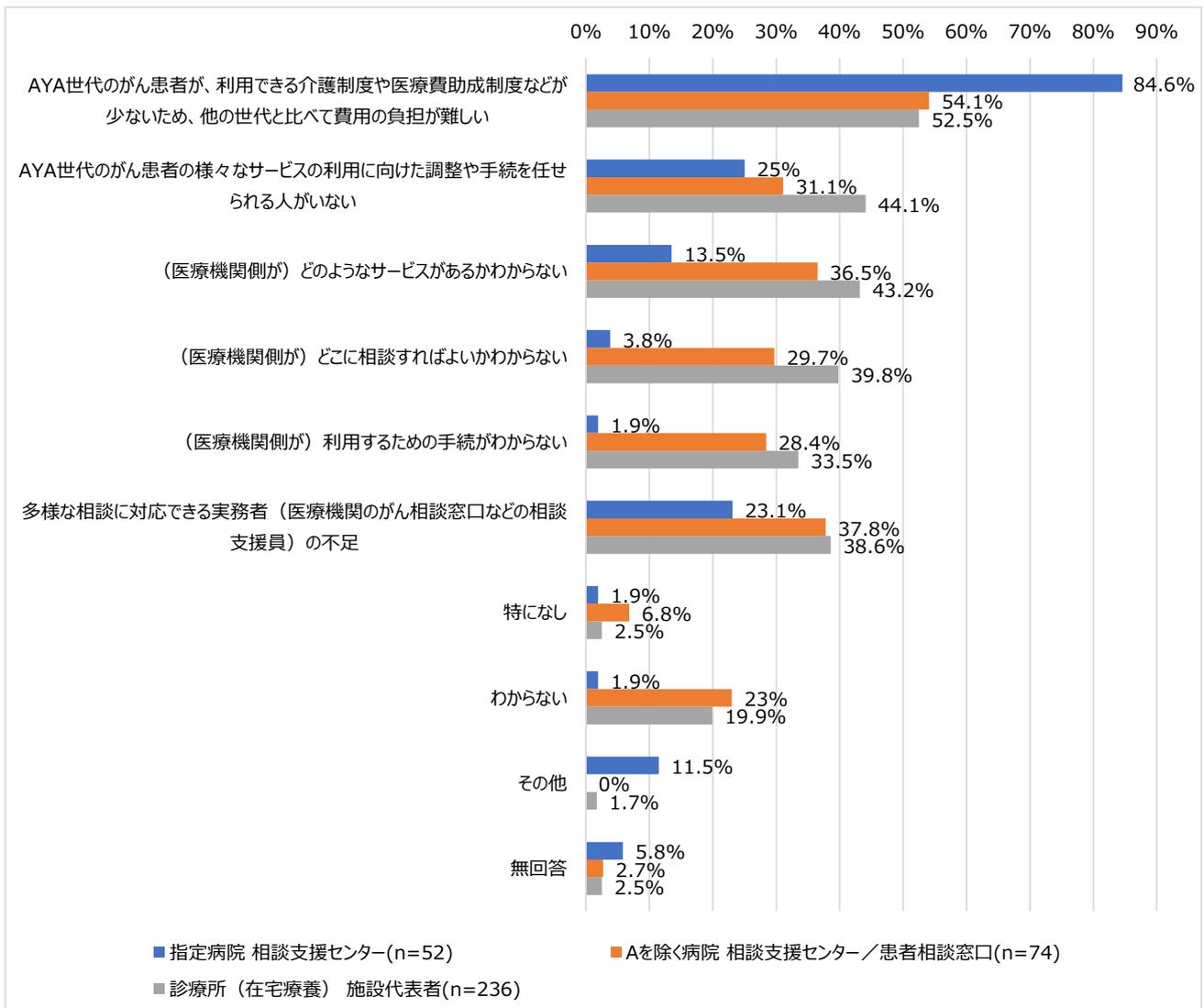
< AYA世代のがん患者への在宅医療・療養、緩和ケアに対応するにあたって課題や困難なこと > 【図表 55】

在宅療養診療所にとって、患者・家族の知識不足や心理的サポートの不足が課題となっている現状から、必要に応じて患者・家族向けの普及啓発素材を作成するなど、在宅医療・療養、緩和ケアに関する患者・家族への普及啓発及び理解度向上のための取り組みを検討していく必要がある。

< AYA世代のがん患者への在宅医療・療養を充実させるため育成が必要な職種 > 【図表 57】

「小児の在宅診療を行う医師」「看護師」に多くの回答が寄せられるなど、小児がん患者への緩和ケア提供のための質的向上が求められている現状から、地域における医師・看護師向けの研修会の実施などの取組みの検討が必要である。

図表 63 AYA世代のがん患者の介護サービス利用に当たっての課題
【A3問25、D2問19、E1-2問5】

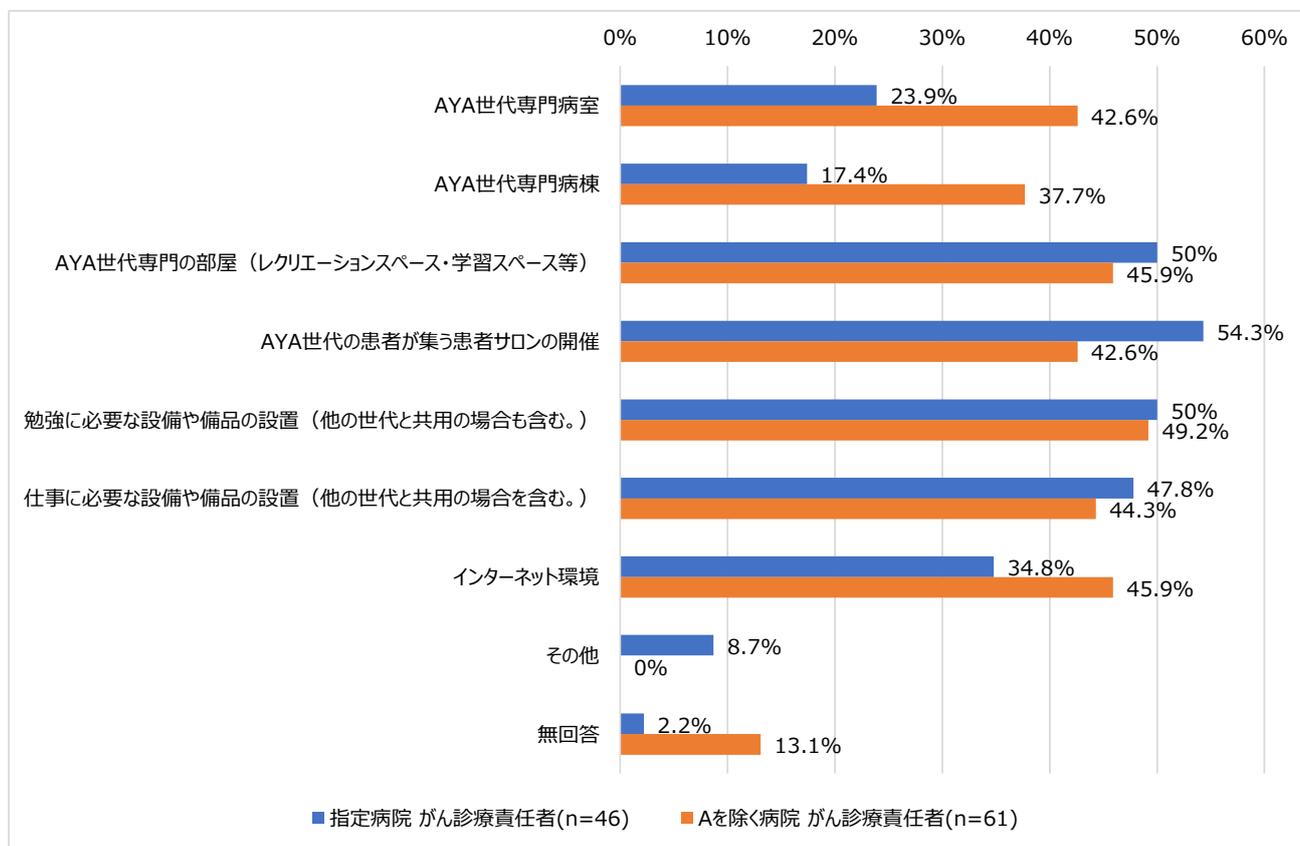


第3章 課題の整理

AYA世代がん患者への生活面への支援や、在宅医療・療養環境の改善について

No.	カテゴリ	A3		D2		E1-2	
		件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1	AYA世代のがん患者が、利用できる介護制度や医療費助成制度などが少ないため、他の世代と比べて費用の負担が難しい	44	84.6%	40	54.1%	124	52.5%
2	AYA世代のがん患者の様々なサービスの利用に向けた調整や手続を任せられる人がいない	13	25%	23	31.1%	104	44.1%
3	(医療機関側が) どのようなサービスがあるかわからない	7	13.5%	27	36.5%	102	43.2%
4	(医療機関側が) どこに相談すればよいかわからない	2	3.8%	22	29.7%	94	39.8%
5	(医療機関側が) 利用するための手続がわからない	1	1.9%	21	28.4%	79	33.5%
6	多様な相談に対応できる実務者（医療機関のがん相談窓口などの相談支援員）の不足	12	23.1%	28	37.8%	91	38.6%
7	特になし	1	1.9%	5	6.8%	6	2.5%
8	わからない	1	1.9%	17	23%	47	19.9%
9	その他	6	11.5%	0	0%	4	1.7%
	無回答	3	5.8%	2	2.7%	6	2.5%
	N (%^ -ス)	n=52	100%	n=74	100%	n=236	100%

図表 64 AYA世代のがん患者のための療養環境として、不足・必要なもの【A1-2 問17、D1 問3】

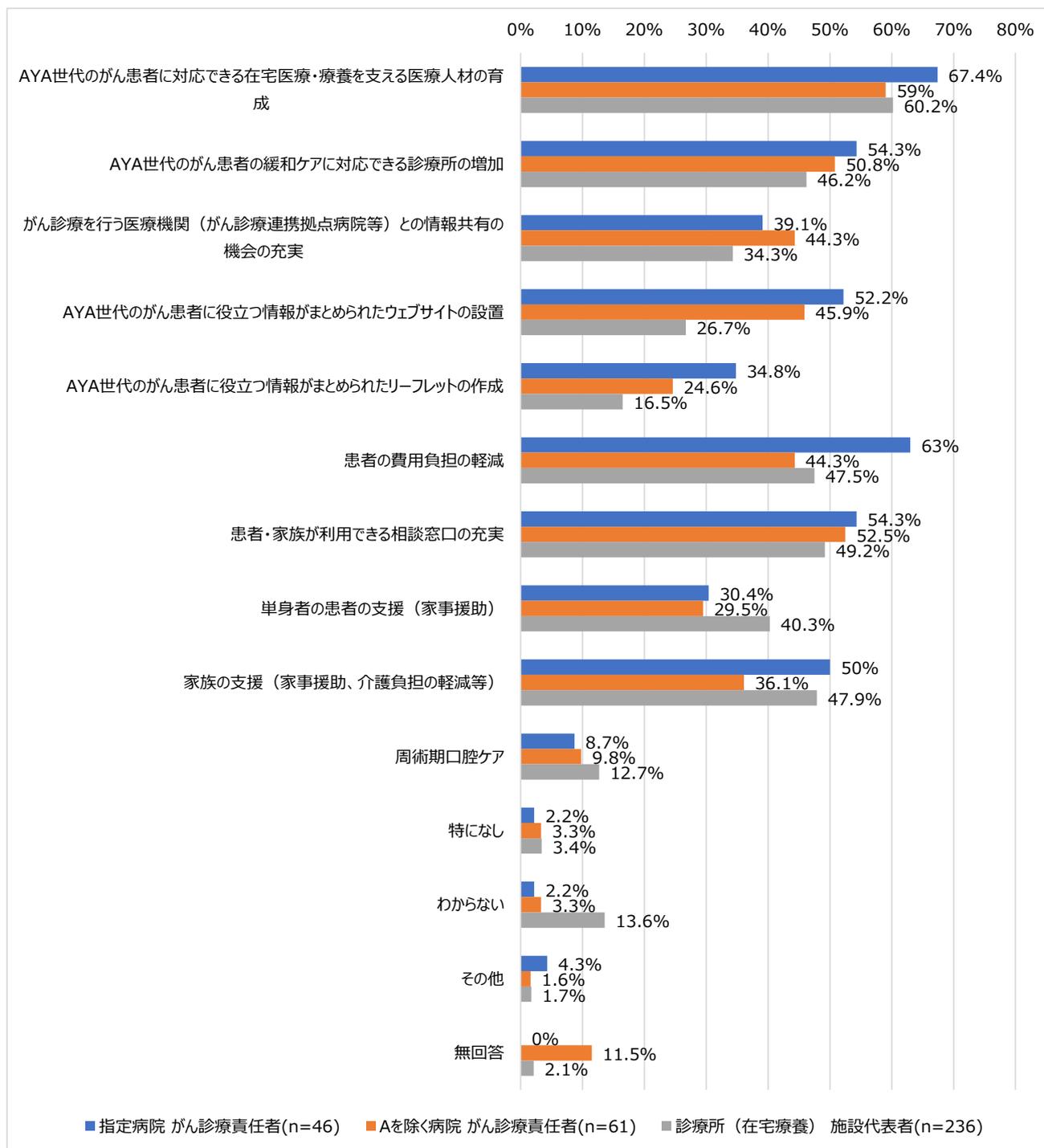


No.	カテゴリ	A1-2		D1	
		件数	(全体)%	件数	(全体)%
1	AYA世代専門病室	11	23.9%	26	42.6%
2	AYA世代専門病棟	8	17.4%	23	37.7%
3	AYA世代専門の部屋（レクリエーションスペース・学習スペース等）	23	50%	28	45.9%
4	AYA世代の患者が集う患者サロンの開催	25	54.3%	26	42.6%
5	勉強に必要な設備や備品の設置（他の世代と共用の場合も含む。）	23	50%	30	49.2%
6	仕事に必要な設備や備品の設置（他の世代と共用の場合も含む。）	22	47.8%	27	44.3%
7	インターネット環境	16	34.8%	28	45.9%
8	その他	4	8.7%	0	0%
	無回答	1	2.2%	8	13.1%
	N (%^ -ス)	n=46	100%	n=61	100%

第3章 課題の整理

AYA世代がん患者への生活面への支援や、在宅医療・療養環境の改善について

図表 65 AYA世代のがん患者の在宅医療・療養、緩和ケアに関して、今後充実させる必要があると考える取組【A1-2問18、D1問4、E1-2問2】

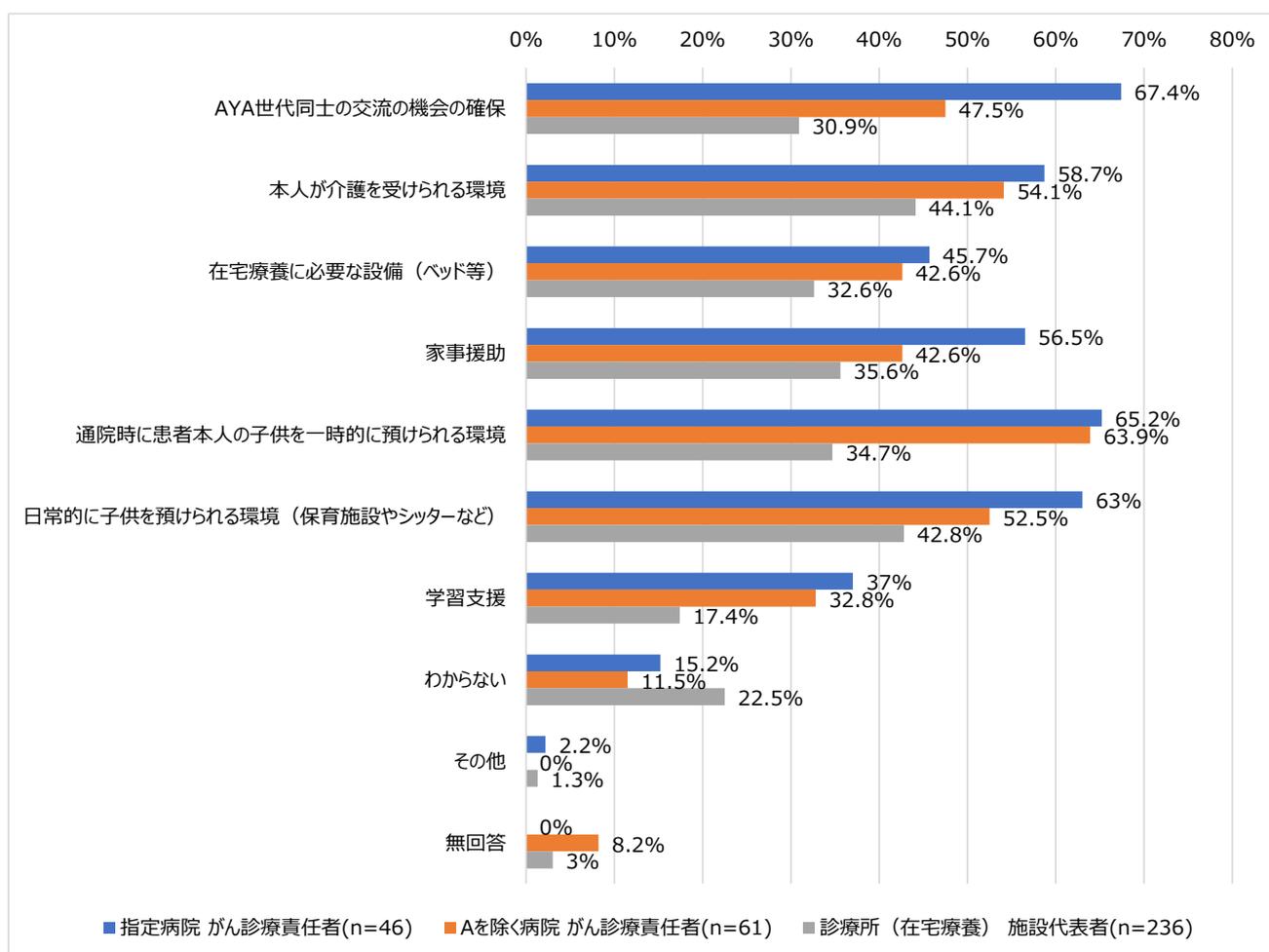


第3章 課題の整理

AYA世代がん患者への生活面への支援や、在宅医療・療養環境の改善について

No.	カテゴリ	A1-2		D1		E1-2	
		件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1	AYA世代のがん患者に対応できる在宅医療・療養を支える医療人材の育成	31	67.4%	36	59%	142	60.2%
2	AYA世代のがん患者の緩和ケアに対応できる診療所の増加	25	54.3%	31	50.8%	109	46.2%
3	がん診療を行う医療機関（がん診療連携拠点病院等）との情報共有の機会の充実	18	39.1%	27	44.3%	81	34.3%
4	AYA世代のがん患者に役立つ情報がまとめられたウェブサイトの設置	24	52.2%	28	45.9%	63	26.7%
5	AYA世代のがん患者に役立つ情報がまとめられたリーフレットの作成	16	34.8%	15	24.6%	39	16.5%
6	患者の費用負担の軽減	29	63%	27	44.3%	112	47.5%
7	患者・家族が利用できる相談窓口の充実	25	54.3%	32	52.5%	116	49.2%
8	単身者の患者の支援（家事援助）	14	30.4%	18	29.5%	95	40.3%
9	家族の支援（家事援助、介護負担の軽減等）	23	50%	22	36.1%	113	47.9%
10	周術期口腔ケア	4	8.7%	6	9.8%	30	12.7%
11	特になし	1	2.2%	2	3.3%	8	3.4%
12	わからない	1	2.2%	2	3.3%	32	13.6%
13	その他	2	4.3%	1	1.6%	4	1.7%
	無回答	0	0%	7	11.5%	5	2.1%
	N（% ^へ -）	n=46	100%	n=61	100%	n=236	100%

図表 66 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【通院治療中の時期】【A1-2問19-1、D1問5-1、E1-2問4-1】

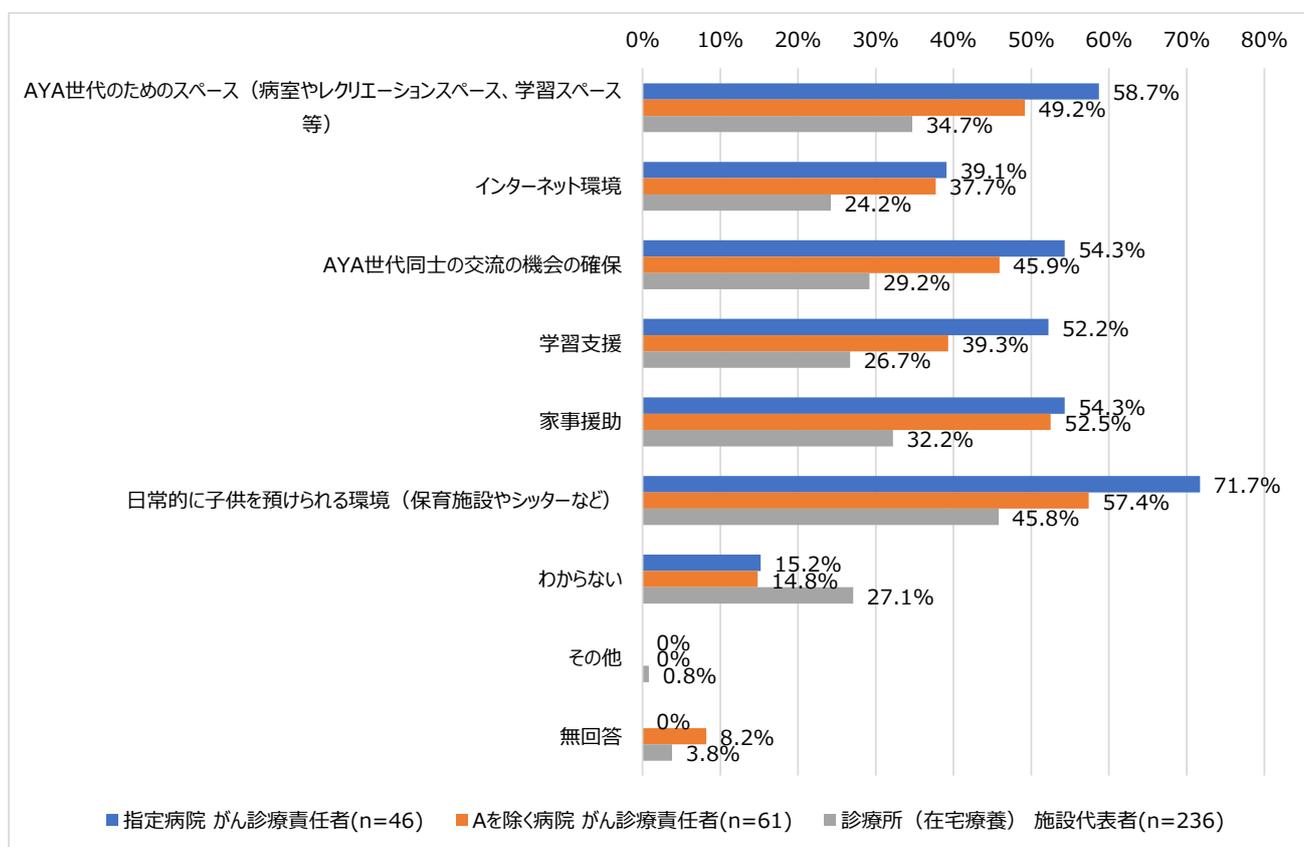


第3章 課題の整理

AYA世代がん患者への生活面への支援や、在宅医療・療養環境の改善について

No.	カテゴリ	A1-2		D1		E1-2	
		件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1	AYA世代同士の交流の機会の確保	31	67.4%	29	47.5%	73	30.9%
2	本人が介護を受けられる環境	27	58.7%	33	54.1%	104	44.1%
3	在宅療養に必要な設備（ベッド等）	21	45.7%	26	42.6%	77	32.6%
4	家事援助	26	56.5%	26	42.6%	84	35.6%
5	通院時に患者本人の子供を一時的に預けられる環境	30	65.2%	39	63.9%	82	34.7%
6	日常的に子供を預けられる環境（保育施設やシッターなど）	29	63%	32	52.5%	101	42.8%
7	学習支援	17	37%	20	32.8%	41	17.4%
8	わからない	7	15.2%	7	11.5%	53	22.5%
9	その他	1	2.2%	0	0%	3	1.3%
	無回答	0	0%	5	8.2%	7	3%
	N (%^ -ス)	n=46	100%	n=61	100%	n=236	100%

図表 67 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【入院治療中】【A1-2問19-2、D1問5-2、E1-2問4-2】

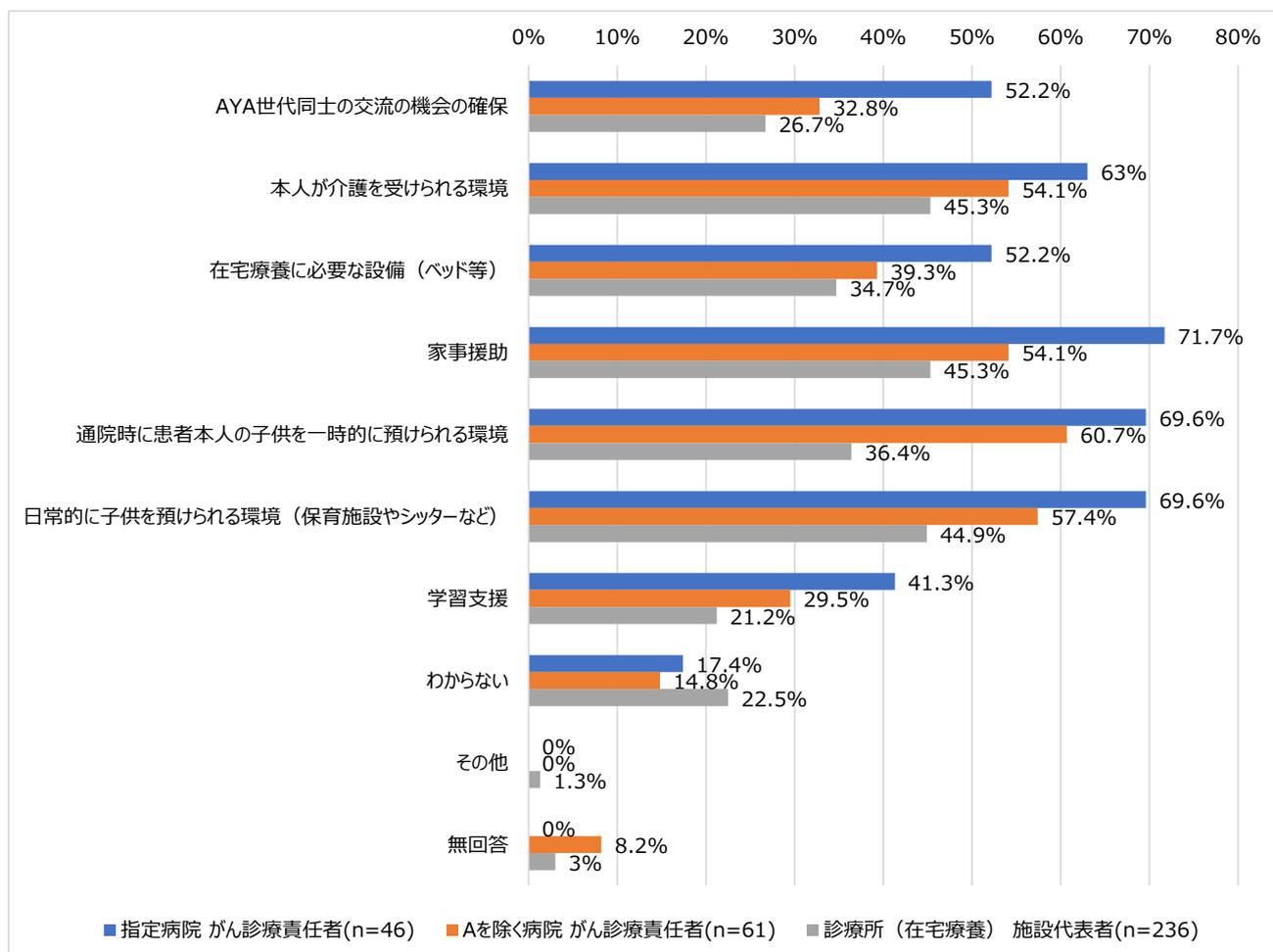


No.	カテゴリ	A1-2		D1		E1-2	
		件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1	AYA世代のためのスペース（病室やレクリエーションスペース、学習スペース等）	27	58.7%	30	49.2%	82	34.7%
2	インターネット環境	18	39.1%	23	37.7%	57	24.2%
3	AYA世代同士の交流の機会の確保	25	54.3%	28	45.9%	69	29.2%
4	学習支援	24	52.2%	24	39.3%	63	26.7%
5	家事援助	25	54.3%	32	52.5%	76	32.2%
6	日常的に子供を預けられる環境（保育施設やシッターなど）	33	71.7%	35	57.4%	108	45.8%
7	わからない	7	15.2%	9	14.8%	64	27.1%
8	その他	0	0%	0	0%	2	0.8%
	無回答	0	0%	5	8.2%	9	3.8%
	N (%^ -ス)	n=46	100%	n=61	100%	n=236	100%

第3章 課題の整理

AYA世代がん患者への生活面への支援や、在宅医療・療養環境の改善について

図表 68 AYA世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なもの（不足しているもの）【在宅療養中の時期】【A1-2問19-3、D1問5-3、E1-2問4-3】

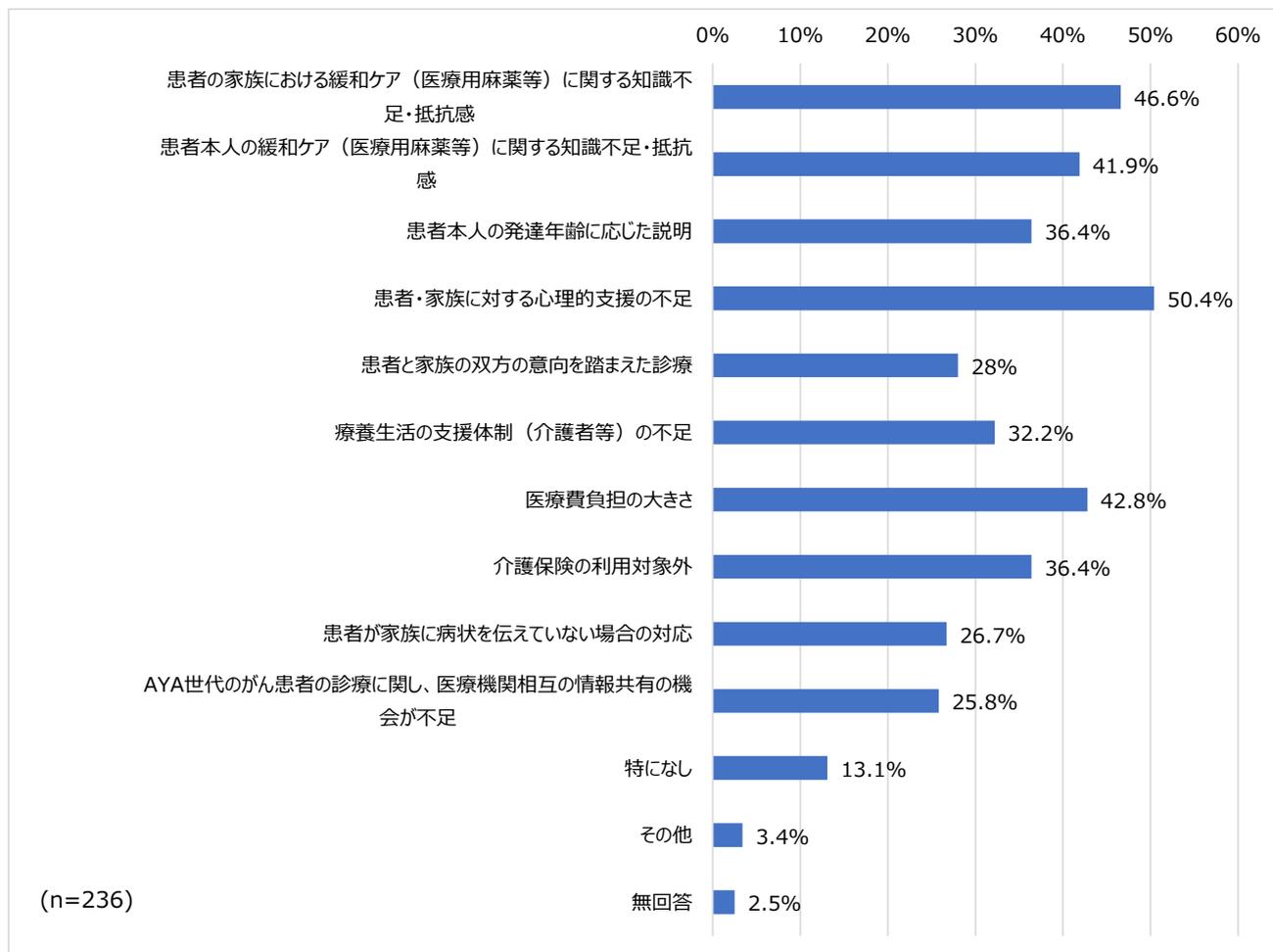


No.	カテゴリ	A1-2		D1		E1-2	
		件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1	AYA世代同士の交流の機会の確保	24	52.2%	20	32.8%	63	26.7%
2	本人が介護を受けられる環境	29	63%	33	54.1%	107	45.3%
3	在宅療養に必要な設備 (ベッド等)	24	52.2%	24	39.3%	82	34.7%
4	家事援助	33	71.7%	33	54.1%	107	45.3%
5	通院時に患者本人の子供を一時的に預けられる環境	32	69.6%	37	60.7%	86	36.4%
6	日常的に子供を預けられる環境 (保育施設やシッターなど)	32	69.6%	35	57.4%	106	44.9%
7	学習支援	19	41.3%	18	29.5%	50	21.2%
8	わからない	8	17.4%	9	14.8%	53	22.5%
9	その他	0	0%	0	0%	3	1.3%
	無回答	0	0%	5	8.2%	7	3%
	N (%^ -ス)	n=46	100%	n=61	100%	n=236	100%

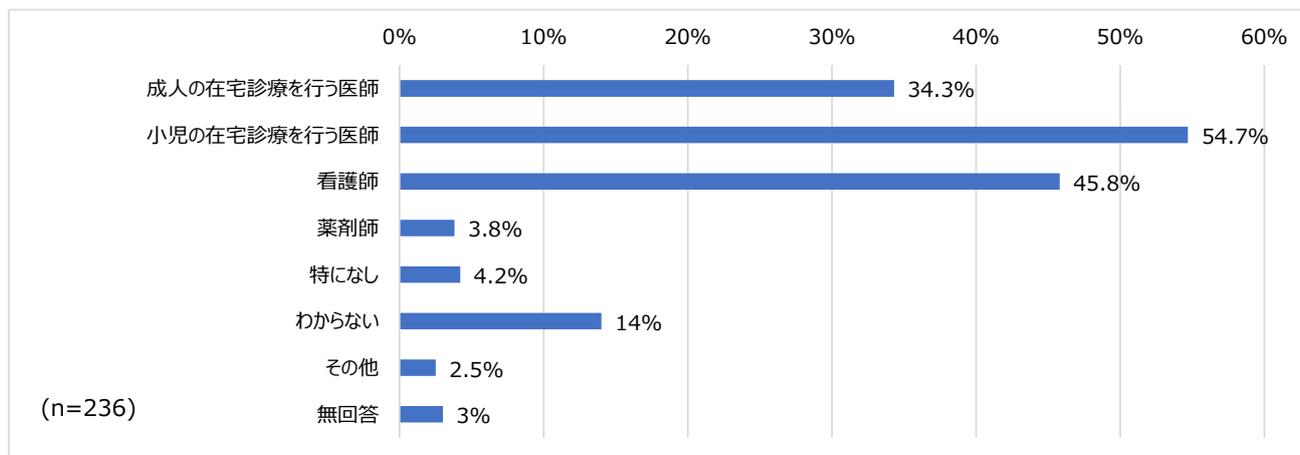
第3章 課題の整理

AYA世代がん患者への生活面への支援や、在宅医療・療養環境の改善について

図表 55 AYA世代のがん患者への在宅医療・療養、緩和ケアに対応するにあたっての課題や困難なこと【E1-2問1再掲】



図表 57 AYA世代のがん患者への在宅医療・療養を充実させるため育成が必要な職種【E1-2問3再掲】



4. A Y A世代がん患者へのがん・生殖医療について

① がん・生殖医療の連携

現状

〈がん診療医療機関から生殖医療を実施する医療機関へ患者を繋げるための対応〉【図表 15、図表 16】

指定病院全体においては、「方針などはないが、症例が発生した場合、医師が個別に対応している」が43.5%と最も多く、次いで「病院全体として、統一的な方針やマニュアル等を定め、対応している」が21.7%であった。

小児がん関係の指定を受けている病院に限って見た場合も「方針などはないが、症例が発生した場合、医師が個別に対応している」が50%と最も多く、次いで「院内にがん診療科と生殖医療担当科がある」が40%であった。

〈がん医療と生殖医療の連携に当たっての課題〉【図表 24、図表 25】

指定病院全体においては、「病院全体として、統一的な方針やマニュアル等がない」が52.2%で最も多く、次いで「がん・生殖医療に関する重要さについて、医師などの医療スタッフの認識が不足している」が37%であった。

小児がん関係の指定を受けている病院に限って見た場合も、回答の傾向に大きな差はみられなかったものの、「特になし」との回答も40%あった。

課題

〈がん医療と生殖医療の連携に当たっての課題〉【図表 24、図表 25】

多くの病院では、がん医療と生殖医療の連携に関する統一的な方針やマニュアルが現時点で十分に整備されておらず、生殖医療への繋ぎは医師の対応に委ねられている状況が明らかになった。加えて、がん・生殖医療に関する重要さの認識の不足も指摘されたことから、がん医療から生殖医療に繋がることのできていない患者がいる可能性も示唆される。

今後検討すべき論点

〈がん医療と生殖医療の連携に当たっての課題〉【図表 24、図表 25】

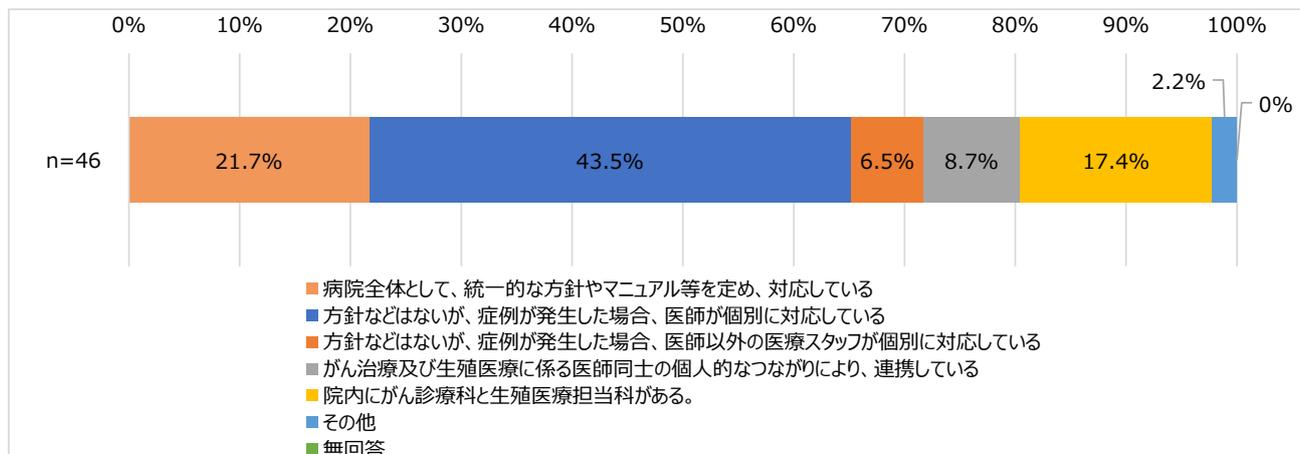
多くの病院では、がん医療と生殖医療の連携に関する統一的な方針やマニュアルが現時点で十分に整備されておらず、がん・生殖医療に関する重要さの認識が不足している可能性が示唆されたことから、引き続き、医療機関に対するがん・生殖医療の普及啓発に取り組むとともに、患者ががん医療から生殖医療に適切に繋がることのできる体制の整備に取り組む必要がある。

第3章 課題の整理

A Y A世代がん患者へのがん・生殖医療について

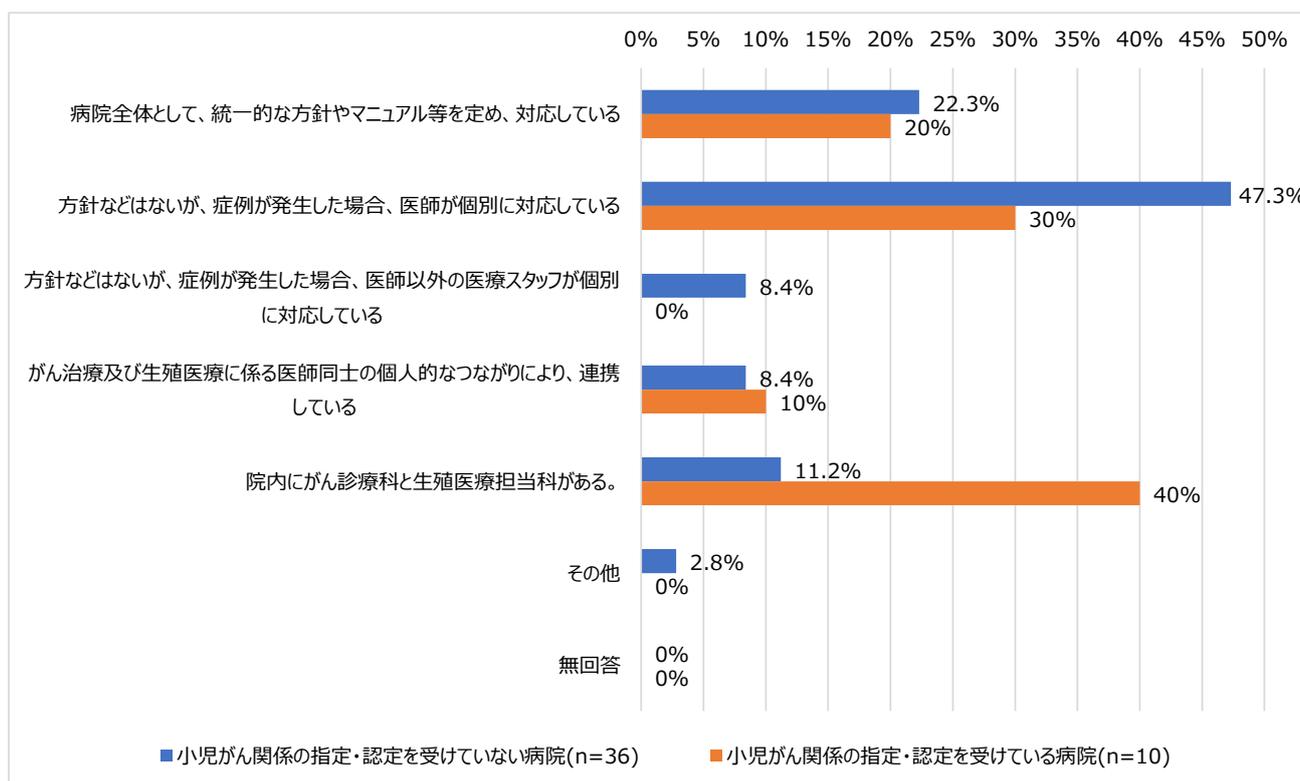
図表 15 がん診療医療機関から生殖医療を実施する医療機関へ患者を繋げるための対応

【A1-2問 10再掲】



図表 16 がん診療医療機関から生殖医療を実施する医療機関へ患者を繋げるための対応

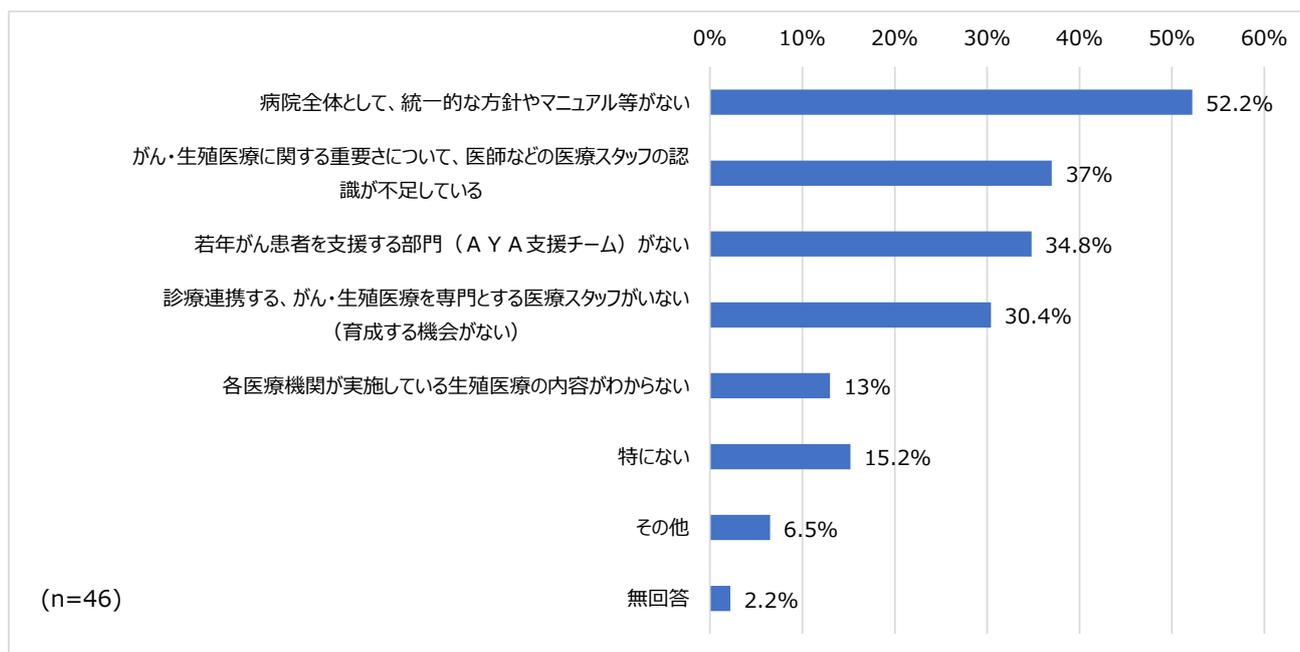
【指定・認定状況別】【A1-2問 10再掲】



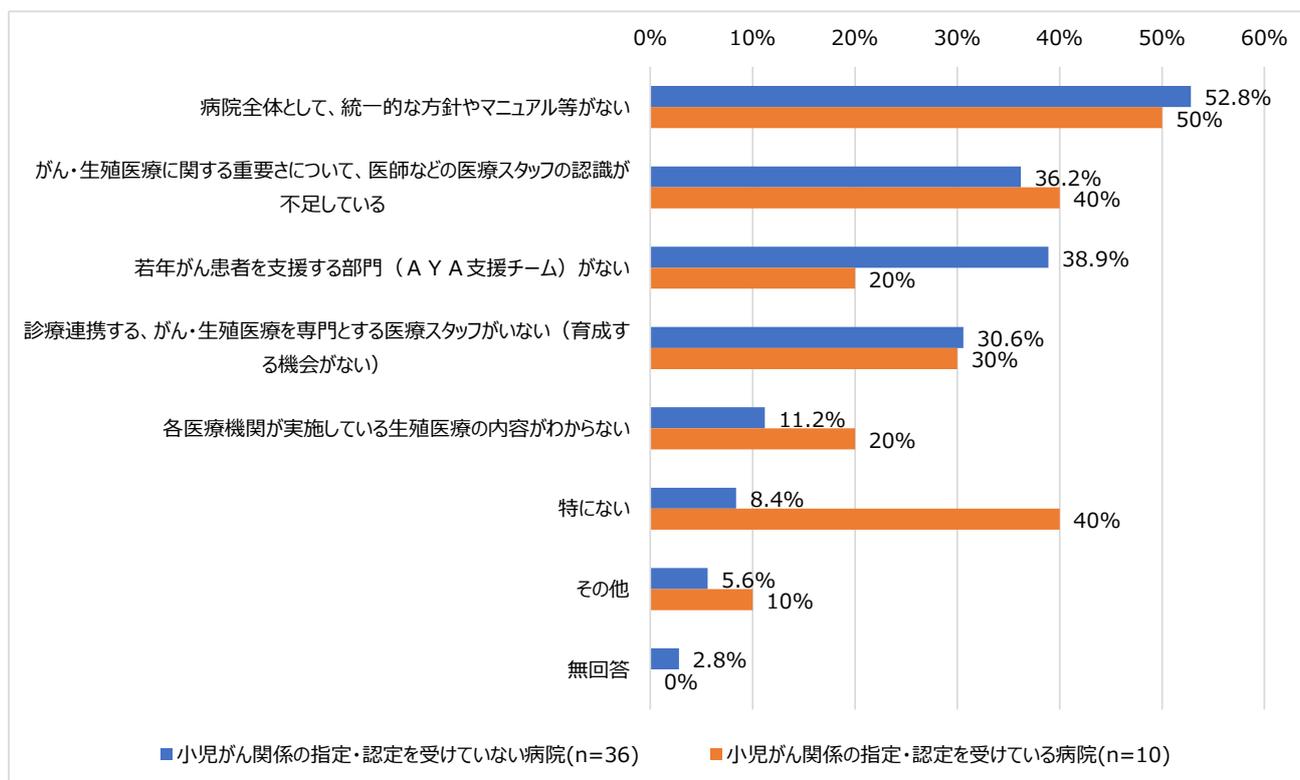
第3章 課題の整理

A Y A世代がん患者へのがん・生殖医療について

図表 24 がん医療と生殖医療の連携に当たっての課題【A1-2問 15再掲】



図表 25 がん医療と生殖医療の連携に当たっての課題【指定・認定状況別】
【A1-2問 15再掲】



第3章 課題の整理

A Y A世代がん患者へのがん・生殖医療について

② 情報提供

現状

＜がん患者等へのがん・生殖医療に関する情報提供の実施者＞【図表 20、図表 21】

指定病院全体においては、「がん治療医」が89.1%と最も多く、次いで「がん相談支援センターの相談員（看護師、MSW等）」が54.3%であった。

小児がん関係の指定を受けている病院に限って見た場合も「がん治療医」が100%と最も多く、次いで「生殖医療医」「がん相談支援センターの相談員（看護師、MSW等）」がそれぞれ70%であった。

＜がん患者等へのがん・生殖医療に関する情報提供の対象・実施方法＞【図表 22、図表 23】

指定病院全体においては、「がんと診断され、治療等により妊孕性が低下するおそれなどがある患者に対し、行っている」が82.6%と最も多く、次いで「スクリーニングや聞き取りを行い、将来子供をもつことを希望する患者に行っている」が30.4%であった。

小児がん関係の指定を受けている病院に限って見た場合も、回答の傾向に大きな差はみられなかった。

課題

＜がん患者等へのがん・生殖医療に関する情報提供の対象・実施方法＞【図表 22、図表 23】

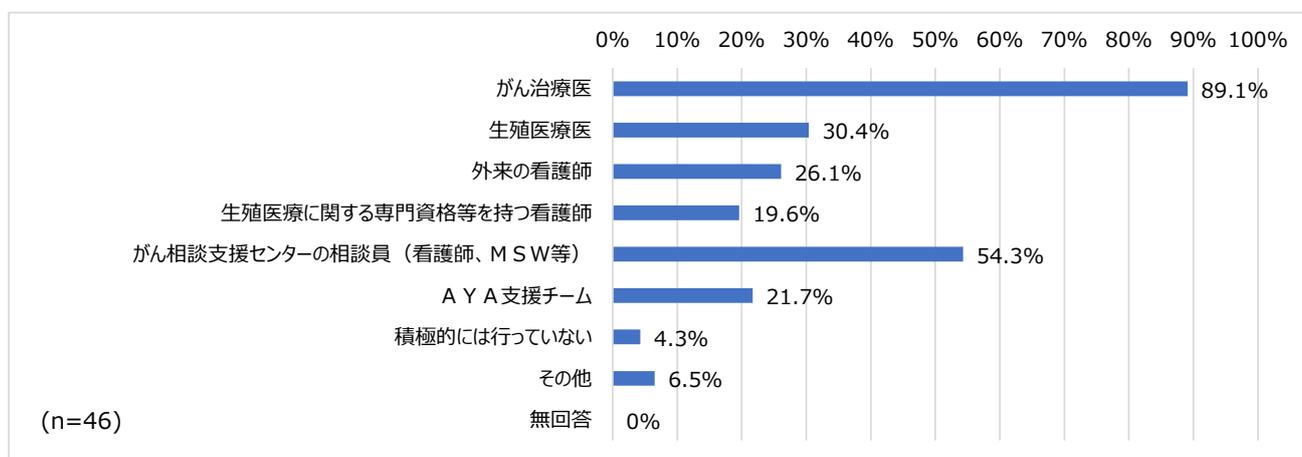
がん・生殖医療に関する情報提供の対象となる患者は範囲が病院間で異なっており、中には積極的に案内を行っていない病院も存在する現状が確認された。

今後検討すべき論点

＜がん患者等へのがん・生殖医療に関する情報提供の対象・実施方法＞【図表 22、図表 23】

がん・生殖医療に関する情報提供の対象患者は病院間で異なっていることから、全ての病院において適切な情報提供がなされるよう、情報提供の在り方と方策を検討する必要がある。

図表 20 がん患者等へのがん・生殖医療に関する情報提供の実施主体【A1-2問13再掲】

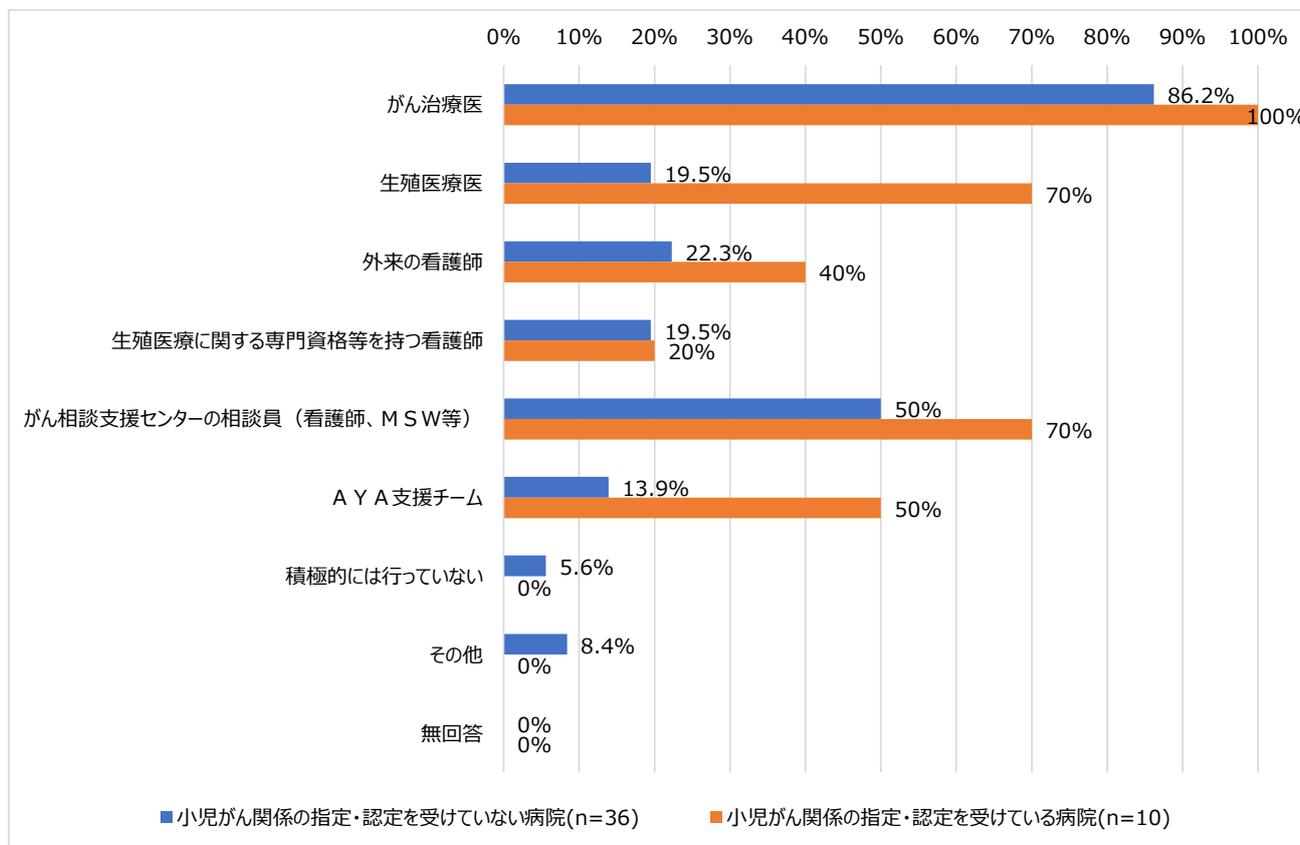


第3章 課題の整理

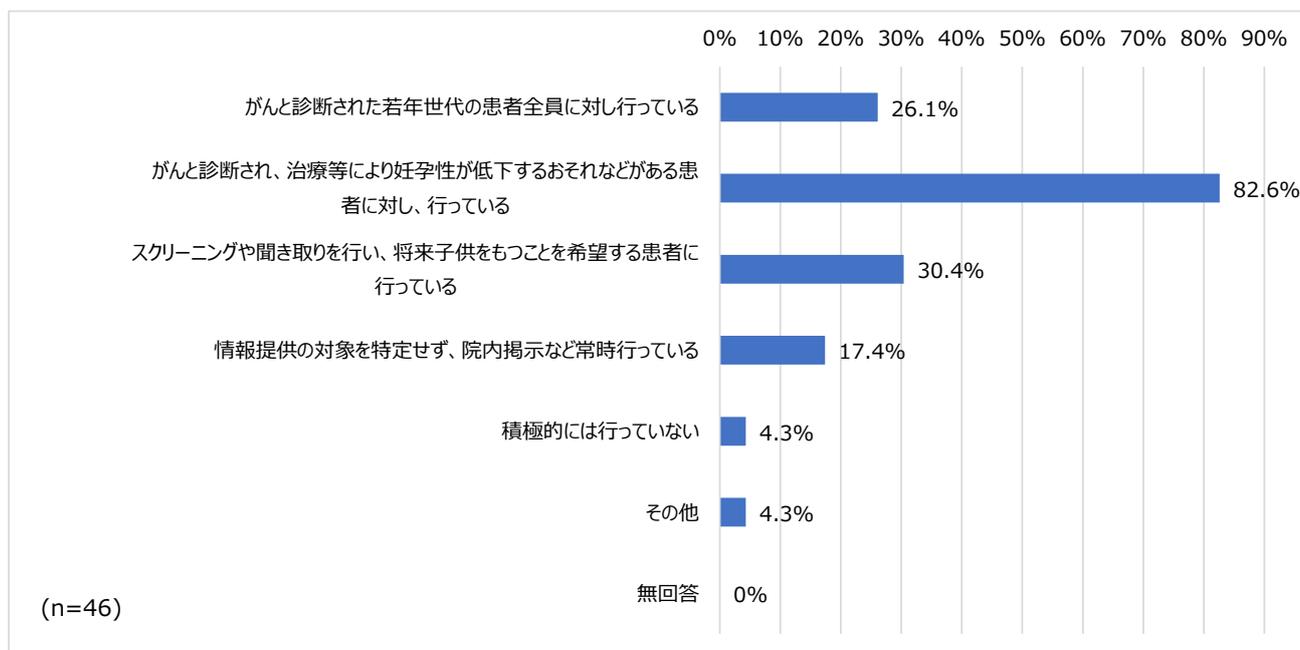
A Y A世代がん患者へのがん・生殖医療について

図表 21 がん患者等へのがん・生殖医療に関する情報提供の実施主体【指定・認定状況別】

【A1-2 問 13 再掲】



図表 22 がん患者等へのがん・生殖医療に関する情報提供の対象者・提供方法【A1-2 問 14 再掲】

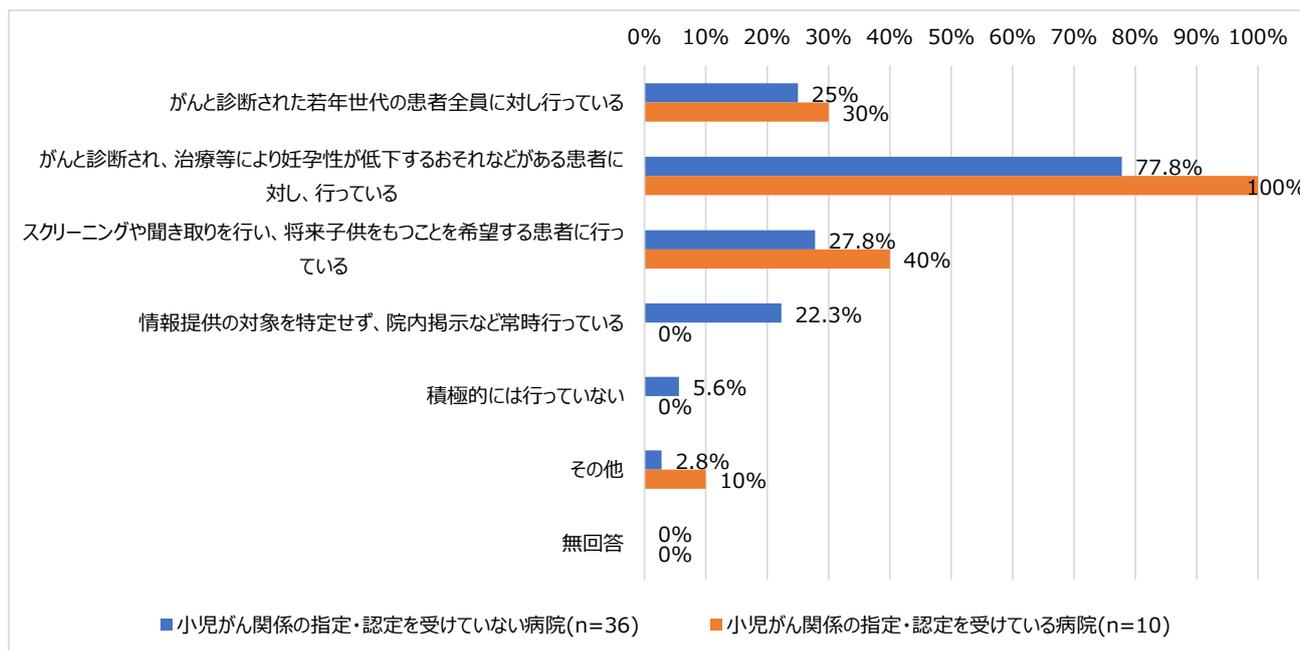


第3章 課題の整理

A Y A 世代がん患者へのがん・生殖医療について

図表 23 がん患者等へのがん・生殖医療に関する情報提供の対象者・提供方法【指定・認定状況別】

【A1-2 問 14 再掲】



第3章 課題の整理

AYA世代がん患者へのがん・生殖医療について

③ 意思決定支援

現状

＜がん患者等へのがん・生殖医療に関する意思決定支援の実施主体＞【図表 17、図表 18】

指定病院全体においては、がん患者等へのがん・生殖医療に関する意思決定支援の実施主体は、「がん治療医」が 65.2%と最も多く、次いで「がん相談支援センターの相談員（看護師、MSW等）が対応する」が 43.5%であった。

小児がん関係の指定を受けている病院に限って見た場合も「がん治療医」が 90%と最も多く、次いで「生殖医療医」が 80%であった。

＜がん患者等へのがん・生殖医療に関する意思決定支援を行っていない理由＞【図表 19】

意思決定支援を行っていない場合の未実施理由は、「がん・生殖医療に関するニーズがない」が 100%であった。

課題

＜がん患者等へのがん・生殖医療に関する意思決定支援の実施主体＞【図表 17、図表 18】

小児がん関係の指定を受けている病院とそれ以外の病院において、各選択肢の回答率に差が生じていることから、小児がん関係の指定を受けていない病院において、がん・生殖医療に関する意思決定支援が十分にできていない可能性が示唆された。

今後検討すべき論点

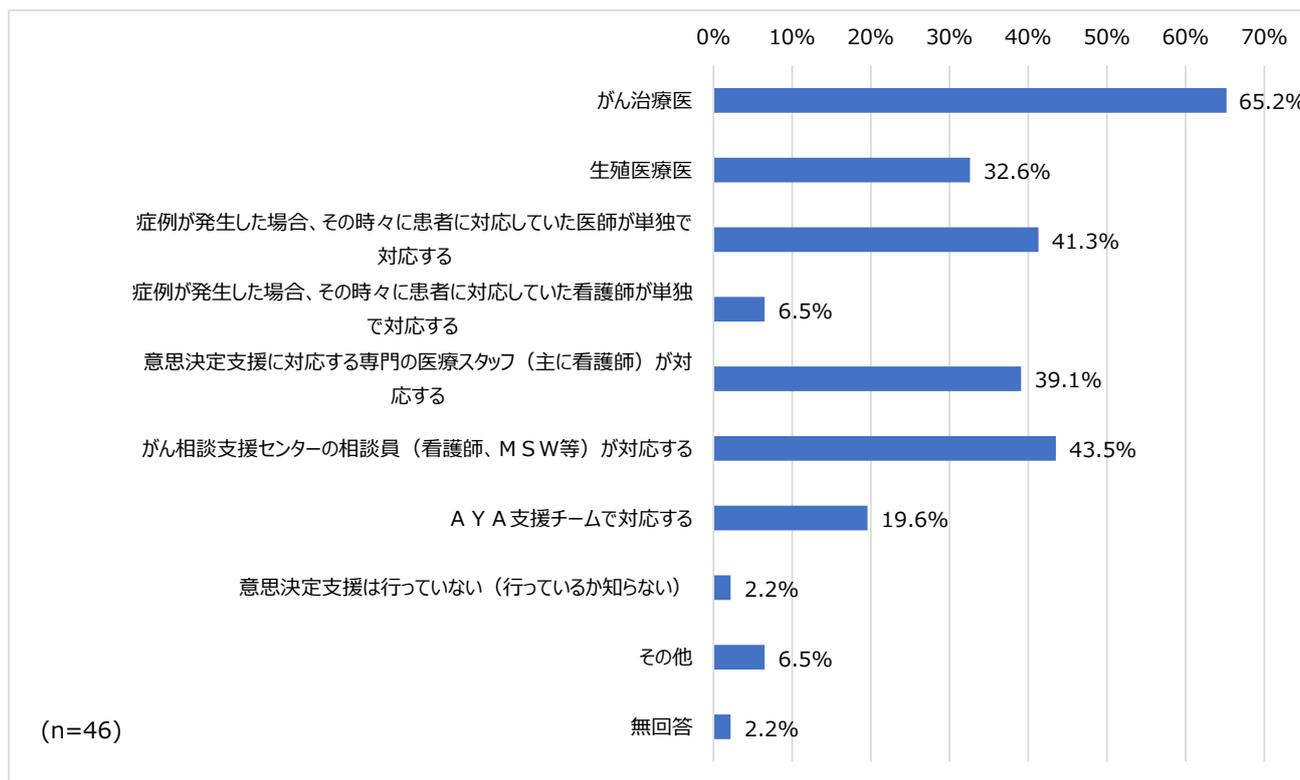
＜がん患者等へのがん・生殖医療に関する意思決定支援の実施主体＞【図表 17、図表 18】

小児がん関係の指定を受けていない病院において、がん治療医・生殖医療医によるがん・生殖医療に関する意思決定支援が十分にできていない可能性が示唆されたことから、がん・生殖医療に関する意思決定支援ができない理由を明らかにし、具体的な対応策を検討していく必要がある。

第3章 課題の整理

A Y A世代がん患者へのがん・生殖医療について

図表 17 がん患者等へのがん・生殖医療に関する意思決定支援の実施主体【A1-2問 11再掲】

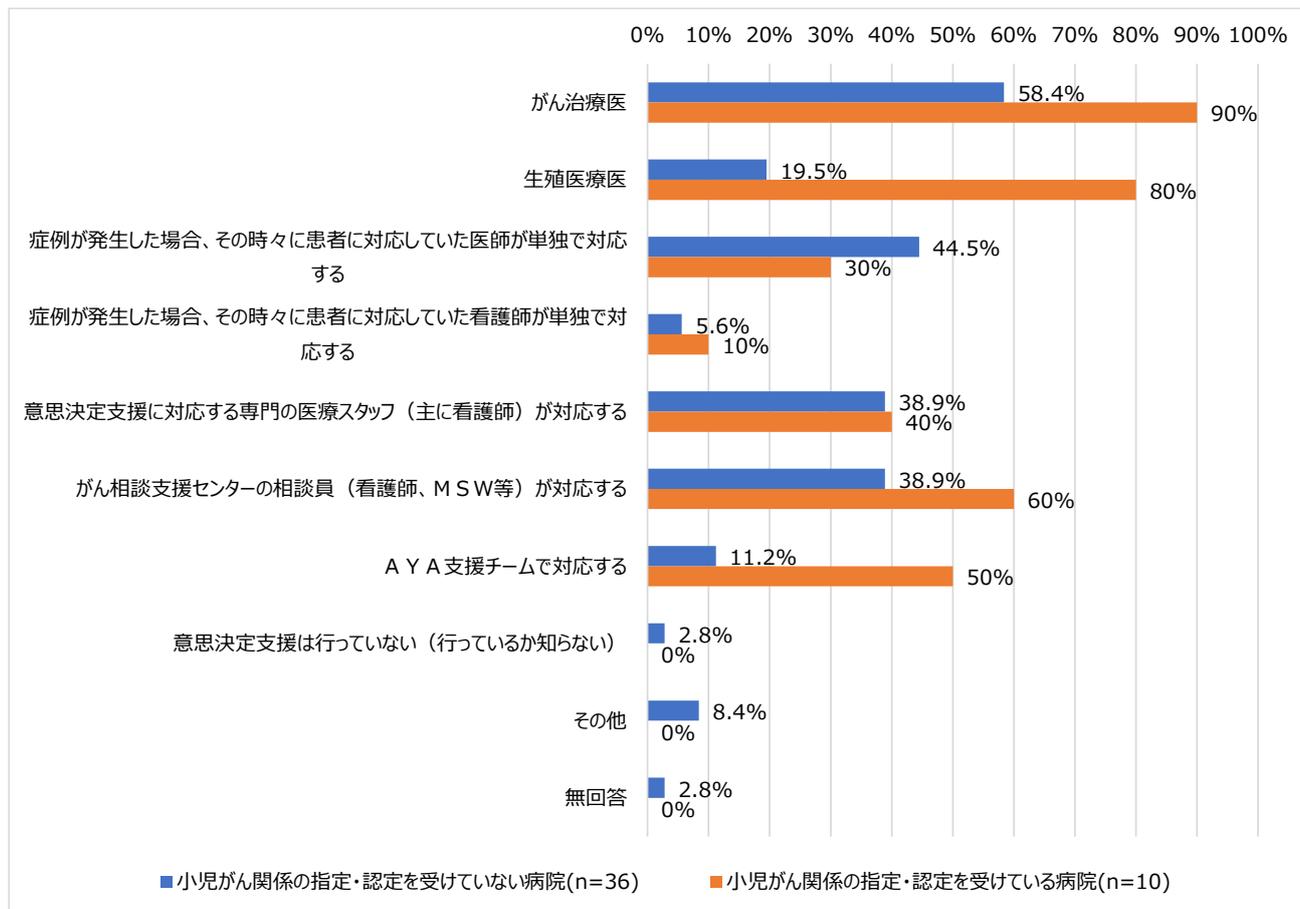


第3章 課題の整理

AYA世代がん患者へのがん・生殖医療について

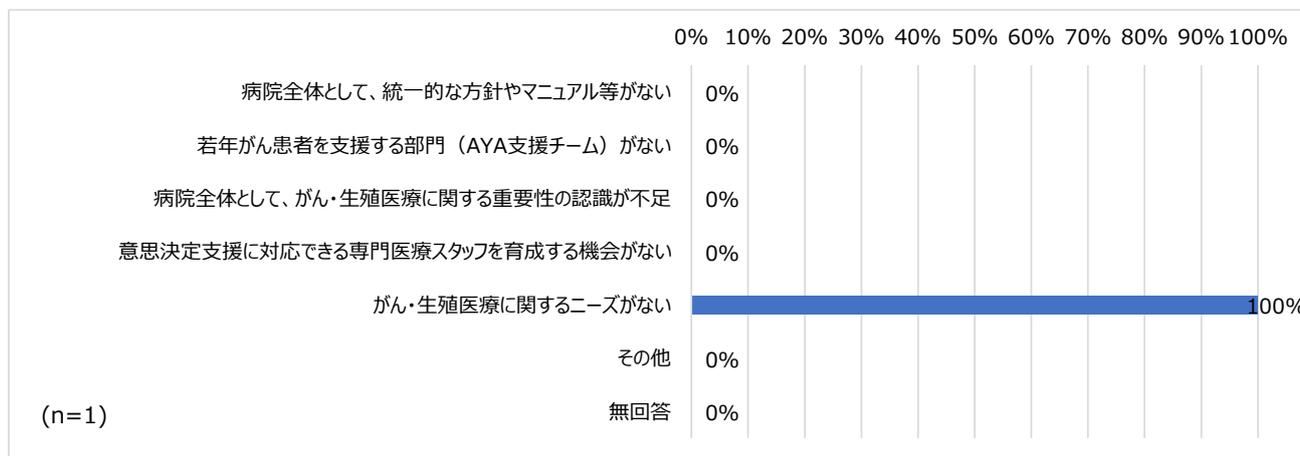
図表 18 がん患者等へのがん・生殖医療に関する意思決定支援の実施主体【指定・認定状況別】

【A1-2 問 11 再掲】



図表 19 がん患者等へのがん・生殖医療に関する意思決定支援を行っていない理由

【A1-2 問 12 再掲】



第3章 課題の整理

A Y A世代がん患者へのがん・生殖医療について

④ がん・生殖医療に係る今後必要な取組

現状

生殖機能温存に関して、今後充実させる必要があると考える取組【図表 69】

指定病院においては、「がん・生殖医療に携わる専門の医療スタッフ育成のための研修等の開催」が65.2%と最も多く、次いで「がん・生殖利用に係る専門的な相談に対応できる人員の育成研修等の開催」が63%であった。

一方、生殖機能温存指定医療機関においては、「行政による患者・家族への普及啓発」が80%と最も多く、次いで「行政による医療従事者への普及啓発」「インターネットを活用した、生殖機能の温存に関する情報提供」がそれぞれ60%であった。

課題

生殖機能温存に関して、今後充実させる必要があると考える取組【図表 69】

指定病院・生殖機能温存指定医療機関のいずれにおいても、「がん・生殖医療に携わる専門の医療スタッフ育成のための研修等の開催」や「がん・生殖利用に係る専門的な相談に対応できる人員の育成研修等の開催」に多くの回答が寄せられており、がん・生殖医療に関係するスタッフへの専門知識・スキル等に関する研修が多く求められている現状が判明した。

また、生殖機能温存指定医療機関においては、「行政による患者・家族への普及啓発」「行政による医療従事者への普及啓発」「インターネットを活用した、生殖機能の温存に関する情報提供」等の選択肢に多くの回答があったことから、对患者・家族、対医療従事者ともに、啓発・情報提供に関するニーズが高いことが分かった。

今後検討すべき論点

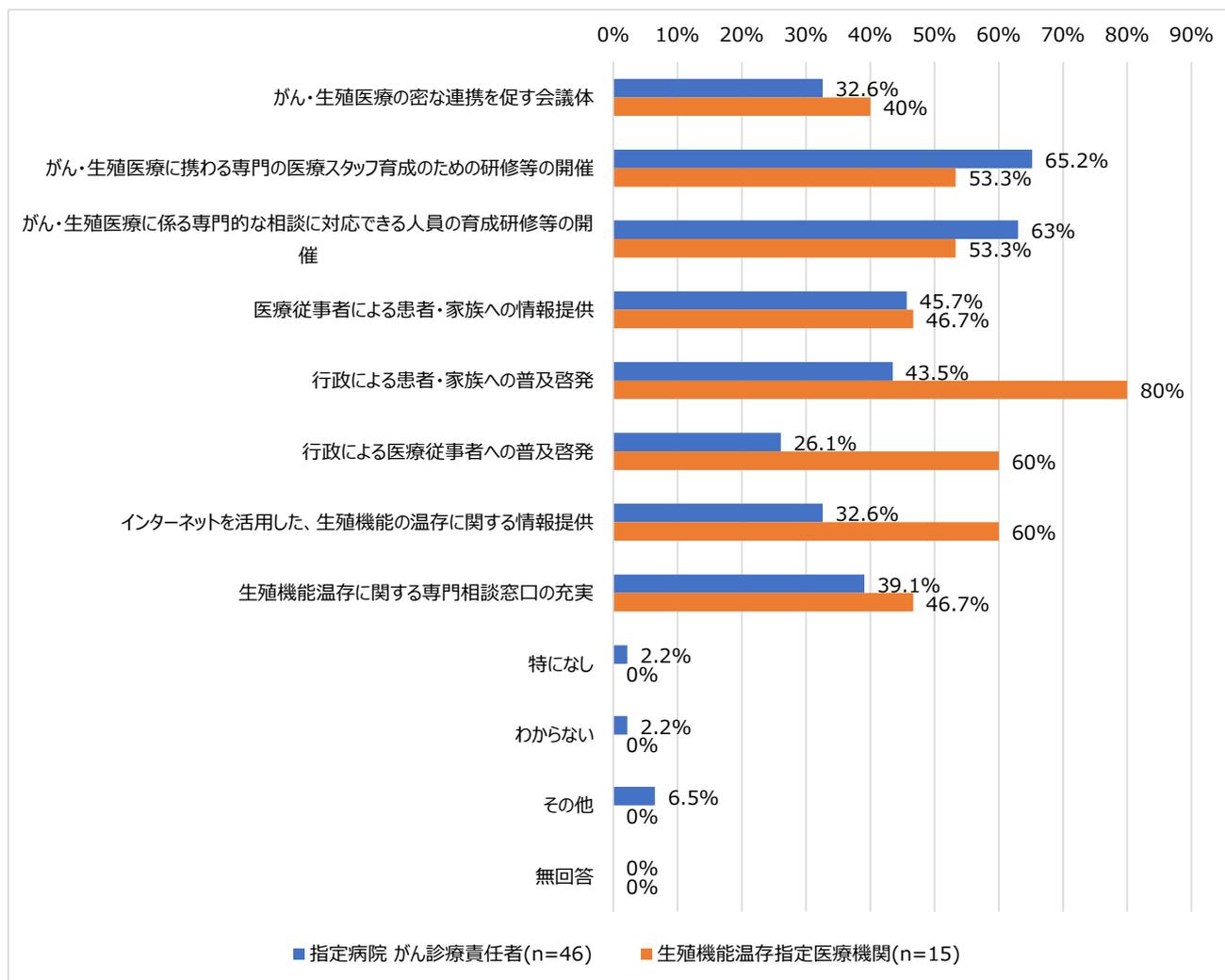
生殖機能温存に関して、今後充実させる必要があると考える取組【図表 69】

がん・生殖医療に関係するスタッフへの専門知識・スキル等に関する研修や普及啓発が多く求められている現状を踏まえ、取り組みを検討する必要がある。

第3章 課題の整理

A Y A世代がん患者へのがん・生殖医療について

図表 69 生殖機能温存に関して、今後充実させる必要があると考える取組【A1-2問16、F1問1】



No.	カテゴリ	A1-2		F1	
		件数	(全体)%	件数	(全体)%
1	がん・生殖医療の密な連携を促す会議体	15	32.6%	6	40%
2	がん・生殖医療に携わる専門の医療スタッフ育成のための研修等の開催	30	65.2%	8	53.3%
3	がん・生殖医療に係る専門的な相談に対応できる人員の育成研修等の開催	29	63%	8	53.3%
4	医療従事者による患者・家族への情報提供	21	45.7%	7	46.7%
5	行政による患者・家族への普及啓発	20	43.5%	12	80%
6	行政による医療従事者への普及啓発	12	26.1%	9	60%
7	インターネットを活用した、生殖機能の温存に関する情報提供	15	32.6%	9	60%
8	生殖機能温存に関する専門相談窓口の充実	18	39.1%	7	46.7%
9	特になし	1	2.2%	0	0%
10	わからない	1	2.2%	0	0%
11	その他	3	6.5%	0	0%
	無回答	0	0%	0	0%
	N (%^ -入)	n=46	100%	n=15	100%